

京 都 大 学

# 結核胸部疾患研究所年報

昭 和 5 9 年 度

(1 9 8 5 年 3 月)

京都大学結核胸部疾患研究所

# 京 都 大 学

## 結 核 胸 部 疾 患 研 究 所 年 報

昭 和 5 9 年 度

(1 9 8 4 年)

---

### 京都大学結核胸部疾患研究所職員

---

(昭和60年5月1日現在)

所 長 教 授 佐 川 弥之助

(内科学第一部門)

主任教授：久世文幸，助教授：川合 満，講師：倉沢卓也，助手：西山秀樹，山本孝吉，網谷良一，村山尚子，  
講師(非常勤)：今井節朗，中井 準，吉見輝也，河野博臣，岩田猛邦，辻野博之，中西通泰，技官：本間トキエ，  
技術補佐員：片岡和美

(内科学第二部門)

主任教授：大島駿作，助教授：泉 孝英，講師：門 政男，助手：北市正則，松井祐佐公，平田健雄，講師(非  
非常勤)：日置辰一郎，中島道郎，佐藤篤彦，杉本幾久雄，北 徹  
技官：今井保代，技能補佐員：谷岡文子，曾根千雅，奥田敦子

(胸部外科学部門)

主任教授：人見滋樹，助教授：伊藤元彦，講師：和田洋巳，助手：光岡明夫，田村康一，青木 稔，講師(非常  
勤)：吉栖正之，秋山文弥，日野常稔，宮田暉夫，香川輝正，岡田慶夫，草川 実  
技官：平井 要，技能補佐員：高 淳恵，佐久間裕

(病理学部門)

主任教授：竹田俊男，助教授：鈴木康弘  
助手：細川昌則，樋口京一，講師(非常勤)：三井洋司，馬場満男，江崎孝三郎，里内 清  
技官：松下隆寿，小岸久美子，岩井昭一，技能補佐員：門田一美

(細菌血清学部門)

主任教授：桂 義元，助教授：細野正道，助手：喜納辰夫，講師(非常勤)：徳永 徹，湊 長博，佐渡敏彦  
技官：清水一技，技能補佐員：高沖悠子

(細胞化学部門)

主任教授：市川康夫，助教授：大川欣一  
講師：永田和宏，助手：前田道之，堀内正宏  
講師(非常勤)：穂積本男，矢原一郎  
技官：島田道子，事務補佐員：坪田晴子

**(臨床肺生理学部門)**

主任教授：佐川弥之助，助教授：久野健志，佐藤公彦，講師：大井元晴，助手：李 勝弘，講師(非常勤)：山林一，仲田 裕，山田久和，大田和夫，中川正清，加藤幹夫，技能補佐員：服部央子，石田嘉子

**(事務部)**

事務部長：小林久雄，管理課長：谷沢 充，庶務掛長：中谷 章，同主任：生駒時秀，同事務官：野田芳子，乾和巳，渡辺光子，水原貞子，事務補佐員：杉山智美，田中裕子，經理掛長，佐野重信，同主任：野元頼子，同事務官：佐藤良男，畑 勝，北野和男，梅田二郎，事務補佐員：中瀬安子，施設掛長：谷 泰雄，同技官：進士悟，松浦 康，藤木清文，小西喜一郎，業務課長：勝谷 武，医事掛長：千葉修也，同事務官：佐竹セツ，沢田佳也，田村長生，殿崎雅弘，久富文志，同技官：竹内孝子，同事務補佐員：集治昌代，中村房枝，土井弘子，大谷小百合，二塚敬子，収入掛長：石井利和，同事務官：藤井芳克，関 保子，同事務補佐員：多田真由美

**(附属感染免疫動物実験施設)**

施設長(兼)教授：桂 義元，助教授：西川伸一，技官：飛田 勇，安岡倉一，大字雪雄，近藤照子

**(電子顕微鏡室)**

技官：増田 稔

**(附属病院)**

病院長(兼)教授：大島駿作

**(第一内科診療科)**

科 長(兼)教授：久世文幸，外来医長(兼)助教授 川合 満，病棟医長(兼)講師：倉澤卓也，医員：(研修医)岡崎美樹，加藤元一，久保喜朗

**(第二内科診療科)**

科 長(兼)教授：大島駿作，外来医長(兼)助教授：泉 孝英，病棟医長(兼)講師：門 政男，医員：長井苑子，(研修医)三尾直士

**(外科診療科)**

科 長(兼)教授：人見滋樹，外来医長(兼)助教授 伊藤元彦，病棟医長(兼)講師：和田洋巳，研修医：平田敏樹・吉谷 誠

**(理学呼吸器科診療科)**

科 長(兼)教授：佐川弥之助，外来医長(兼)助教授：佐藤公彦，病棟医長(兼)講師：大井元晴，医員：奥井克治，栗山隆信，鎌苅邦彦，振津知哲，(研修医)竹内 亮，藤田葉子，越久仁敬，

**(検査部)**

検査部長，助教授：木野稔也，技師長：木津 啓，技官：前田清子，黒住真史，春名和代，岡部好恵，山根すま子，技術補佐員：林すみ子，森下園子，宮野和子，田中佐和子

**(放射線部)**

放射線部長(兼)助教授：久野健志，技師長：浜川純一，技官：藏岡信良，大坂泰夫，曾我部康之，灘井智代子，田中籠蔵，技能補佐員：小林 忍，村上裕子

**(麻醉部)**

麻醉部長(兼)助教授：伊藤元彦

**(輸血部)**

輸血部長(兼)助教授：佐藤公彦

**(手術部)**

手術部長(兼)教授：人見滋樹

**(材料部)**

材料部長(兼)助教授：伊藤元彦

**(薬剤部)**

薬剤部長：千熊正彦，薬剤主任：沢岡平和，技官：藤原壽子，小林千代子，川田昌子，川勝一雄，薬剤師：中島

英一，事務補佐員：芦田明子

（看護部）

看護部長：平野照子，看護部長：小林とよ，松田比佐子，和多田すみ子，西森三保子，副看護部長：山本喜美，丘 恵子，斎藤千鶴子，技官：大山峯子，小林裕子，稲田ひろ子，山中祥子，柴田佐代子，松本敏枝，藤井喜代子，福田千恵子，末田恵子，後藤公美子，濃野ヒロ子，岩佐純子，松原千里，川中マスコ，今西美千乃，小林富貴子，阿部喜代子，相川三千代，寺戸美枝子，山西順子，梅田正子，田尻春代，榊 喜久子，高橋わさ子，北川繁子，小林梅野，永利明美，渡部幸子，安藤純子，水上絹子，荻田孝子，三宅重子，平畑早苗，内藤敏子，米沢カヨ子，松田初枝，村西直美，稲垣美智子，湯浅里恵，園田正子，坂東フサエ，衛藤泰子，滝野清子，谷内かおり，小畑活世，玄 真利子，田中悦子，若村智子，久保田京子，原田芳香，能井美千代，内木カネ子，森 朝子，片桐久江，山道美津子，宮本久子，渡辺ヒデ子，技能補佐員：実光光恵，松本不二，曾我部京子，秋里 梢，田中綾子，舟橋岳示

---

教 官 人 事

---

内科学第一部門 川 合 満 助 教 授

昭和60年3月中西通泰助教授の後任として川合 満氏が内科第一部門の助教授として就任した。川合氏は昭和31年京都大学医学部卒業、一年のインターンののち昭和32年6月京都大学結核研究部副手として研究生活を開始し、昭和40年7月本部門助手をへて昭和46年4月京都大学講師（結核胸部疾患研究部）に就任し今回の昇任に至った。川合助教授は数年間の結核化学療法の研究，ことに実験結核症を用いた化学療法術式の検索で多くの業績をあげた後，近年の大気汚染にも関係し，極めて重要な研究課題となっている喘息に取り組み，最も臨床的な課題である喘息の治療の研究を一途に進めている。中でもステロイドの作用機序，テオフィリン系薬剤の体内動態の研究などが主要な研究業績である。最近では気道分泌液の病態生理についても精力的な研究がみられ，干涉低周波の治療への応用など臨床家としての氏の面目は躍如たるものがある。

温厚で親切な人柄を反映してか，氏の担当している喘息外来にはいつも多数の患者さんが詰めかけている。一つ一つの事柄を着実に遂行して行くのが氏のモットーである。

京都府医師会の公害対策委員会委員の歴任をはじめ医師会の講演などにも積極的に協力するかたわら，国内外の学会（国際アレルギー学会，国際喘息会議等）でも活躍している。今後の氏の研究が広い臨床の場に貢献して行くことを心から期待している。

（久世 文幸）

内科学第一部門 倉 澤 卓 也 講 師

川合 満講師の後任として昭和60年3月，倉澤卓也君が本部門の講師として就任した。

同君は昭和47年9月京都大学医学部卒業後，本研究所で2年間の研修医勤務の後，4年近く天理よろず相談所病院呼吸器科内科医員として臨床経験を積み，昭和53年6月より本部門の助手に任命され，今回の昇任迄，巾広く臨床研究に従事して来た。ことに気管支系検査の手技を生かした診断に関する分野で，肺癌，気管支結核症等の検等を積み重ね，ことに気管支結核症例の集積では余人に及ばぬものがある。今後持前の指導力で本部門の臨床の発展に貢献する所大なるものがあると信じている。

（久世 文幸）

内科学第一部門 網 谷 良 一 助 手

福井県出身，昭和50年3月京都大学医学部卒業，本研究所附属病院で2年間の研修医を経た後，天理よろず相

談所病院呼吸器内科医員として7年間勤務した後、昭和59年7月1日本部門助手に任命された。天理病院勤務中よりびまん性肺疾患の臨床、中でも気道病変の分野が同君の研究の中心であり、同病院で共同開発された liquid-filled alveolography (LFA) の検討を続けると共に、気道上皮の線毛運動の解析に取り組んでいる。真面目な精力的な研究者であり、ますますの健斗を祈っている。  
(久世 文幸)

内科学第一部門 村山尚子 助手

徳島県出身。昭和55年3月京都大学医学部卒業。本研究所附属病院での研修医、医員(3年)を経て昭和60年3月1日内科学第一部門助手に任命された。現在の研究領域は好中球、マクロファージの殺菌能に関する分野である。dual phagocyte system としての両細胞の相互作用の解明が当面目差す所であるとの印象をうける。同君の研究が生体の場での感染症制圧の機構解明に貢献する日が来ると信じている。健斗を祈る。(久世 文幸)

臨床検査部 木野稔也 助教授

昭和41年3月京大医学部卒。昭和42年12月本研究所助手、昭和46年6月から2年間米国、バッファローに在るニューヨーク州立大学病理学教室(Cudkowicz 教授)に留学。昭和50年1月医学博士。昭和55年8月内科学第二診療科講師。研究領域は呼吸器内科学、特に臨床免疫学。業績としては“昆虫アレルギー”、“気管支喘息”、“PIE症候群およびアレルギー性気管支肺アスペルギルス症”などに関する多数の論文がある。昭和59年4月臨床検査部助教授に任命された。

奈良県の出身で、二児の父。性格は温和であるが研究意欲はきわめて旺盛。これからの臨床検査部長としての活躍を期待したい。  
(大 島)

病理学部門 樋口京一 助手

昭和53年京都大学農学部畜産学科卒業。直ちに同修士課程に入学。さらに昭和55年より京都大学大学院医学研究科入学、大学院の期間に行った老化促進モデルマウスに沈着する老化アミロイドの免疫組織化学的研究および血清中老化アミロイド共通抗原性物質の精製と特性に関する研究に対し医学博士が授与され、昭和59年4月1日付にて病理学部門助手に授用された。現在、樋口君を中心として行われている老化アミロイドに関する研究は、いよいよ佳境に入ってきており、老化アミロイド蛋白およびその血清中前駆物質の一次構造決定も間近く、またこれを基礎にしてアミロイド遺伝子構造究明への糸口が得られつつある。これらの研究は、これまで全く不明であった老化アミロイドーシスの発症機序、老化とアミロイド症との関連等の解明に大きく貢献するものと思われる。今後の更なる大飛躍を祈るや切である。

大学院在学中に当時臨床病理の医員として研究中であった旧姓戸田佳代子さんとのロマンスは知る人ぞ知るで、学者夫婦としての今後の活躍も皆の期待と注目を集めている。  
(竹田 俊男)

胸部外科学部門 青木 稔 助手

昭和51年京大医学部を卒業し、直ちに本研究所の胸部外科学部に研修医として入局、52年4月1日から54年3月31日まで長尾病院に勤務。54年4月1日から4年間本学大学院博士課程にて学ぶ。58年4月1日から60年3月31日まで京都桂病院呼吸器センターにて胸部外科を専攻し、60年4月1日付けで胸部外科学部門助手に任命された。温かい人柄は誰からも親しまれ、その誠実さにより皆の信頼をえている。教室に新風を吹き込んでくれるものと期待している。  
(人見 滋樹)

---

## 学術集会記録

---

### 昭和59年度 京大胸部研学術講演会抄録（教授就任講演）

#### 1. 教授就任講演 抗酸菌の臨床細菌学

内科学第一部門 久世文幸

*Mycobacterium tuberculosis* を原因菌とする結核症が RFP と INH を主軸とする強力な化学療法の導入によって臨床的に制御可能な感染症になったことは極めてよろこばしいことである。欧米先進諸国と比較したときの罹患率、死亡率の減少の遅れ、持続排菌患者の問題など解決すべき問題は残されているが、本症の治療に画期的な進歩がもたらされ本症についての臨床上の問題点の多くが解決されたのは事実である。

最近の感染症全般にわたる問題点として、原因菌の多様化と compromised host に対する感染（日和見感染）の増加に軌を一にして、抗酸菌感染症の分野でも、毒力の弱い、あるいは従来非病原性とされて来た菌種（非定型抗酸菌, AM）による感染症が増加している。本研究所属病院における過去10年間の抗酸菌分離件数にもこの傾向は明らかで、現在では全抗酸菌分離数の30~40%が時に AM で占められている。これら弱毒の AM が気道に集落化する何らかの環境要因の増加が示唆される。また従来本邦では AM 症の主たる原因菌は *M. intracellulare* と *M. kansasii* であったものが、最近数年間他の数種の AM が本邦における AM 症の原因菌として確認され、本研究においても *M. nonchromogenicum complex* による稀な感染症を経験した。さらに従来からみられた *M. kansasii* 症が最近急激に増加していることも忘れてはならない。これら抗酸菌症の変貌に対処するため抗酸菌の臨床細菌学的鑑別同定の手技も確立されつつあるが、なお2, 3の問題を残しており、中でも現行ナイアシネスト手技の改良がまず必要であろう。さらに高度の鑑別、同定を実施し得る Reference Laboratory の設置も必要であろう。

現在の AM 症に関する臨床研究の課題として最重要なものは諸種 AM 症の治療術式の確立であると考えられる。特に本邦の AM 症の90%前後を占める *M. intracellulare* 症は諸種の抗菌薬に抵抗し、重症例の死亡も増加している。検討の順序として諸種薬剤の *in vitro* 抗菌力の観察が必要であるが、結核菌とことなり、2, 3の注意事項がある。*M. intracellulare* においては、ことに人工培地上に継代をくり返した場合、同一菌株中に薬剤感受性のことなるクローンの出現がみられることである。AM 症患者から分離された直後の菌株には、薬剤抵抗性の大きい単一のクローンがみられることが多いが、人工培地で継代をくり返すと、(1)薬剤 (KM, RFP など) に比較的感受性のあるクローンが出現する。(2)CMG (cornmeal glycerol agar) 培地上でこれらのクローンは集落形態がことなり、比較的容易に1菌株から多種クローンの分別が可能である。(3)薬剤感受性の上昇したクローンは同時に毒力が弱まる傾向にある。などの現象がみられる。これらの現象は、一般細菌でみられる細胞質内遺伝子（プラスミッド）が本菌にも存在する可能性を示唆している。実際的な面で *in vitro* の薬剤抗菌力を検討する場合、以上の諸点により、長期間継代した保存菌株を使用するには注意が必要で、集落形態上、薬剤に対する抵抗性の大きいクローンを分別して使用するか、患者からの新鮮分離株を使用すべきであろう。またこの現象は実験動物感染モデル作成に関しても種々の問題点を提起している。実は本症に有効な薬剤を検定するに際して、勿論 *in vitro* の抗菌力は先づ必要であるが、抗酸菌一般に通ずる特性として、これらの菌が intracellular parasites であるという事実がある。一般細菌（急性化膿菌）とことなり、*in vitro* で有効な抗菌薬が必ずしも *in vitro* で有効性を示すとは言えない。すなわち抗菌薬が有効であるためには細胞内（通常 mononuclear phagocytes 系細胞）においても有効な形で存在し、一定濃度を保つことが必要であるという条件である。時にこの事実が忘れられる傾向があるのは注意すべきだと考えているが、これらの条件を満たすためには、host-parasite-drug の関連系の中で薬剤効果の検定を実施せねばならず、したがって基礎実験で最も要となるのは言うまでもなく *in vivo* での実験系（実験動物感染モデル）ということになる。毒力の弱い *M. intracellulare* の実験動物感染モデルの作成は困難を極めたが、菌株から単一クローンの作成と動物通過などを利用して、3年前本菌のマウス感染モデルの作

成に成功して以来もっぱらこのモデルを用い諸種抗菌薬のスクリーニングを実施しているのが現状である。

現在迄のところ治療実験の結果をまとめると、(1)単独薬剤では KM をはじめとするアミノグリコシッド系薬剤に中等度以上の効果がみとめられる。(2)KM など  $\alpha$  アミノグリコシッドを含む3剤から5剤併用で、in vivo で治療効果の増強がみられる。の2点を見出している。

以上述べて来たごとく、抗酸菌という Genus 全体を考える時、薬剤の効果の解析、病原性の解析、肉芽腫の発生機序を含む解析など、多くの課題ははまだ未解決で、全て今後の研究にかかっている。

2. 教授就任講演 京都大学結核胸部疾患研究所胸部外科部門の関連施設の胸部外科の水準と将来性

胸部外科学部門 人見滋樹

はじめに

当部門の主宰を寺松孝名誉教授から、59年4月1日に継承させて戴いてから約1年が過ぎた。当部門の胸部外科領域における現在の水準と将来性を、関連施設を含めて検討し部門発展の基礎としたいと考え、教授就任講演に上記テーマを選んだ。

表1 京大胸部研胸部外科関連病院( )責任者

|                |                     |
|----------------|---------------------|
| 呼吸器外科          |                     |
| 天理よろず相談所病院     | 胸部外科(北野司久)          |
| 宇多野病院          | 外科(生嶋宏彦)            |
| 京大胸部研          | 胸部外科(人見滋樹)          |
| 北野病院           | 胸部外科(乳腺外科を含む)(倉田昌彦) |
| 国療沖繩病院         | 外科(源河圭一郎)           |
| 呼吸器科(外科+内科)    |                     |
| 市立島田市民病院       | 呼吸器科(カレッド・レシャード)    |
| 福井日赤           | 呼吸器科(高嶋義光)          |
| 市立舞鶴市民病院       | 呼吸器科(松村理司)          |
| ヴォーリス記念病院      | (大道重夫)              |
| 健保滋賀病院         | 呼吸器センター(外村聖一, 松延政一) |
| 国療比良病院         | (安淵義男)              |
| 京都市立病院         | 呼吸器科(岡田英彦)          |
| 京都桂病院          | 呼吸器センター(池田貞雄, 船津武志) |
| 関西電力病院         | 呼吸器科(桑原正喜)          |
| 兵庫中央病院         | 呼吸器科(寺松 孝, 立石昭三)    |
| 神戸市立玉津病院       | 呼吸器科(石井昌生)          |
| 倉敷中央病院         | 呼吸器科(玉田二郎)          |
| 長尾病院           | 呼吸器科(山本博昭)          |
| 国療千石荘病院        | (平川公義)              |
| 呼吸器外科+心臓外科     |                     |
| 市立静岡病院         | 胸部心臓血管外科(秋山文弥)      |
| 国療岐阜病院         | 外科(小林君美, 伊東政敏)      |
| 高知市民病院         | 胸部心臓血管外科(宮本信昭)      |
| 沖繩協同病院         | 心臓外科(当山真人)          |
| 地域医療を中心とした一般病院 |                     |
| 高浜病院           | (青木幸平)              |
| 堅田病院           | (木下修二郎)             |
| 国療紫香楽病院        | (永井 彰)              |
| 明石通信病院         | (小野 孝)              |
|                | (順不同)               |

## 1) 関連施設

当部門関連施設の御了解と御協力をえて、当部門の胸部外科学の現況と将来性を検討した。表1は関連施設とその責任者を示している。責任者は全員が当部門出身者である。東は静岡から南は沖縄まで胸部外科を施行している施設は26ヶ所であり、これに京大胸部研を加えた27施設の成績をもとに検討した。これら27施設を専門分野別に分類すると、表1でみられる如く、4群に分けることが出来る。即ち、1)呼吸器外科、2)呼吸器科として外科も内科も診療する、3)呼吸器外科と心臓大血管外科の双方を行なっている、4)一般病院として地域医療の中核をなしている、以上の4群である

## 2) 手術症例数とその内訳

昭和58年と59年に前述の諸施設で行なわれた手術例数とその内訳を表2にまとめた。肺癌の切除が年間平均442例、縦隔腫瘍が100例、結核が203例、自然気胸が287例などが主なもので、呼吸器外科の総計は年間平均1388例である。一方、心臓・大血管の外科は年間平均529例であり、呼吸器外科と心臓外科の総計は、年間平均1928例である。

## 3) 悪性腫瘍に対する根治性の向上と機能温存を求めた手術

肺癌をはじめとする胸部悪性腫瘍の根治性を高めるための拡大手術の限理をめざして、我々胸部外科医は創意工夫を重ね修練を積んでいる。癌浸潤のある周囲臓器合併切除としては Pancoast 肺癌をはじめとする胸壁合併切除、胸椎合併切除、上大静脈・右房・左房・大動脈等の切除、気管や気管分岐部切除術がある。肺癌の根治性と機能温存を計る手術として、気管、気管支形成術、肺動脈分節切除術が行なわれている。

人工気管、人工血管、代用胸壁を用いての実験成績や臨床成績も積み重ねられている。

表2 京大胸部研胸部外科関連施設手術症例数

|                       | 58年     | 59年  | 2年間の平均 |     |
|-----------------------|---------|------|--------|-----|
| 肺 癌                   | 418     | 466  | 442    |     |
| 転移性腫瘍                 | 29      | 42   | 36     |     |
| 肺良性腫瘍                 | 25      | 20   | 23     |     |
| 縦隔腫瘍                  | 110     | 90   | 100    |     |
| 胸壁・肋骨腫瘍               | 26      | 14   | 20     |     |
| 気管悪性腫瘍<br>(含浸潤性甲状腺腫瘍) | 7       | 11   | 9      |     |
| 結核・膿胸・感染症             | 196     | 210  | 203    |     |
| 気管支拡張症                | 1       | 0    | 0.5    |     |
| 自然気胸・巨大肺のう胞           | 302     | 272  | 287    |     |
| 開胸肺生検                 | 20      | 30   | 25     |     |
| 縦隔鏡検査                 | 76      | 99   | 88     |     |
| 胸部外傷                  | 10      | 7    | 9      |     |
| 肺内異物                  | 0       | 1    | 0.5    |     |
| 先天性                   | 変形胸郭矯正術 | 52   | 42     | 47  |
|                       | 気管食道瘻   | 1    | 1      | 1   |
|                       | 肺分画症    | 1    | 2      | 1.5 |
|                       | 横隔膜ヘルニア | 2    | 1      | 1.5 |
| 乳 癌                   | 50      | 81   | 65     |     |
| 食道癌                   | 3       | 5    | 4      |     |
| その他                   | 33      | 41   | 37     |     |
| 呼吸器外科の小計              | 1362    | 1413 | 1388   |     |
| 心臓・大血管                | 543     | 515  | 529    |     |
| 胸部外科合計                | 1905    | 1950 | 1928   |     |

表3 胸部外科部門の課題

|     |  |
|-----|--|
| I   | 切除外科の練磨と成績の向上 (腫瘍, 炎症, 外傷, 奇形)               |
| II  | 再建外科と新しい呼吸管理法の開発                             |
| III | 移植 (肺, 心肺同時)                                 |
|     | 解 決 法  |
| 1   | 先達からの伝統の伝承と現役の創意工夫                           |
| 2   | 集学的治療の促進                                     |
| 3   | 関連病院間の交流=切磋琢磨と共同研究=人の和                       |
| 4   | 国際的比判に耐えられるデータの整理=コンピュータ化                    |
| 5   | 胸部研の他部門, 医用高分子研究センター, 京大医学部,<br>および他学部との共同研究 |
| 7   | 他の大学や研究施設との研究の交流                             |
| 8   | 外国留学の推進                                      |

これらはいずれも多年にわたる修練を要する外科的手技であるが、当部門関連施設ではこれらの手術が多数例行なわれている。

#### 4) 胸部外科部門の課題と将来性

我々の課題と将来性については、表3に示した3点をあげたい。世界の趨勢は呼吸不全患者に対しては、心肺同時移植を行なう方向である。この点で我国は完全に立ち遅れているが、表3の後半にあげた解決法で一步步前進し、新分野を開拓していく決意である。各方面の方々の御協力と御鞭撻を切望して止まない。

終りに臨み、胸部外科医の心構えについて一言述べたい。胸部外科医は生命に直結した major surgery であり、手術に際しては患者から生命を完全に委ねられている。常に謙虚な気持ちで勉学に励げみ、祈りを込めて執刀すべきであると信じる。

### 3. 成人T細胞白血病 (ATL) における IL-2 レセプターの発現異常

細胞化学部 前田道之

成人T細胞白血病 (ATL) は1974年頃からその存在が認識されるようになり、1977年頃に高月、淀井、内山らにより新しい疾患概念として提唱された。1980年に Gallo らにより分離されたヒト由来のC型レトロウイルス (HTLV) が日沼・三好・吉田らにより本邦南西部に地域的な集中発生がみられる ATL の起因ウイルスである事が明確になってきた事により大きな注目をあびるようになった。ATL の発生数は毎年数百人と推定されているが、その背後に数十万人ともいわれている HTLV の健康保有者が存在するのではないかと推定されている。HTLV の感染経路・感染から発病に到る過程についても膨大な研究にもかかわらず多くの疑問点が残されている。

我々は ATL 患者の白血病細胞の増殖特性を明らかにするために ATL よりT細胞をT細胞増殖因子 (IL-2; TCGF) を用いて選択的に増殖させる事を試みた。当初 IL-2 の入手に大きな困難があったがヒト脾細胞の培養により高活性の IL-2 が産生される事を見出し一つの問題点は解決された。ATL 患者末梢血から IL-2 を加えて培養する事によりほぼ全例比較的容易に白血病細胞と同様な表面形質 (ヘルパー型T細胞; OKT-4<sup>+</sup>) を示すT細胞株が得られた。更に HTLV 健康保有者からも高率にT細胞株が得られたが、HTLV(-) の健常人からは安定して増殖するT細胞株は現在までのところ得られていない。樹立されたT細胞株は例外なく HTLV のゲノムを組み込んでいる。即ち HTLV に感染したT細胞のみが安定な増殖を IL-2 存在下で続ける事が明らかとなった。この様にして得られたT細胞株には抗 Tac 抗体により認識される IL-2 レセプターが強く発現されている事が全例において認められた。一方、正常T細胞では IL-2 レセプターが容易に消失し IL-2 に反応しなくなる事も明らかとなってきた。この事から HTLV の感染により IL-2 レセプターが常時強く発現する事により IL-2 に対する反応性が亢進する事がT細胞の異常増殖獲得への過程で重要な役割を果しているものと考えてい

る。事実 ATL に由来する IL-2 依存性の T 細胞株はしばしば IL-2 依存性を離脱しいわゆる in vitro でのトランスフォーメーションとして白血病様の細胞に変化する事が報告されており、我々の樹立した ATL-2 細胞株でも同様の所見が観察されている。HTLV には典型的な癌遺伝子が存在しない事から、如何にして T 細胞が HTLV 感染により悪性増殖能を獲得してくるのかについてはほとんど明らかとなっていない。我々は IL-2 レセプターの発現異常が悪性化での過程で最も重要な要因の一つであると考え、IL-2 レセプターの遺伝子レベルでの発現の制御あるいは異常を明らかにするため IL-2 レセプター遺伝子の単離を試みこれに成功し、この単離遺伝子を用いた研究が進行中である。本研究は淀井（京大免疫研）・内山（京大内科）・本庶（京大医化学）らとの共同研究によるものである。

#### 4. 特発性間質性肺炎と膠原病性間質性肺炎

内科学第二部門 泉 孝 英

びまん性間質性肺炎は、気管支肺胞洗浄液 (BALF) リンパ球のうち、T リンパ球、B リンパ球のいずれがより活性化されているかの所見から、T lymphocyte alveolitis, B lymphocyte alveolitis の二群に大別されることを提唱して来た。特発性間質性肺炎 (IPF), 膠原病性間質性肺炎 (膠原病肺) は B lymphocyte alveolitis に分類されるびまん性間質性線維化肺炎 (DIFP) である。これら DIFP の病態生理、病変の成立機序をより明らかにする目的で、IPF, 膠原病肺症例について BAL を行ない、各種モノクローナル抗体を用いて BALF マクロファージおよび T リンパ球サブセットの検討を行ない以下の成績を得た。

1. DIFP の活動期症例では OKM1<sup>+</sup>, OKIa1<sup>+</sup> マクロファージの増加が認められた。安定期症例では健常人値とほぼ同様であった。

2. T リンパ球サブセットをみると、IPF, PSS 肺, DM 肺では OKT4<sup>+</sup> リンパ球 > OKT8<sup>+</sup> リンパ球であり、SLE 肺, RA 肺, Sjögren 症候群肺, MCTD 肺では OKT8<sup>+</sup> > OKT4<sup>+</sup> であった。なお、Sjögren 症候群に伴う LIP の 1 例では OKT4<sup>+</sup> > OKT8<sup>+</sup> であった。

これらの成績は、疾患の活動度の判定、鑑別診断上有用な所見であるのみでなく、病変の成立機序、病態生理を考察する上での重要な所見であると考えられる。

#### 5. 肺の脂肪過酸化防御機構について

臨床肺生理学部門 佐藤 公彦

不飽和脂肪酸の結果で生成される過酸化脂質は、リン脂質を主体とする生体膜を障害することによって多くの疾患の基本的な反応の起因物質とみられている。このため、生体には脂質過酸化に対する種々の防禦機構が備わっている。なかでも、Superoxide dismutase (SOD), Catalase, Glutathione peroxidase (GSH<sub>px</sub>) の抗過酸化酵素、および Vitamine E の本態である  $\alpha$ -Tocopherol は radical scavenger としてよく知られている。今回の報告は肺での脂質過酸化防禦機構を検討するためのものであった。

3 カ月間  $\alpha$ -Tocopherol 欠乏飼料で飼育したラット (血清  $\alpha$ -Tocopherol  $2.90 \pm 0.46 \mu\text{g}/\text{mg}$  肺  $\alpha$ -Tocopherol  $0.038 \pm 0.003 \text{ ng}/\text{mg}$ , wet weight) は対照群 (血清  $\alpha$ -Tocopherol  $6.39 \pm 0.77 \mu\text{g}/\text{ml}$ , 肺  $\alpha$ -Tocopherol  $0.788 \pm 0.59 \text{ ng}/\text{mg}$ , w. w) に比較して肺の TBA-反応物質は 90.7% 増加した。TBA-反応物質は過酸化脂質の示標であり、 $\alpha$ -Tocopherol 欠乏ラットでは肺の脂質過酸化亢進を示すが、これに対して GSH<sub>px</sub> は 67.5% 減少し、一方 SOD は変動を示さなかった。これらのラットに高濃度酸素曝露 (F<sub>102</sub> 0.96, 24時間) をおこなうと、対照群では、TBA-反応物質が 18.7% 増加し、肺の GSH<sub>px</sub>, SOD 活性はそれぞれ 25.7%, 10.6% 上昇した。

一方、 $\alpha$ -Tocopherol 欠乏ラットに高濃度酸素曝露をおこなうと死亡率が著しく上昇したが TBA-反応物質の増加には変化がみられなかった。また、肺 GSH<sub>px</sub> は 51.3% の増加を示したが SOD の変動はみられなかった。次にこのモデルラットに Paraquat を投与した。Paraquat は一般に農薬として用いられ、酸化還元反応を繰り返す過程で、活性酸素を生成し組織障害をもたらすと考えられている。対照群では Paraquat 投与 (20 mg/kg 腹腔内 24時間) で肺 GSH<sub>px</sub>, SOD はそれぞれ 27.2%, 8.4% 減少し、TBA 反応物質は 44.9% 減少した。この TBA-

反応物質の低下の理由については不明であるが、TBA-反応物質の測定値を肺湿重量によって標準化しているため Paraquat による肺水腫が過小な結果をもたらしていると考えられた。また、in vivo で Paraquat が Malonaldehyde すなわち TBA-反応物質の生成を抑制するという報告もあり興味もたれる。 $\alpha$ -Tocopherol 欠乏ラットに Paraquat を投与すると死亡率が上昇し GSH<sub>PX</sub> はさらに減少 (55.5%) したが SOD は変動を示さなかった。

以上の結果より次のように考察した。SOD は誘導をうけやすい抗過酸化酵素であるが、 $\alpha$ -Tocopherol, TBA-反応物質の変動に無関係であり、その radical 処理能には小さい。一方、GSH<sub>PX</sub> の減少は TBA-反応物質の増加、死亡率の上昇と一致しており、脂質過酸化防御における役割が大きいことが示唆される。

## 6. T細胞の検出と分類

細菌血清学部門 桂 義 元

T細胞は骨髄中の多能血液幹細胞 (P-stem) に由来する。Abramson らの染色体マーカーを利用した研究によって、T細胞に限定された幹細胞 (T-stem) の存在が示唆されている。しかし、T-stem は分離同定されたわけではなく、P-stem からT細胞へ至る分化過程は全く未解明である。我々は、T-stem の存在を明らかにし、その性質を明らかにする目的で研究を行なった。

幹細胞の donor として B10Thy1.1 マウスを、recipient として B6 マウスを用いた。donor 由来T細胞は recipient の胸腺細胞を FITC でラベルした抗 Thy1.1 抗体で処理し、Ortho Spectrum III アナライザーで検出した。一部の実験では beige マウスを donor として granulocyte への分化を、また LPS-nonresponder の B10ScCr マウスを recipient としてB細胞への分化をしらべた。

(1) T-stem 解析系の確立。幹細胞から T 細胞への分化に関する研究は、従来放射線の全身照射を行なった recipient にT細胞マーカーをもつ donor 細胞を移入することによって行なわれてきた。しかし、この実験系は、(a) 仮に T-stem が分離されたとしても T-stem のみを移入したのでは recipient は生存できずT細胞への分化も解析できない。(b) T細胞マーカーのみを見たのでは T-stem と P-stem を区別することができない、という基本的な欠陥がある。我々は部分照射マウスを recipient として解析する方法を開発した。また、T細胞マーカーの他にB細胞と granulocyte のマーカーも用いた。たとえば、片足と尾または胸腺シールドとして照射したマウスに  $1.5 \times 10^7$  個の骨髄細胞を移入すると、胸腺細胞の約50%が donor 由来となる。B細胞、granulocyte についても同様である。種々検討の結果、この系では幹細胞の数をかなり定量的にしらべられることが明らかとなった。幹細胞は donor の胸腺中には全く存在せず、脾臓中にはごくわずかに存在する (骨髄の1/100~1/1000)。

(2) T-stem の存在。全射照射し、B10Thy1.1 マウスの骨髄移入を受けて1週目の B6 マウス (XB-7) では、骨髄は全く T-stem 能がなく、脾臓は強い T-stem 能をもっている。一方、XB-7 の脾臓中にはB細胞と granulocyte の stem は少ないことから、ここに T-stem が多数作られていることが明らかである。

## 7. 食餌条件と老化制御—老化促進モデルマウス (SAM) による実験的研究

病理学部門 河野 篤子

我々が開発した老化促進モデルマウス (SAM) は加齢に伴い、我々が考案した老化度判定基準による老化度評点および新しく発見した老化アミロイド: AS<sub>SAM</sub> の沈着程度が増加することを報告してきた。今回、SAM に対する食餌の制限が老化度評点、老化アミロイド沈着程度および寿命におよぼす影響を観察した。その結果、食餌制限が明らかに促進老化制御の一方法として有効であることが確認されたので報告する。生後4週齢に達した SAM-P/1 および正常老化を示す SAM-R/1 を以下の3群に分け、各々の食餌条件にて実験を開始した。(1)対照群: 25%カゼイン食投与、(2)80%群: 対照群の摂取量の80%を投与、(3)60%群: 対照群の摂取量の60%を投与。これらの食餌はヒトの食事様式に近づけるため、朝・夕夫々1回各2時間の meal feeding とし、水は自由摂取させた。体重は毎週測定し、老化度判定は我々が考案した老化度判定基準に従い、実験開始後2ヶ月毎に行った。各マウスの弊死期を確認し、ほぼ全臓器のパラフィン切片が作成され、その HE、コンゴ赤染色標本を用い病理

組織学的に行った。老化アミロイドの同定は、抗 AS<sub>SAM</sub> 抗血清を用いた PAP 法により、生後 8～12ヶ月の期間に死亡した例を対象として免疫組織化学的に行った。皮膚・肝脾および睾丸の老化アミロイド沈着程度は、画像解析装置 KONTRON MOP-AM03, を用いて沈着部位の面積を測定することで観察された。老化度評点は SAM-R/1, -P/1 共に対照群に比し制限食群で減少し、その程度は60%群で著しかった。-R/1 系では実験開始後 6ヶ月で差が現れ始め、8, 10ヶ月後には、60%, 80%群の値は対照群に比し有意に低値を示した。80%, 60%群間の差はなかった。-P/1 系では、実験開始後 4ヶ月で対照群, 80%群, 60%群の順に値が低くなる傾向が現れ、6ヶ月後には、80%, 60%群共に対照群に比し有意な低値を示した。8ヶ月後には80%群と対照群間の差はなくなったが、対照群と60%群間の差は8, 10ヶ月で有意であった。10ヶ月後の60%群の値は対照群のほぼ 1/2 となり、同月齢の SAM-R/1 系の値とほぼ等しくなった。このことより明らかに老化徴候の抑制がみられた。SAM-P/1 の肝、皮膚および睾丸の老化アミロイド沈着程度は、対照群に比し60%群で有意に減少した。皮膚においてのみ60%群と80%群間の差は有意であった。脾においては60%群は対照的に比し明らかな低値を示したが、有意ではなかった。SAM-P/1 において、60%群は対照群に比し、有意な寿命延長効果があることが確認された。平均寿命において、60%は対照群に比し28.2%の延長を示し、tenth decile ではこの傾向がさらに明らかとなり62.9%の延長をみた。SAM-R/1 においても著明な効果がみられ、60%群は対照群に対し平均寿命で15%, tenth decile では11%の延長を示した。以上、環境因子の中で重要と考えられる食餌条件が老化現象に重要な影響を与えることがわかった。

## 胸部研特別ゼミナール

|      |           |                                    |                   |
|------|-----------|------------------------------------|-------------------|
| 120回 | 59年10月27日 | 細胞分裂と収縮性蛋白質                        | (東大教養学部) 馬淵 一誠    |
| 121回 | 59年12月5日  | 組織細胞の分化転換                          | (岡崎基礎生物学研) 江口 吾朗  |
| 122回 | 59年12月19日 | 血管細胞の培養とその老化研究への応用                 | (微生物工業技術研) 三井 洋司  |
| 123回 | 60年2月27日  | ヌード遺伝子の発現に関して                      | (愛知癌センター研) 児島 昭徳  |
| 124回 | 60年3月11日  | 血液幹細胞の増殖と分化                        | (信州大・医・小児科) 中畑 龍俊 |
| 125回 | 60年3月15日  | 未分化テラトカルシノーマ細胞における遺伝子発現の制御とクロマチン構造 | (広島大・原医研) 丹羽 太貫   |
| 126回 | 60年3月18日  | 胸腺内における T細胞の分化成熟                   | (東海大・医) 垣生 園子     |

## 業 績 目 録

### 内 科 学 第 一 部 門

〔学 会 発 表〕

#### 1. 結核・非定型抗酸菌症

武藤 真, 桜井信男, 山本孝吉, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫, 片上信之, 中井 準, 李 英徹, 内平文幸, 小田芳郎, 種田和清, 岩田猛邦: ステロイド療法に続発した肺結核症の臨床的検討, 第59回日本結核病学会, (要望課 IV随伴感染症としての結核症), 1984. 4. 8.

桜井信男, 久世文幸, 前川暢夫: 一般抗菌薬を含んだ *M. avium-intracellulare* マウス感染モデルに対する効果 (細菌II), 同上, 1984. 4. 8.

久世文幸・桜井信男・前川暢夫: Spiro-piperidyl rifamycin (LM427) の *M. avium-intracellulare* に対する *in vitro* の制菌効果 (細菌II), 同上, 1984. 4. 8.

李 啓充, 久世文幸, 前川暢夫: マウス腹腔マクロファージの諸種抗酸菌貪食に伴うスーパーオキシドの産生 (免疫Ⅲ), 同上, 1984. 4. 8.

倉沢卓也, 丸井康子, 桜井信男, 李 啓充, 武藤 真, 村山尚子, 山本孝吉, 西山秀樹, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫, 内平文幸, 小田芳郎, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 黒田直明, 辻野博之: 気管・気管支結核の臨床的検討 (肺外結核), 同上, 1984. 4. 8.

桜井信男, 久世文幸, 前川暢夫: マウス *M. intracellulare* 感染症に対する諸種薬剤の併用効果 (I) 第32回日本化学療法学会総会, 1984. 6. 6.

武藤 真, 倉沢卓也, 川合 満, 中西通泰, 久世文幸, 片上信之, 李 英徹, 小田芳郎, 岩田猛邦: ステロイド治療患者の肺結核の発症について第113回日本内科学会近畿地方会 (大阪), 1984. 6. 23.

桜井信男, 山本孝吉, 西山秀樹, 倉沢卓也, 川合満, 中西通泰, 久世文幸: 肺非定型抗酸菌症の臨床像 (I) — 発症要因と発見時のX線像について. 第53回日本結核病学会近畿地方会 (大阪), 1984. 6. 30.

李 英徹, 太田仁八, 西村千波, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 石井昌生, 庄村東洋, 中井 準: 当院における肺結核の外科的治療例の検討 第53回日本結核病学会近畿地方会 (大阪). 1984. 6. 30.

倉沢卓也, 武藤 真, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫: 気管・気管支結核症の臨床的検討. 第7回日本気管支学会総会. 1984. 7. 6. 徳島.

武藤 真, 江崎 寛, 鈴木雄二郎, 長谷光雄, 高島義光: 当院における非定型抗酸菌症の検討. 第31回日本結核病学会北陸地方会. 1984. 11. 10.

桜井信男, 西山秀樹, 倉沢卓也, 川合 満, 中西通泰, 久世文幸, 鈴木康弘, 竹田俊男, 杉之下俊彦, 小原幸信: RA に合併した *M. intracellulare* 症の一部検例. 第54回日本結核病学会近畿地方会, 1984. 11. 17. 大阪.

加藤元一, 倉沢卓也, 網谷良一, 山本孝吉, 西山秀樹, 川合 満, 中西通泰, 久世文幸, 足立 至, 磯谷活彦, 栗山隆信, 田本敦子, 内田点一: multiple myeloma に合併した肺結核の一症例. 第54回日本結核病学会近畿地方会, 1984. 11. 17. 大阪.

## 2. 腫 瘍

村山尚子, 白川太郎, 丸井康子, 武藤 真, 小笹晃太郎, 李 啓充, 桜井信男, 山本孝吉, 西山秀樹, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫, 細川昌則, 鈴木康弘, 竹田俊男: 胸部X線上陰性の中心型扁平上皮癌の三症例 第40回日本癌学会関西支部会, 1984. 2. 4. 大阪.

倉沢卓也, 白川太郎, 丸井康子, 武藤 真, 小笹晃太郎, 村山尚子, 桜井信男, 李 啓充, 山本孝吉, 西山秀樹, 川合満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫, 田村康一, 細川昌則, 鈴木康弘, 竹田俊男: 縦隔原発悪性線維性組織球腫の一部検例, 同上.

牛田伸一, 白川太郎, 丸井康子, 小笹晃太郎, 村山尚子, 武藤 真, 桜井信男, 李 啓充, 山本孝吉, 西山秀樹, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫: Co-enzyme Q<sub>10</sub> 及び Vitamine E 併用による放射線肺臓炎予防効果の臨床的検討, 同上.

片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 胸部X線胸壁に接する腫瘤影に試みた Echo Guided Needle Aspiration Biopsy (EGNAB) の有用性, 同上.

望月吉郎, 田中栄作, 藤本憲弘, 田口善夫, 種田和清, 網谷良一, 岩田猛邦, 藤尾彰, 北野司久, 上田善通, 小橋陽一郎, 市島国雄: 全身転移をきたした気管支カルチノイドの2症例, 同上.

坂本廣子, 片上信之, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: チューブドレナージ及び胸腔内制癌剤注入療法による癌性胸膜炎の治療——本院に於ける制癌剤の予後の検討——, 同上.

赤土正洋, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 低K血症, 高血圧症, 高 ACTH 血症を伴った肺小細胞癌の一例, 同上.

井野隆光, 沢幡 正, 丸井昭吾, 田中健一: エポキシ樹脂硬化剤の変異原性 構造・活性相関への量子化学的アプローチ. 第57回日本産業衛生学会, 1984. 6. 13. 札幌.

倉沢卓也, 久世文幸, 前川暢夫, 中村達夫, 渡辺 智, 樋口加代子, 竹田俊男, 中島道郎, Pseudolymphoma の一例. 第23回胸部疾患学会近畿地方会. 1984. 6. 30. 大阪.

倉沢卓也, 久世文幸, 前川暢夫, 中村達夫, 渡辺 智, 樋口加代子, 竹田俊夫, 中島道郎, Pseudolymphomaの一手術例. 同上.

辛 龍雲, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 低 Na 血症を呈した悪性胸膜中皮腫(線維型)の一剖検例. 同上.

網谷良一, 田中栄作, 藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国雄, 平井正志: 両肺の著しい縮少を呈し特発性間質性肺炎との鑑別が困難であった肺腺癌の一例, 同上.

李 英徹, 奥平晃久, 片山信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 宮本 寛, 庄村東洋: 気管支内軟骨腫の一治験例. 第7回日本気管支学会総会. 1984. 7. 6.

長谷光雄, 江崎 寛, 鈴木雄二郎, 坂東憲司, 高嶋義光: 当院における小細胞未分化癌の治療成績. 第18回肺癌学会北陸地方会. 1984. 7. 14.

江崎 寛, 鈴木雄二郎, 坂東憲司, 長谷光雄, 高嶋義光: 最近40例の癌性胸膜炎に対する胸膜癒着術の成績. 同上.

鈴木雄二郎, 江崎 寛, 坂東憲司, 長谷光雄, 高嶋義光, 吉森哲夫: 細胞診と組織診が一致しなかった肺癌症例の臨床的検討. 同上.

朝倉庄志, 松井輝夫, 八木一之, 藤 彰, 北野司久, 望月吉郎, 藤本憲弘, 田口善夫, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: 原発性肺平滑筋肉腫を疑われた一切除例. 第41回日本肺癌学会関西支部会. 1984. 7. 21. 大阪.

黒田直明, 倉田卓也: 肺原発と思われる悪性リンパ腫の一例. 同上.

岩崎博信, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 中井 準: 受診動機からみた当院肺癌症例の検討, 同上.

片上信之, 赤坂隆史, 小西弘起, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: MAC (MMC, Adriamycin, Cisplatinum) 療法による肺線癌治療の試み. 同上.

坂本廣子, 片上信之, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 非観血治療にて2年以上生存しえた肺癌31症例の検討, 同上.

藤本憲弘, 田中栄作, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国雄: 肺癌に合併した癌性心臓の臨床と治療の問題点, 同上.

黒田直明, 坂東憲司, 古川恵三, 白川恵俊, 戸田常紀, 宮崎都志幸, 白川正徳, 松岡賢光, 門田一郎, 小柳津直樹: HCG 産生を示した縦隔原発 germ cell tumor の1剖検例. 第114回日本内科学会近畿地方会. 1984. 9. 22.

藤本憲弘, 大西利明, 田中栄作, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国雄: 肺癌に合併した癌性心臓の臨床と治療上の問題点 第25回肺癌学会総会. 1984. 10. 30.

片上信之, 小西弘起, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 肺癌におけるリニア型電子スキャンの応用——診断から治療へ——, 同上, 1984. 10. 30.

坂本廣子, 片上信之, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 非観血治療を行い2年以上生存した肺癌症例の検討, 同上, 1984. 10. 31.

石井賢二, 長野 豊, 大草知子, 岸田廣子, 富田誠人, 牛田伸一, 門尾 誠, 中原保治, 中原由紀子, 松山学一, 桂 栄孝: Pachydermoperiostosis で発症した肺癌の1例, 第24回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 11. 17.

黒田直明, 坂東憲司, 倉沢卓也, 坪田紀明 気管支結石症の2症例, 同上, 1984. 11. 17. 大阪.

梶村幸三, 石原享介, 中井 準, 荻野均, 西内 素, 筒井 孟: Postinflammatory pseudotumor とと思われる1例, 同上, 1984. 11. 17.

### 3. 感染症の化学療法

中西通泰, 他: びまん症に進行する気管支の拡張. 第24回日本胸部疾患学会総会(肺疾患I), 1984. 4. 5.

李 啓充, 武藤 真, 白川太郎, 丸井康子, 村山尚子, 西山秀樹, 桜井信男, 山本孝吉, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫: 慢性関節リウマチに伴った細気管支炎の3症例, 同上, (ラウンドテーブル,

ディスクッション), 1984. 4. 6.

久保明美, 笹田昌孝, 西山秀樹, 山本孝吉, 加川大三郎, 安田精章, 西村利朗, 内師活人, 中村徹: 好中球の殺菌機序における貪食空胞形成の意義・続報, 第46回日本血液学会総会. 1984. 4. 12.

山本孝吉, 村山尚子, 西山秀樹, 前川暢夫, 西村利朗, 久保明美, 笹田昌孝: マクロファージに於る貪食と酸素代謝活性の解析, 同上, 1984. 4. 12.

笹田昌孝, 久保明美, 西村利朗, 安藤聖章, 加川大三郎, 内師活人, 中村徹, 山本孝吉, 西山秀樹: 培養ヒト単球の殺菌能と活性酸素の関連について. 同上, 1984. 4. 12.

今川八束, 角田沖介, 他: 腸チフス患者の調査研究1982, 感染性腸炎研究会(会長, 斎藤誠) 第58回日本感染症学会総会, 1984. 4. 19.

山口 剛, 角田沖介, 他: 感染性腸炎起因菌とその薬剤感受性(昭和58年) 感染性腸炎研究会(会長・斎藤誠) 同上, 1984. 4. 19.

松原義雄, 角田沖介, 他: 輸入感染性腸炎について1983年の調査研究, 感染性腸炎研究会(会長・斎藤誠) 第58回日本感染症学会総会発表, 1984. 4. 19.

田口善夫, 田中栄作, 藤本憲弘, 網谷良一, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦: 慢性気道感染症の外来化学療法について——DL8280を中心に. 第32回日本化学療法学会総会. 1984. 6. 4. 札幌.

李 啓充, 中西通泰, 前川暢夫, 谷川允彦: 胸部悪性腫瘍の *in vitro* における制癌剤感受性 (Clonogenic assay による検討). 第32回日本化学療法学会総会, 1984. 6. 5. 札幌.

山本孝吉, 村山尚子, 西山秀樹, 前川暢夫, 笹田昌孝, 加川大三郎, 久保明美, 安藤聖章, 西村利朗, 内師活人, 中村 徹: Clindamycin phosphate の白血球及び肺胞マクロファージへの移行並びに白血球内細菌に対する殺菌活性に関する研究, 第32回日本化学療法学会総会, 1984. 6. 5.

望月吉郎, 南部静洋, 大西利明, 田中栄作, 藤本憲弘, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国雄, いわゆる末期肺炎の剖検例での検討, 第32回日本化学療法学会西日本支部総会, 1984. 12. 13. 岡山.

辛 龍雲, 松井聖架, 川畑信也, 高塚勝哉, 田中友二, 吉川信嘉, 小松 隆, 角田沖介: リステリア髄膜炎の自験例, 第115回内科学会近畿地方会.

#### 4. 気管支喘息, アレルギー性疾患

川勝一雄, 澤岡平和, 千熊正彦, 川合 満, 前川暢夫: テオフィリンの体内動態に及ぼすトラニラストの影響, 日本薬学会第104年会) 1984. 3. 29.

田中健一, 西村富美子, 丸井昭吾: TDI によるラット接触過敏症惹起の試みについて, 第54回日本衛生学会 1984. 4. 4. 米子.

奥泉仁一, 田中健一, 吉田治弘, 池本卯典: 細管式等速電気泳動法による鼻汁蛋白成分の研究, 第34回日本電気泳動学会, 1984. 6. 8. 東京.

岡本 豊, 田中健一: TDI による実験的アレルギーに関する研究(第7報) 鼻アレルギーモデルにおける鼻粘膜の好塩基性細胞の動態に関する若干の知見, 第35回日本アレルギー学会, 1984. 6. 27. 京都.

奥泉仁一, 田中健一: TDI による実験的アレルギーに関する研究(第8報) 等速電気泳動法による鼻アレルギーモデル鼻汁成分の検討, 同上. 1984. 6. 27. 京都.

田中健一, 岡本 豊, 奥泉仁一, 張 寛正, 杉山正夫: TDI 喘息モデルに観察された鼻粘膜の形態学的変化について, 第23回日本鼻科学会. 1984. 10. 6. 東京.

奥泉仁一, 田中健一: 等速電気泳動法による鼻汁蛋白成分の研究, 第23回日本鼻科学会, 1984. 10. 6. 東京.

Mitsuru Kawai, Ryoichi Amitani, Takuya Kurasawa, Koji Ebe, Fumiyuki Kuze: Evaluation of herbal drugs on the basis of Chinese Medicine for the treatment of bronchial asthma XVII International Congress of Internal Medicine, Satellite Symposium. Kyoto. October 12. 1984.

Mitsuru Kawai, Takuya Kurasawa, Fumiyuki Kuze, Yukinobu Yasuda, Yasunobu Totani, Osamu Kouno Drug evaluation of Tranilast, Interasma, Mexco October 22, 1984.

Hiroshi Shuto, Kazumasa Tanaka, Takefumi Kunieda, Kazukio Nakagami, Hazime Suzuki, Eisei Noguchi, Mitsuru Kawai, Shigeru Nakagawa: Interferential low frequency (ILF) therapy in patient with bronchial asthma, Interasma, Mexco October 22, 1984.

田中健一, 井野隆光, 岡本 豊, 竹岡明美, 花田 哲, 川合 満, 河野茂勝, 大幡勝也: TDI による実験的アレルギーに関する研究 (第5報) ラット接触過敏症惹起に関する試み. 第34回日本アレルギー学会, 京都, 1984. 10. 27.

田中健一, 竹岡明美, 花田哲, 奥泉仁一, 井師隆光, 川合 満, 河野茂勝, 大幡勝也: TDI による実験的アレルギーに関する研究 (第6報) TDI 感体モルモット鼻粘膜よりのヒスタミン遊離に影響を及ぼす因子について. 同上, 1984. 10. 27.

東向一郎: Disodium cromoglycate (DSCG) の薬物動態(続報)——吸入後の息ごしらせ (breath-holding) 効果の検討. 第34回日本アレルギー学会総会. 1984. 10. 29. 京都, 国立京都国際会館.

川合 満, 倉沢卓也, 安田行信, 戸谷康信, 高納 修: Tranilast の薬効評価, 第34回日本アレルギー学会, 1984. 10. 29. 京都.

川勝一雄, 千熊正彦, 川合 満: テオフィリン連続投与時の体内動態に及ぼすトラニラストの影響, 第34回日本薬学会近畿支部総会, 1984. 11. 3. 武庫川.

奥泉仁一, 田中健一, 吉田治弘, 池本卯典: 細管式等速電気泳動法による動物およびヒトの鼻汁蛋白成分の検討. 第35回日本電気泳動学会. 1984. 11. 15. 久留米.

奥泉仁一, 田中健一, 吉田治弘, 池本卯典: 細管式等速電気泳動法による鼻アレルギーモデル鼻汁蛋白成分の研究, 第4回等速電気泳動シンポジウム, 1984. 12. 4, 東京.

## 5. 心身医学

河野博臣: 癌患者の Quality of life, 第1回国際心身医学会アジア部会, 1984. 5. 19. ~東京.

河野博臣: シンポジウム「生涯各期における心身症をめぐる諸問題」4. 老年期, シンポジスト, 第25回日本心身医学会, 1984. 7. 6~7, 於旭川.

河野博臣: シンポジウム. 末期癌患者のケア 司会, 日野原重明, 河野 博. 第22回日本癌治療学会, 1984. 9. 28, 於東京.

Hiroomi Kawano: Quality of Life in cancer Patients in Japan.

Chairperson. Hiroomi Kawano, Psychological care

河野博臣: WHO Workshop on Quality of Life in cancer Patients, Tokyo, 1984. November 18, 1984. 組織委員.

## 6. その他

田口善夫, 田中栄作, 汐見幹夫, 藤本憲弘, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦: 中葉症候群——その成因についての検討——第24回日本胸部疾患学会総会, 1984. 4. 5, 東京.

網谷良一, 田中栄作, 藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦: いわゆる“気管支拡張症”における Liquid-Filled Alveolography (60% Urografin を用いた肺胞造影) の意義, 第24回日本胸部疾患学会総会, 1984. 4. 6. 東京.

片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 気胸の治療に対する OK-432 (ピシバニール) を用いた Chemical pleurodesis の有用性. 第24回日本胸部疾患学会総会. 1984. 4. 6.

藤本憲弘, 汐見幹夫, 田中栄作, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦: 肺吸虫症4例の検討. 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会. 1984. 6. 30. 大阪.

八木一元, 北野司久, 藤尾 彰, 朝倉庄志, 松井輝夫, 岩田猛邦, 種田和清, 網谷良一, 望月吉郎, 藤本憲弘, 田口善夫, 田中栄作, 市島国雄, 小橋陽一郎: 肺アスペルギールス症5切除例の検討. 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 6. 30, 大阪.

田口善夫, 田中栄作, 藤本憲弘, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国

雄：臨床上アレルギー性肉芽腫性血管炎と考えられた結核性動脈周囲炎の1例，同上。

田口善夫，田中栄作，藤本憲弘，望月吉郎，網谷良一，種田和清，岩田猛邦，上田善道，小橋陽一郎，市島国雄：自然寛解前後に気管支造影所見を検討し得た肺好酸球形肉芽腫症の1症例，同上。

藤本憲弘，田中栄作，田口善夫，望月吉郎，網谷良一，種田和清，岩田猛邦：Uvero-parotid fever (Heerfordt症候群) の3例，同上。

牛田伸一，長野 豊，石井賢二，中原由紀子，中原保治，門屋 誠，横田 誠，松山栄一，本間 真：著明な低 Na 血症をきたしたサルコイドーシスの1例，同上。

田中栄作，藤本憲弘，田口善夫，望月吉郎，網谷良一，種田和清，岩田猛邦，朝倉庄司，松井輝夫，八木一之，藤尾 彰，北野司久，上田善道，小橋陽一郎，市島国雄：葉切除にて著明に PaO<sub>2</sub> の改善した肺動静脈の1例，同上。

石原享介，小西弘起，片上信之，坂本廣子，李 英徹，岩崎博信，梅田文一，中井 準：難治性気胸に対する経気管支的フィブリノーゲン，トロンビン注入の試み，同上。

片上信之，坂本廣子，李 英徹，石原享介，岩崎博信，梅田文一，中井 準：気管支鏡下結石摘出によって閉塞性肺炎が改善した気管支結石症の1例，同上。

青田正樹，大頭信義，神野君夫，中山正吾，牛田伸一，中原保治，杉山栄一，桂 栄孝：Swyer-James 症候群との関連が疑われた左肺嚢状気管支拡張症の1切除例，同上。

郡山俊昭，織野彬雄，東 郁夫，山田栄一，金子滋夫，井本 勉，満谷進，森本真成，平出 典：甲状腺機能低下症に伴う貧血症，acanthocytosis を認めた2症例について。第113回日本内科学会近畿地方会，1984. 6. 23. 大阪。

石原享介，小西弘起，片上信之，坂本廣子，李 英徹，岩崎博信，梅田文一，中井 準：気管支結石による中葉症候群。第7回日本気管支学会，1984. 7. 7.

長谷光雄，江崎 寛，鈴木雄二郎，武藤 真，高嶋義光：当院における原発性異型肺炎の検討，第31回日本結核病学会，第20回日本胸部疾患学会，第5回日本気管支学会・合同北陸地方会，1984. 11. 10

江崎 寛，鈴木雄二郎，武藤 真，長谷光雄，高嶋義光：腫瘤状陰影を呈し，開胸後診断が確定した症例の検討，同上。

高嶋義光，江崎 寛，鈴木雄二郎，武藤 真，長谷光雄：気縦隔 CT を行った重症筋無力症の1例，同上。

鈴木雄二郎，江崎 寛，武藤 真，長谷光雄，高嶋義光：ウログラフィンによる気管支肺胞造影 (Liquid-filled Alveolography) の経験——CT 所見との対比を中心にして——，同上。

丸井康子，村山尚子，桜井信男，網谷良一，山本孝吉，西山秀樹，倉沢卓也，川合満，中西通泰，久世文幸，武藤 真：葉間を境に近接して上下葉に存在した Rounded Atelectasis の一症例，第24回日本胸部疾患学会，近畿地方会，大阪，1984. 11. 17.

大西利明，南部静洋，田中栄作，田口善夫，藤本憲弘，望月吉郎，種田和清，岩田猛邦：金製剤投与中，急速に肺線維症が進行した慢性関節リュウマチの1症例，第24回日本胸部疾患学会近畿地方会，1984. 11. 17.

牛田伸一，長野 豊，石井賢一，中原由紀子，中原保治，富田誠人，門屋 誠，杉山栄一，桂栄孝，寺田忠之：自然気胸を合併した間質性肺炎の一例，同上。

望月吉郎，南部静洋，西 利明，田中栄作，藤本憲弘，田口善夫，郡 義明，種田和清，岩田猛邦：多発性空洞陰影を呈した肺塞栓症の一例，同上。

下松谷近，南部静洋，大西利明，田中栄作，藤本憲弘，群 義明，田口善夫，望月吉郎，種田和清，岩田猛邦：Sleep Apnea Syndrome を呈した先天性軟骨異栄養症の1症例，同上。

岩崎博信，平本憲孝，片上信之，坂本廣子，李 英徹，石原享介，梅田文一，中井 準：肺胞蛋白症の3症例——気管支洗浄の方法と効果の検討——，同上。

黒田直明，坂東憲司，倉沢卓也，坪田紀明：気管支結石症の2症例，同上。

石原享介，松井聖架，片上信之，坂本廣子，李 英徹，岩崎博信，梅田文一，中井 準：ウェジナー肉芽腫症 (限局型) の1例，同上。

## 〔誌 上 発 表〕

## 1. 結核・非定型抗酸菌症

Fumiyuki Kuze: Experimental Chemotherapy in chronic *Mycobacterium avium-intracellulare* infection of mice, *Am. Rev. Respir. Dis.*, 129: 453-459, 1984.

Fumiyuki Kuze & F Uchihira: Various Colony-formers of *Mycobacterium avium-intracellulare*, *Eur. J. Respir. Dis.*, 65(6): 402~410, 1984.

李 英徹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準 (神戸市中央市民病院, 呼吸器内科), 阪井 宏, 阪下哲司, 西村干波, 影浦正輝, 角田沖介 (神戸市立玉津病院), 鴨志田正五 (結核予防会兵庫県支部): 神戸市玉津病院における非定型抗酸菌症の臨床的検討, *結核*, 59(5): 323-328, 1984

久世文幸: I 肺結核治療の現状; 内科臨床面から (シンポジウムⅢ 肺結核外科の現状と将来, 第36回. 日本胸部外科学会), *日本胸部外科学会雑誌*, 32(5): 739-742, 1984.

倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫: 気管・気管支結核症の臨床的検討, *結核*, 59(8): 443-449, 1984.

K. Takeo, K. Kimura, F. Kuze, E. Nakai, T. Nonaka, & M. Nishimura: Freeze-fracture observation of the cell walls and peribacillary substances of various mycobacteria, *J. Gen. Microbiol.*, 130: 1151-1159, 1984.

久世文幸: 結核の治療, *日本医事新報*, No. 3164, 昭和59年12月15日刊, 125頁.

山島英世, 柴田安宅, 稲掛英男: 7年間1%小川培地に継代保存した耐性結核菌の耐性度の変化について, *京大胸部研紀要*, 17(1, 2), 20~25, 1984.

柴田安宅: Griselimycine の半合成誘導体 27753RP の抗結核作用に関する試験管内実験的検討, 第1編間歇作用, 並びに連続作用時の抗結核作用, *京大胸部研紀要*, 17(1, 2), 26-31, 1984.

柴田安宅: 同第2編, 他剤併用時の抗結核作用, 同上, 17(1, 2), 32~37, 1984.

柴田安宅: 同第3編, 交叉耐性について, 同上, 17(1, 2), 38-42, 1984.

柴田安宅: 同第4編, 結核菌の発育に不適当な条件と R. P. の抗菌力, 同上, 17(1, 2), 43-49, 1984.

中西通泰: 老年者の薬物療法, 肺結核, *Geriat. Med.*, 22: 1821~1827, 1984.

中西通泰: 肺結核の再燃, 内科 Q&A, 呼吸器病, p. 81-83, 金原書店

中西通泰: 内科疾患の予後, 肺結核, *総合臨床*, 33: 991-992, 1984.

## 2. 腫 瘍

胸部悪性腫瘍の *in vitro* 制癌剤感受性 (Human Tumor Caloy Assay による検討), 李 啓允, 久世文幸, 福村孝幸, 谷川允彦: 癌と化学療法, 11(12): 2537-2543, 1984.

## 3. 感染症の化学療法

K. Yamamoto & R. B. Johnston Jr.: Dissociation of phagocytosis from stimulation of the oxidative metabolic burst in macrophages, *J. Exp. Med.*, 159(2): 405-416, 1984.

川合 満, 中西通泰, 前川暢夫: AT2266 の臨床第1相試験, *Chemotherapy*. 23 (s-3): 334-358, 1984.

前川暢夫, 中西通泰, 桜井信男, 村山尚子, 李 啓允, 丸井康子, 岩田猛邦, 網谷良一, 望月吉郎, 種田和情, 田口善夫, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 内平文章, 長谷光雄, 辻野博之: DL-8280 の呼吸器感染症に対する臨床的研究, *Chemotherapy*, 32-s1, 405-413, 1984.

中西通泰, 村山尚子, 前川暢夫: 呼吸器感染症に対する TA-2266 の臨床的検討, *Chemotherapy* 32-s3, 519-522, 1984

前川暢夫, 中西通泰, 岩田猛邦, 種田和清, 網谷良一, 望月吉郎, 田口善夫, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 鍵岡 朗, 辻野博之, 中井 準, 石原享介, 坂本廣子, 山肩幸子他: 呼吸器感染症に対する DL-8280 と Amoxicillin の薬効比較試験, *感染症学雑誌*, 58(6): 525-555, 1984.

前川暢夫, 中西通泰, 倉沢卓也, 武藤 真, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 久世文幸, 種田和清: 呼吸器感染症に対す

る Sulbactam/Cefoperazone の臨床的検討), Chemotherapy, 32-s4, 293-297, 1984.

中西通泰, 桜井信男, 村山尚子, 前川暢夫, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 内平文章, 池田宣昭, 岩田猛邦, 角田沖介, 坂本廣子, 石原享介, 呼吸器感染症に対する AC-1370 の臨床的検討, Chemotherapy, 32-s9, 353-358, 1984.

中西通泰, 武藤 真, 桜井信男, 前川暢夫, 岩田猛邦, 田口善夫, 小沢 晃: MT-141 の呼吸器感染症に対する臨床的研究, Chemotherapy, 32-s-5, 237-241, 1984.

前川暢夫, 中西通泰, 長谷光雄他90名: 内科領域における重症細菌感染症に対する静注用免疫グロブリン (SM-4300) と抗生剤との併用効果, 感染症学雑誌, 58(10), 982-1000, 1984.

前川暢夫, 中西通泰, 柴田安宅, 西山秀樹他21名: 慢性気道感染症に対する Enoxacin (AT-2266) と cefaclor の薬効比較試験, 感染症学雑誌, 58(10): 1046-1072, 1984.

前川暢夫, 中西通泰, 武藤 真, 村山尚子, 柴田安宅他114名: 細菌性肺炎を対象として Enoxacin と Amoxicillin の薬効比較試験成績, 感染症学雑誌, 58(10): 1083-1113, 1984.

中西通泰, 村山尚子, 前川暢夫, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 内平文章, 種田和清: 呼吸器感染症に対する Ceftriaxone (Ro-13-9904) の臨床的検討, Chemotherapy, 32, s-7, 387-391, 1984.

前川暢夫, 中西通泰, 長谷光雄他90名: 内科領域における重症細菌感染症に対する静注用免疫グロブリン (SM-4300) と抗生剤との併用効果, 感染症学雑誌, 58(10): 982-1000, 1984.

藤森一平, 前川暢夫, 中西通泰, 岩田猛邦, 種田和清, 田口善夫, 青木幸平他: 気管支炎に対する Ofloxacin (DL-8280) と Cefaclon の薬効比較試験成績, 感染症学雑誌, 58: 832-861, 1984.

中西通泰, 倉沢卓也, 丸井康子, 前川暢夫, 池田宣昭, 小田芳郎, 稲葉宣雄, 松原恒雄: 呼吸器感染症に対する Lenampicillin (KST-1585) の臨床的検討, Chemotherapy, 32-s-8, 332-336, 1984.

角田沖介, 藤堂彰男, 橋本 博, 赤尾満他: 腸管感染症に対する AT-2266 の基礎的, 臨床的研究, Chemotherapy, 32-s-3, 661-631, 1984.

角田沖介, 藤堂彰男, 齊藤 真他: 感染性下痢に対するオフロキサシン (OFLX: DL-8280) とピペト酸 (PP-A) の二重盲検法による治療効果の検討, 感染症学雑誌, 58(10), 965-981, 1984.

橋本 博, 齊藤 誠, 角田沖介, 藤堂彰男, 橋本 博他: 感染性下痢症に対する Enoxacin (Erf-AT-2266) と pipomidic acid (PPA) の二重盲検法による有用性の比較検討, 感染症学雑誌, 58(10), 1114-1115, 1984.

石山俊次, 日野原重明, 阿部正和編, 角田沖介: 感染症, 細菌性赤痢, 疫痢, 今日の治療指針, 26: 109, 医学書院, 1984.

田口善夫, 田中栄作, 藤本憲弘, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦: 慢性気道感染症における DL 8280 の有用性について——びまん性汎細気管支炎を中心に——Chemotherapy, 32-s1, 436-442, 1984.

#### 4. 気管支喘息・アレルギー疾患

川合 満: 気管支喘息・ステロイド治療, 呼吸, 3(4): 525-531, 1984.

田中健一, 岡本豊, 竹岡明美, 井野隆光, 河野茂勝, 大幡勝也, 川合満, 前川暢夫: Toluene Diisocyanate (TDI) による喘息モデルに観察された鼻アレルギー, アレルギー, 33(4): 199-206, 1984.

塩田憲三, 浜田朝夫, 信太隆夫, 長野準, 前川暢夫, 川合満他: Traxanox sodium (Y-12141) の気管支喘息に対する臨床的検討 (第一報), 臨床と研究, 61(5): 1625-1632, 1984.

塩田憲三, 浜田朝夫, 信太隆夫, 長野 準, 前川暢夫, 川合 満他: Traxanox sodium (Y-12141) の気管支喘息に対する臨床的検討 (第二報), 臨床と研究, 61(5): 1633-1650, 1984.

塩田憲三, 浜田朝夫, 信太隆夫, 長野 準, 前川暢夫, 川合 満他: Traxanox sodium (Y-12141) の気管支喘息に対する臨床, 臨床と研究, 61(6): 1979-1995, 1984.

川合 満: 病型と重症度別の気管支喘息治療法——対症療法を中心に——・気管支喘息の病型の判定とその対策, Medicament News, 第1085号, pp24-27, 1984. 7. 15.

川上保雄, 川合 満, 須藤守夫, 福田 健, 渡辺勝之延, 三井健司, 浜田朝夫, 松田昌子, 鶴谷秀人: 新経口抗エネルギー剤 KW-4354 (Oxatomide) の成人気管支喘息に対する長期投与成績, 薬理と治療, 12(7): 3015-3027, 1984.

川上保雄, 前川暢夫, 川合 満他105名: 新経口抗アレルギー剤 KW-4354 (Oxatomide) の成人気管支喘息に対する臨床効果——多施設による phase II study——, 薬理と治療, 12(3): 1348~1361, 1984.

川上保雄, 前川暢夫, 川合 満他, 105名: 経口抗アレルギー剤 KW-4354 (Oxatomide) の気管支喘息に対する臨床評価——Disodium cromoglycate および placebo を対象とする二重盲検試験成績——薬理と治療, 12(6): 2503~2541, 1984.

川合 満: 気管支喘息の治療における去痰, Therapeutic Research, 1(2): 267~277, 1984.

川合 満: ステロイドの作用機序と適応, Therapeutic Research, 1(2): 239-248, 1984.

川合 満, 前川暢夫他:  $\beta$  受容体刺激性気管支拡張薬クレンブテロールの単回投与による気管支拡張効果の用量別検討, 薬理と治療, 12(3): 1321-1346, 1984.

前川暢夫, 川合 満, 池田宣昭, 山鳥英世, 小田芳郎, 内平文章, 山田栄一他:  $\beta$  受容体刺激性気管支拡張薬クレンブテロールの連続投与による拡張効果の検討——43施設共同試験成績——, 薬理と治療, 12(5): 2015~2035, 1984.

川合 満, 前川暢夫他:  $\beta$  受容体刺激性気管支拡張薬, クレンブテロールの長期連用時における効果と安全性について, 薬理と治療, 12(8): 3573~3614, 1984.

川合 満, 倉沢卓也, 前川暢夫, 伊藤 隆, 安田行信, 戸谷康信, 高納 修: 副腎皮質ステロイド薬の薬効評価の検討(2), 臨床と研究, 61(10): 3267~3277, 1984.

前川暢夫, 川合 満, 松原恒夫, 種田和清他94名: 抗アレルギー剤 (Traxanox Sodium (Y-12141)) の気管支喘息に対する臨床的検討——disodium cromoglycate および placebo を対象とした多施設二重盲検法による検討——, Clin. Eval. 12(9): 475-555, 1984.

前川暢夫, 川合 満, 倉沢卓也, 山田栄一他85名: 気管支喘息に対する  $\beta$  受容体刺激性気管支拡張薬クレンブテロールの二重盲検試験——サルブタモールを対照とする単回投与と成績——, 医学のあゆみ, 131(7): 494~513, 1984.

川合 満: 難治性気管支喘息の治療にはどんなものがあるのか, 免疫の新しい考え方 Q&A, III-1 Q3: p.10~11, 協和企画, 1984.

## 5. 心身医学

河野博臣: 病気と自己実現, 創元社, 1984.

河野博臣: 癌の人間学, 弘文堂, 1984.

河野博臣編著: 生活の中の心身症, 明日香出版, 1984.

河野博臣共著: コミュニティにおけるケア, 日本におけるターミナルケア, 誠信書房, 1984.

河野博臣: 死の臨床——末期医療の基礎と実際——, 信濃国保, 351; 83, 1984.

河野博臣: 特集, 文化としての人間・宗教——死生観を育む教育を問う——看護学生, 13: 15, 1984.

河野博臣: 特集, 人間と性——末期癌患者と性生活——, 毎日ライフ, 188: 77, 1984.

河野博臣: やさしいホームドクター講座——老年期——死に臨む人のために, p. 257, グロビュー社, 1984.

河野博臣: うつ病の実地診療——専門医にきく——, Jap. commit. Prev. & Treat. Depres., 12, 1984.

河野博臣: トボスの知, 一過敏性火腸症候群の箱庭療法, p. 48, TBS ブリタニカ, 1984.

## 6. その他

前協暢夫: 微熱患者の実態, 臨床と研究, 61(12): 3884~3888, 1984.

川合 満, 江部康二: 鎮咳・去痰と和漢薬, 医学と薬学, 11(4): 1019~1024, 1984.

川合 満: 痰と薬物効果 (シンポジウムI, 気道液の病態生理), 日本気管食道科学会会報 (日気食会報), 35(2): 120~128, 1984.

網谷良一, 田中栄作, 藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 八木一元, 岩田猛邦: 特発性間質性肺炎および膠原性間質性肺炎における Liquid-Filled Alveolography (LFA) の診断的意義, 日本胸部疾患学会雑誌, 22(4): 277-287, 1984.

岩田猛邦, 慢性気道病変の検討——びまん性汎細気管支造影像を中心に——胸部研紀要, 17(1, 2) : 17(1, 2) : 73~85, 1984.

本間日臣・吉良技郎編; 川合 満 (分担執筆): ステロイド剤長期連用, 内科 Q&A, 呼吸器病, p. 84~86, 金原出版, 1984.

石山俊次, 日野原重明, 阿部正和編; 川合 満 (分担執筆): 好酸球性肺浸油症候群 (PIE 症候群), 今日の治療指針, 26 : 258~259, 医学書院, 1984.

中西通泰: 気管支拡張症, 呼吸, 3 : 1498~1503, 1984.

石原享介, 片上信之, 坂本廣子, 李英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 慢性呼吸不全急性増悪, 救急医学, 8(2) : 169~175, 1984.

石原享介, 岩崎博信, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 梅田文一, 中井 準, びまん性汎細気管支炎, 慢性肺気腫の気道抵抗およびその不均等換気の特異性について, 呼吸と循環, 32(6) : 627~631, 1984.

岩崎博信, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 中井 準, 内田博也: びまん性肺疾患における経気管支肺生検の診断的意義, 神戸市立病院紀要, 23 : 61~66, 1984.

岩崎博信, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 中井 準; ボディプレチスモグラフにおける圧一流ループの開大の定量的評価に関する検討, 日本胸部臨床, 43(8) : 672~678, 1984.

溝井一敏, 川合 満, 大山 勝, 清田隆二, 中神和清, 同東 寛, 干渉低周波の電氣的性状と生体への安全性の検討, Therapeutic Research 1(4) : 623~632, 1984.

川合 満: 「慢性気管支炎を有する毒ガス障害者における気管支鏡生検を用いた気管支上皮の走査電顕的検討の総括. Therapeutic Research 1(4) : 581~582, 1984.

## 〔研究会・講演会〕

### 1. 結核・非定型抗酸菌症

久世文幸, 桜井信男: マウス *M. avium-intracellulare* 感染モデルを用いた抗結核薬の併用効果——delayed treatment——第7回臨床抗酸菌談話会, 1984. 4. 7. 東京.

久世文幸, 桜井信男, 前川暢夫: Spiropiperidyl rifamycin (LM427) の *M. avium-intracellulare* に対する in vitro 並びに in vivo での効果, 第16回非定型抗酸菌症研究協議会, 1984. 4. 8. 東京.

前川暢夫, 池田宣昭, 柴田安宅: Griselmycine 半合成誘導体 27753Rp の抗結核作用に関する試験管内実験的検討, 第4報, 患者分離株の感受性及び交叉耐性について, 日本結核化学療法研究会総会, 1984. 6. 8, 東京.

前川暢夫, 池田宣昭, 柴田安宅: Griselmycine 半合成誘導体 27753Rp の抗結核作用に関する試験管内実験的検討, 第5報, 発育に不適當な条件下の抗菌力, (1)25°C 及び 4°C での抗菌力, 日本結核化学療法研究会総会, 1984. 6. 8. 東京.

前川暢夫, 池田宣昭, 山鳥英世, 柴田安宅: Griselmycine 半合成誘導体 27753Rp の抗結核作用に関する試験管内実験的検討, 第6報, 発育に不適當な条件下の抗菌力, (2)CO<sub>2</sub> ガス及び N<sub>2</sub> ガス流入下の抗菌力, 1984. 6. 8. 東京.

前川暢夫, 久世文幸, 季 啓充: 抗酸菌の細胞内増殖に及ぼすスーパーオキシド (O<sub>2</sub><sup>-</sup>) の影響, 日本結核化学療法研究会総会, 1984. 6. 8. 東京.

桜井信男, 内平文章, 久世文幸: *Mycobacterium avium-intracellulare* の諸種薬剤に対する in vitro 感受性について, 第13回薬剤耐性菌シンポジウム, 1984. 8. 17-18, 前橋.

桜井信男: *M. avium-intracellulare* のマウス感染モデルについて, 第3回京都呼吸器シンポジウム, 1984. 8. 25, 京都.

種田和清, 田中栄作, 田口善夫, 藤本憲弘, 望月吉郎, 網谷良一, 岩田猛邦: 慢性気道病変と非定型抗酸菌症の関連について, 同上. 1984. 8. 25.

久世文幸: *M. avium-intracellulare* のマウス感染モデルについて, 実験結核研究会, 1984. 10. 26. 京都.

坂東憲司, 黒田直明, 辻野博之, 倉沢卓也: 気管・気管支結核の1例——気管支鏡による経過観察を中心に

——第23回近畿気管支鏡懇話会，1984.11.2.大阪.

倉沢卓也，初感染結核における予防内服について，第8回京都府結核対策協議会，1984.11.9.京都.

桜井信男，久世文章，前川暢夫，M. avium-intracellulare マウス感染モデルに対する諸種薬剤の効果，日結研，1984.12.7.東京.

## 2. 腫瘍

中井 準，肺癌の早期発見の実際，兵庫県医師会，神戸市医師会共催学術講演会，1984.3.17.

片上信之，赤坂隆史，坂本廣子，李 英徹，石原亨介，岩崎博信，梅田文一，中井 準，小細胞末分化癌の follow up 中に生じたびまん性陰影の1例，第25回びまん性肺疾患研究会，1984.6.16.

赤坂隆史，片上信之，坂本廣子，李 英徹，石原亨介，岩崎博信，梅田文一，中井 準，MAC (MMC, Adriamycin, Cisplatinum) 療法による肺腺癌治療の試み，第29回県肺癌懇話会，1984.6.20.

黒田直明，倉沢卓也：肺原発と思われる悪性リンパ腫の1例，第22回，近畿気管支鏡懇話会，1984.7.21.大阪.

李 啓充，久世文章，谷川允彦：Trans-forming growth factor activity in pleural effusions. 文部省がん研究小川班，班会議，1984.8.25.東京.

李 啓充，久世文幸，谷川允彦：A simple colorimetric method for the evaluation of in vitro chemosensitivity of human tumors 文部省がん研究小川班，班会議，1984.8.25.東京.

## 3. 気管支喘息・アレルギー

川合 満：中医学の立場から行なわれた気管支喘息患者に対する漢方薬治療，第3回博多シンポジウム，1984.1.20, 博多.

川合 満：気管支喘息の治療における留意事項，洲本医師会，津名医師会，三原郡医師会，1984.2.18.洲本.

川合 満：気管支喘息の治療——とくに漢方を中心として——第4回近畿薬物療法研究会，1984.3.10.大阪.

川合 満：気管支喘息の治療方針，鳥取県西部医師会，1984.3.16.米子.

川合 満：気管支喘息の治療および去痰の重要性について，第4回名古屋保健衛生大学，呼吸病態生理研究会，1984.5.24.名古屋.

川合 満，気管支喘息治療の留意点——ステロイド薬を中心として——第3回道北アレルギーを学ぶ会，旭川医師会，1984.7.27, 旭川.

川合 満：気管支喘息治療におけるキサンチン製剤の重要性について，気管支喘息治療薬研究会，1984.11.17.京都.

内藤祐子：ぜん息児と保健福祉事業健康教室医学講座，1984.12.15, 神戸.

## 4. 心身医学

河野博臣：末期癌とその対応，日本心身医学協会，1984.4.8.広島

河野博臣：ユング心理学と心身症，神戸アサヒ・カルチャー，1984.4.21.神戸.

河野博臣：望ましい医療技術者のあり方，文部省，国公立大学病院放射線技師会，1984.5.24.東京.

河野博臣：登校拒否患者の対応，京都教育研究所，1984.5.30, 京都.

河野博臣：終末期の自己実現，平安女学院，1984.6.15.京都.

河野博臣：終末期癌患者の対応，鳥取日赤病院，1984.9.9.鳥取.

河野博臣，絶食療法と人生，第5回絶食療法研究会セミナー（司会）1984.11.11.神戸. .

## 5. その他

川合 満，薬物による去痰ならびに干渉低周波療法による去痰効果，第3回呼吸器疾患治療研究会，1984.1.21.博多.

藤本憲弘，田中栄作，田口善夫，望月吉郎，網谷良一，種田和清，岩田猛邦：気管支鏡下洗浄による細菌検査の意義・第21回近畿気管支鏡懇話会，1984.2.10.大阪.

田口善夫, 田中栄作, 藤本憲弘, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国雄, 第24回びまん性肺疾患研究会, 1984. 2. 25. 大阪,

川合 満, 閉塞性肺疾患の治療, 大阪合同薬品学術講演会1984. 2. 25. 大阪.

藤本憲弘, 田中栄作, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国雄: 急激な難聴で発症し治療に著効を示した多発性浸潤影の1症例, 第25回びまん性肺疾患研究会. 1984. 6. 16. 大阪.

中井 準, 慢性閉塞性肺疾患の鑑別, 第4回実地医家のための会兵庫支部. 1984. 9. 神戸.

松井聖架, 平本憲孝, 片上信之, 坂本廣子, 李英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: インコ飼育者にみられた肺野の縮少を伴うびまん性陰影の1例, 第26回びまん性肺疾患研究会, 1984. 9. 8. 大阪.

川合 満, 閉塞性肺疾患の薬物療法, 第112回 OHP 診療所部会例会, 1984. 9. 27. 大阪.

久保嘉朗, 網谷良一, 久世文幸: 気管支に多発性の小結節を呈した扁平上皮化生の1例, 近畿気管支鏡懇話会, 1984. 11. 2. 大阪.

田口善夫, 田中栄作, 藤本憲弘, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国雄: 気管支造影像を検討し得た肺好酸球性肉芽腫症の1例. 第3回サルコイドーシス研究会総会, 1984. 11. 17. 熊本.

藤本憲弘, 田中栄作, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 左野 明, 黒田康正, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国雄: 血管造影像を検討し得たウェジナー肉芽腫症の1例, 同上. 1984. 11. 17. 熊本.

川合 満, 閉塞性肺疾患の治療——とくに去痰とのかかわりについて——伊勢市, 度会郡, 志魔医師会, 1984. 11. 29. 伊勢.

田中栄作, 南部静洋, 藤本憲弘, 田口善夫, 群義明, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国雄: 抗生剤不応の発熱と進行性の呼吸困難をきたした HPD (hematopoietic dysplasia) の1例, 第27回びまん性肺疾患研究会. 1984. 12. 8. 大阪.

坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 内田博也, びまん性陰影を呈し左慢性関節リウマチの1例, 第27回びまん性肺疾患研究会. 1984. 12. 8, 大阪.

岩崎博信, 坂本廣子, 片上信之, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 中井 準, 立道 清: 肺塞栓7症例の臨床的検討. 第3回阪神呼吸器疾患勉強会, 1984. 12. 8.

田中栄作, 南部静洋, 藤本憲弘, 田口善夫, 群 義明, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 藤尾 彰, 北野司久: 肺動静脈瘻の1例, 第15回奈良呼吸器談話会, 1984. 12. 15. 橿原.

藤本憲弘, 南部静洋, 田中栄作, 田口善夫, 郡義明, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国雄: 肺吸虫症例の検討, 同上. 1984. 12. 15.

## 内科学第二部門

〔分担執筆〕

泉 孝英, 西村浩一: 16. 遊走性の浸潤影を呈する症患. 本間日臣, 吉良枝郎編「内科Q&A 呼吸器病」p. 43~46, 金原出版, 1984.

泉 孝英: 22. 10年来肺結核の治療をうけていたにもかかわらず咳, 呼吸困難がしだいに増強してきた男性, 23. 粟粒結核と診断され, 治療開始1ヶ月後に自覚症状の増悪と自然気胸を来した女性. 40. 集団検診にてびまん性粟粒様陰影を発見された女性. 岡安大仁, 岩崎 栄編「呼吸器病ケーススタディ, 56例のPO研修 第2版」p. 118~123, p. 124~129, p. 221~225, 医学書院, 1985.

泉 孝英: 慢性ペリリウム肺. 日野原重明他編「1985今日の治療指針, 私はこう治療している」p. 263~264, 1985.

泉 孝英: サルコイドーシス. 亀山正邦他編「今日の診断指針 第1版」p. 782~785, 医学書院, 1985.

木野稔也: 19. ツベルクリン反応陽転, 陰転化. 本間日臣, 吉良枝郎編「内科Q&A 呼吸器病」p. 58~55, 金原出版, 1984.

木野稔也, 桂 義元: 遅延型過敏性, マウスのヒツジ赤血球に対する DTH, モルモットのツベルクリンに対する DTH とマクロファージ遊走阻止テスト. 村松 繁他編「実験生物学講座, 4 巻免疫生物学」p. 393~396, 丸善, 1985.

門 政男: ウェゲナー肉芽腫症, 亀山正邦他編「今日の診断指針 第1版」p. 1001~1002, 1985.

北市正則: びまん性散佈性肺病変の経気管支肺生検 (TBLB) による鑑別診断. p. 141~156, 肺疾患鑑別のための臨床的事項, p. 226~238, 日和見感染症, a. 疾患概論, p. 311~316, 曾根脩輔編「呼吸器疾患の画像診断」南江堂, 東京, 1984.

西村浩一, 泉 孝英: びまん性汎細気管支炎. 「薬物療法の実際—処方例とその解説」治療, 67(2): 353-354, 1985.

### 〔綜 説〕

大島駿作, 千熊正彦: 「講座 薬物療法」免疫抑制剤. 呼吸, 3(10): 1300~1303, 1984.

泉 孝英, 藤村直樹, 平田健雄, 長井苑子, 田村 久, 沢野哲重, 橋本圭司, 荒谷信一: 「特集 リンパ球最近の進歩と臨床応用」気管支肺胞洗滌液のリンパ球亜群. 免疫と疾患, 7(5): 641~650, 1984.

泉 孝英, 北市正則, 長井苑子, 西村浩一: 「講座 病気の生化学 (XCVI)」肺胞蛋白症. 代謝, 21(5): 461~469, 1984.

泉 孝英, 江村正二: 「Current Topics」結核を見逃さないために. medicina 39(6): 1100~1114, 1984.

泉 孝英, 長井苑子, 北市正則, 藤村直樹, 平田健雄, 沢野哲重, 橋本圭司: 「最近のトピックス」気管支肺胞洗滌 (BAL) の診断学的意義. 臨床成人病, 14(8): 1117~1122, 1984.

泉 孝英, 荏原順一, 長井苑子: 「間質性肺疾患の診断」臨床検査 免疫学的検査. 現代医療, 16(9): 2017~2023, 1984.

泉 孝英: 「臨床ハイライト」びまん性汎細気管支炎. 医薬の門, 24(11,12): 238~242, 1984.

泉 孝英, 西村浩一, 古江増裕: 「Diffuse pulmonary disease」びまん性汎細気管支炎. 肺と心, 32(1): 42~49, 1985.

泉 孝英, 西村浩一: 「慢性閉塞性肺疾患」診断的アプローチ 免疫学的背景. medicina 21(13): 2638~2639, 1984.

泉 孝英: 「今日の治療 呼吸器」サルコイドーシスにおける気管支肺胞洗浄液所見と治療. Current Therapy 3(3): 50~58, 1985.

木野稔也: 「特集 真菌とアレルギー」喘息と真菌, (1)即時型過敏性——アスペルギルスを中心に——. アレルギーの臨床, 4: 362~367, 1984.

木野稔也: 「目でみる診断講座」, 胸部X線写真, 移動性陰影. 臨床成人病, 14(5): 676~679, 1984.

伊藤春海, 村田喜代史, 千田道雄, 米倉義晴, 藤堂義郎, 中野善久, 佐治英郎, 鳥塚莞爾, 西村浩一, 伊藤剛, 古田睦広, 西田寿男: 呼吸器画像診断の新しい展開——ポジトロン CT と X線 CT——. 画像診断, 4(11): 1032~1040, 1984.

本田和徳, 西村浩一: 「慢性閉塞性肺疾患」診断的アプローチ CT からみた胸部X線所見, medicina 21(13): 2624~2627, 1984.

### 〔原 著〕

大島駿作, 木野稔也, 松井祐佐公, 古江増裕, 福田康二, 西村浩一, 江村正二, 安場広高, 川上一郎, 浅本仁, 中島道郎, 杉本幾久雄, 中山昌彦, 大山口渥: アトピー型気管支喘息における Ketotifen (Zaditen®) の臨床効果と安全性の検討. 診療と新薬, 21(5): 859~871, 1984.

門 政男, 藤村直樹, 平田健雄, 荏原順一, 長井苑子, 泉 孝英, 大島駿作, 橋本圭司: びまん性間質肺疾患の気管支洗滌液中液性成分に関する研究. 京大胸部研紀要, 17(1,2): 105~113, 1984.

門 政男, 北市正則, 泉 孝英, 大島駿作, 伊藤元彦, 玉田二郎, 松岡順之介: 縦隔胚細胞腫 (mediastinal germ cell tumor) の1症例. 京大胸部研紀要, 17(1,2): 114~121, 1984.

北市正則：サルコイドーシス，慢性ペリリウム肺および過敏性肺臓炎の肺病変の病理組織学的比較検討。日胸疾会誌，22(9)：769～782，1984。

藤村直樹，木野稔也，長井苑子，北市正則，泉 孝英，大島駿作，小川捨雄，佐藤邦彦：ポリウレタン塗装工にみられたイソシアネートによる過敏性肺臓炎の1例。日胸疾会誌，22(6)：506～513，1984。

藤村直樹：びまん性肺疾患における気管支肺胞洗滌リンパ球とその性状，特に活性化所見に関する検討。日胸疾会誌，22(7)：552～561，1984。

西村浩一，北市正則，泉 孝英，長井苑子，荏原順一，松井祐佐公，門 政男，木野稔也，大島駿作，金地研二，大熊 稔，山川良治：びまん性間質性肺炎を伴った Hermansky-Pudlak 症候群の1例。日内会誌，73(10)：1497～1505，1984。

古江増裕，木野稔也，福田康二，西村浩一，泉 孝英，大島駿作：びまん性汎細気管支炎症例のメサコリンに対する気道過敏性に関する検討——健常人，気管支喘息患者および肺気腫患者との比較——。京大胸部研紀要，17(1,2)：98～104，1984。

小笹晃太郎，乾 利夫，菅野辰生，赤荻照章，迫 雅美，林 英夫，藤田洋一，小関忠尚，谷村仲一，高橋徹，北市正則，木野稔也：Cladosporium に起因すると思われる夏型過敏性肺炎の兄弟発症例。日本胸部臨床，43(6)：520～529，1984。

梅枝愛郎，松井 茂，福山 展，片貝重之，中沢次夫，桑原英真，笛木隆三，小林節雄，北市正則：開胸肺生検で類上皮細胞肉芽腫とマツソン体形成が認められたマイコプラズマ肺炎の1例。日胸疾会誌，22(1)：52～55，1984。

Obara, A., Harada, N., Matsumoto, S., Kitaichi, M., Furuta, M.: A case report of primary tracheal cancer from leprosy autopsy series with a review of the literature. Jpn. J. Leprosy, 53(2)：54～60, 1984.

#### 〔学会記録，報告書，会議録〕

大島駿作，長井苑子，田村 久，沢野哲重，泉 孝英：びまん性間質性肺疾患における BALF リンパ球所見 T cell subset による鑑別およびリンパ球活性化の検討。厚生省特定疾患間質性肺疾患調査研究班昭和58年度研究報告書，p. 91～94。

大島駿作：シンポジウム「結核症の免疫学」気管支肺胞洗浄液中のマクロファージについて。結核，60(1)：48～50，1985。

大島駿作：昭和59年度科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告書，アレルギー性肺疾患における肺胞マクロファージの役割に関する研究（58480223）。昭和60年3月。

泉 孝英：ワークショップⅡ，肉芽腫性疾患におけるリンパ球とマクロファージ，まとめ昭和57年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績，p. 93～99，昭和58年3月。

泉 孝英，長井苑子，藤村直樹：サルコイドーシスにおける BAL リンパ球所見と予後との関連性。昭和57年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績，p. 235～237，昭和58年3月。

泉 孝英：サルコイドーシス患者末梢血の PHA, Con A 反応性。サルコイドーシス研究会誌，3：33～36，1983。

泉 孝英：サルコイドーシス健康診断発見群の予後 2. ステロイド投与群と非投与群の比較。サルコイドーシス研究会誌，3：142～143，1983。

泉 孝英：シンポジウム「肺感染症の新しい問題点——細菌感染症を中心に——」微生物による局所の免疫反応。日胸疾会誌，23(2)：146～150，1985。

Izumi, T., Nagai, S., Fujimura, N., Kitaichi, M., Oshima, S.: T lymphocyte alveolitis and B lymphocyte alveolitis——BALF lymphocyte findings and prognosis in sarcoidosis and idiopathic pulmonary fibrosis. Jap. J. Med. 23 (4): 300, 1984.

泉 孝英：パネルディスカッション「アレルギー体質とは何か」(5)組織の反応。日本体質学雑誌，48(2)：108～110，1984。

木野稔也：昆虫による気管支喘息のアレルギー学的研究——蝶，蛾固有のアレルゲン分画とトビゲラ固有の比

較検討と昆虫アレルギーの診断と治療への応用. 文部省科学研究費補助金による研究成果報告書. 昭和60年3月.

門 政男, 泉 孝英, 大島駿作: 42. 肺胞マクロファージに及ぼす喫煙の影響に関する研究——びまん性間質性肺疾患の気管支洗滌液中液性成分に関する研究. 昭和58年度喫煙と健康に関する委託研究報告概要, p. 264~269. 日本専売公社. 昭和59年4月.

北市正則: 肺の既存構造からみたサルコイドーシス, 慢性ペリリウム肺, 過敏性肺臓炎の肺病変の検討. サルコイドーシス研究会誌, 3: 94~97, 1983.

長井苑子: パネルディスカッション「BALの基礎と応用」サルコイドーシスにおける気管支肺胞洗浄液中のリンパ球の活性化所見. 気管支学, 6(4): 521~527, 1984.

長井苑子, 泉 孝英: サルコイドーシスにおけるBALリンパ球所見と臨床経過. サルコイドーシス研究会誌, 3: 135~137, 1983.

長井苑子, 北市正則, 木野稔也, 大島駿作, 泉 孝英: パルス療法が奏効したループス肺炎の急性増悪例. 第29回肺線維症研究会討議録, p. 57~62. 59. 5. 18.

西村浩一, 泉 孝英, 北市正則, 大島駿作: 開胸肺生検にて黄褐色顆粒の沈着とびまん性間質性肺炎がみられたHermansky-Pudlak症候群の1例. 第28回肺線維症研究会討議録, p. 44~57. 58. 9. 11.

松井祐佐公: 塵肺症におけるI型アレルギーの関与に関するアレルギー学的及び実験的研究. 昭和58年度京都大学医学部における研究業績報告集, p. 58, 59年11月1日.

荏原順一: サルコイドーシスにおける肺胞マクロファージの形態と機能の検討. サルコイドーシス研究会誌, 3: 18~22, 1983.

桂 義元, 行徳淳一郎, 大島駿作: 肺胞マクロファージの抗原提示能と抑制作用. 昭和58年度日米医学協力計画報告書, p. 273~288, 59年3月.

岩井和郎, 泉 孝英他: 病理所見からみた好酸球性肉芽腫症, ハンド・シュラー・クリスチャン病, レテラー, ジーベ病の異同について. 昭和57年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績, p. 261~263, 58年3月.

#### 〔学会, 研究会発表〕

大島駿作: シンポジウム「結核症の免疫学」気管支肺胞洗浄液中のマクロファージについて, 第59回日本結核病学会 (59. 4. 9).

大島駿作: 特別講演「高齢者の感染と免疫」第10回東海呼吸器感染症研究会 (59. 5. 26).

泉 孝英, 長井苑子, 荏原順一, 藤村直樹, 北市正則, 大島駿作: T lymphocyte alveolitis と B lymphocyte alveolitis (第3報) 活性化 T cell, B cell と予後. 第81回日本内科学会講演会 (59. 4. 1).

泉 孝英: シンポジウム「肺感染症の新しい問題点—細菌感染症を中心として—」ii. 微生物による局所の免疫反応. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 5).

泉 孝英, 長井苑子, 藤村直樹, 木野稔也, 大島駿作: 健康診断時に発見された肺サルコイドーシス症例の胸部X線所見上の予後—ステロイド剤投与群と非投与群の比較. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 7).

泉 孝英, 長井苑子, 田村 久, 大島駿作, 沢野哲重, 橋本圭司: 肺結核症におけるBALリンパ球サブセットの検討. 52回実験結核研究会総会 (59. 4. 7).

泉 孝英, 長井苑子, 田村 久, 北市正則, 大島駿作, 沢野哲重: 肺結核症例におけるBAL液中のリンパ球に関する検討. 第59回日本結核病学会総会 (59. 4. 8).

泉 孝英: 要望課題I「一般病院における肺結核症の対応」8. 欧米における結核病床. 第59回日本結核病学会総会 (59. 4. 9).

Izumi, T., Nagai, S., Tamura, H., Hirata, T.: Determination of OKT4<sup>+</sup> cells and OCT8<sup>+</sup> cells in BAL F lymphocytes as a tool of differential diagnosis of interstitial disorders. International Conference on Bronchoalveolar Lavage, Columbia (1984, 5, 17).

泉 孝英: テーマ(I)「間質性肺炎」3. 免疫学的機序についての最近の動き. 第12回過敏性肺炎研究会 (59. 6. 16).

泉 孝英, 長井苑子, 西村浩一, 古江増裕, 江村正二, 大島駿作: 肺胞蛋白症 2 症例における BALF・T リンパ球サブセットについて. 第7回日本気管支学会総会, (59.7.7).

泉 孝英: シンポジウム「産業構造の変遷と職業アレルギー」2. 慢性ベリリウム肺. 第15回職業アレルギー研究会 (59.7.20).

泉 孝英: モノクローナル抗体を用いたサルコイドーシスの免疫学的動態の解析. モノクローナル抗体研究会 (59.7.21).

Izumi, T., Nagai, S., Fujimura, N.: BALF lymphocyte findings as a predictive indicator of pulmonary sarcoidosis. 10th International Conference on Sarcoidosis and Other Granulomatous Disorders, Baltimore (1984. 9. 20).

泉 孝英: 特別講演「びまん性肺疾患における気管支肺胞洗滌法の臨床的意義」第38回岩手肺疾患研究会(59.10.13).

泉 孝英, 長井苑子, 大島駿作: 肺結核症例における肺胞マクロファージ・サブセットの検討, 第53回実験結核研究会 (59.10.26).

泉 孝英, 長井苑子, 藤村直樹, 北市正則, 木野稔也, 大島駿作: 自覚症状によって発見されたサルコイドーシス74例の5年後の所見について. 第4回サルコイドーシス研究会総会 (59.11.16).

泉 孝英: 特別講演Ⅲ「気管支肺洗浄の臨床的意義」第54回日本結核病学会第24回日本胸部疾患学会近畿地方会 (59.11.17).

木野稔也, 西村浩一, 福田康二, 荻原順一, 藤村直樹, 松井祐佐公, 泉 孝英, 大島駿作: 肺好酸球増多症, 過敏性肺臓炎, びまん性細気管支炎における真菌のアレルギー学的意義. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59.4.7).

木野稔也, 福田康二, 荻原順一, 泉 孝英: 水性ディオノジュールによる選択的肺胞造影後に PIE 症候群を呈し, 同時に IgE と真菌に対する IgE 抗体, 沈降抗体が検出された肺気腫の1例. 第22回過敏性肺炎研究会 (59.6.16).

Kino, T.: Symposium 「Environmental Aspect of Respiratory Diseases」 Roles of insect inhalant allergens in allergic respiratory diseases. XVII International Congress of Internal Medicine, Kyoto (1984. 10. 8).

木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: Enzyme linked immunosorbent assay (ELISA) によるヒト真菌 IgG 抗体の検出と真菌抗原力価の検討. 第34回日本アレルギー学会総会 (59.10.28).

木野稔也: サテライトシンポジウム「環境因子とアレルギー」1. アレルギー性気管支肺真菌症. 第34回日本アレルギー学会総会 (59.10.28).

木野稔也: 特別講演「吸入性昆虫アレルギーと気管支喘息」第6回新潟アレルギー研究会 (59.11.24).

門 政男, 荻原順一, 藤村直樹, 長井苑子, 泉 孝英, 大島駿作: びまん性間質性肺疾患の気管支洗滌液中液性成分に関する研究. 第7回日本気管支学会総会 (59.7.7).

門 政男, 西村浩一, 荻原順一, 長井苑子, 藤村直樹, 北市正則, 松井祐佐公, 泉 孝英, 大島駿作: 肺癌症例における気管支洗滌液中 CEA, Ferritin の検討. 第25回日本肺癌学会総会 (59.10.30).

門 政男 西村浩一, 北市正則, 大島駿作, 光岡明夫, 江村正仁: 肺原発の Hemangiopericytoma の一症例. 第42回日本肺癌学会関西支部会 (60.2.23).

門 政男, 松井祐佐公, 佐々木義行, 大島駿作, 黒住真史, 岩永迪孝, 杉本幾久雄: Wegener 肉芽腫症の気管支造影, 気管支鏡所見. 第22回近畿気管支鏡懇話会 (59.6.29).

門 政男, 西村浩一, 荻原順一, 古江増裕, 大島駿作: 気管支鏡鉗子チャンネルの汚染について. 第23回近畿気管支鏡懇話会 (59.11.2).

門 政男, 大島駿作, 田村康一, 人見滋樹: 気管支壁に突出したポリープ様気管支動脈の一症例. 第24回近畿気管支鏡懇話会 (60.3.1).

松井祐佐公, 西村浩一, 北市正則, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作: Malignant lymphoma of lymphomatoid granulomatosis type の気管支鏡所見. 第23回近畿気管支鏡懇話会 (59.11.2).

松井祐佐公, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 塵肺症における免疫グロブリンの増加に関する臨床的および実

驗的検討. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 6).

松井祐佐公, 大島駿作, 下方 薫, 原 耕平, 志摩 清, 源河圭一郎, 伊藤文雄: 肺癌症例における経口カプセル VP-16-213 の phase II study. 第22回日本癌治療学会総会 (59. 9. 27).

松井祐佐公, 門 政男, 大島駿作, 下方 薫, 原 耕平, 志摩 清, 源河圭一郎, 伊藤文雄: 肺癌症例における経口カプセル VP-16-213 の phase II study. 第25回日本肺癌学会総会 (59. 10. 31).

松井祐佐公, 北市正則, 安場広高, 長井苑子, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 皮膚病変で発症し, 多発性結節影が急速に増大した一症例. 第16回びまん性肺疾患研究会 (59. 9. 8).

松井祐佐公, 北市正則, 長井苑子, 泉 孝英, 大島駿作: 皮膚病変で発症した Malignant lymphoma of lymphomatoid granulomatosis type (旧名 lymphomatoid granulomatosis) の1例. 第4回サルコイドーシス研究会総会 (59. 11. 17).

北市正則, 泉 孝英, 平田健雄, 荏原順一, 長井苑子, 藤村直樹, 普天間健, 松井祐佐公, 武藤 真, 加藤達治, 島田一恵, 戸田佳代子, 細川昌則, 竹田俊男, 前川暢夫, 佐川弥之助, 大島駿作: 特発性間質性肺炎および膠原病性間質性肺炎症例の死因——剖検症例における検討. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 6).

北市正則, 浅本 仁, 古田陸広: 各種肺疾患における肺胞マクロファージの透過型電顕所見(第2報). 第73回日本病理学会総会 (59. 4. 5).

北市正則, 西村浩一, 鈴木康弘, 古田陸広: Hermasky-Pudlak 症候群(HPS)に伴う間質性肺炎と特発性間質性肺炎の比較検討. 第73回日本病理学会総会 (59. 4. 5).

Kitaichi, M., Nagai, S., Izumi, T.: An ultrastructural study of the alveolar macrophages in granulomatous and interstitial lung diseases. 10th International Conference on Sarcoidosis and Other Granulomatous Disorders. Baltimore (1984. 9. 22).

Kitaichi, M., Izumi, T.: Comparative pulmonary pathology of sarcoidosis, chronic beryllium disease and hypersensitivity pneumonitis based on open lung biopsy specimens. 10th International Conference on Sarcoidosis and Other Granulomatous Disorders. Baltimore (1984. 9. 22).

北市正則, 松井祐佐公, 泉 孝英, 大島駿作: Malignant lymphoma of lymphomatoid granulomatosis type (旧名 lymphomatoid granulomatosis) の1例の病理学的所見について. 第4回サルコイドーシス研究会総会 (59. 11. 16).

Hirata, T., Pinkston, P., Bitterman, P., Hance, A., Crystal, G.: Alveolar macrophage transferrin receptors in pulmonary sarcoidosis. American Thoracic Society 1984 Annual Meeting, Miami Beach (1984. 5. 23).

藤村直樹, 長井苑子, 泉 孝英: みがき粉石鹼の自己吸入による急性珪肺症の1例. じん肺研究会 (59. 3. 3).

藤村直樹, 木野稔也, 長井苑子, 北市正則, 泉 孝英, 大島駿作, 小川捨雄, 佐藤邦彦: 塗装工にみられたイソシアネートによる過敏性肺臓炎の免疫学的検討. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 7).

藤村直樹, 荏原順一, 長井苑子, 大島駿作, 泉 孝英, 大道重夫: 慢性ベリリウム肺に関する研究(第6報) その後の臨床経過について. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 5).

藤村直樹, 泉 孝英: イソシアネートによる過敏性肺臓炎と気管支喘息の臨床免疫学的検討. 第15回職業アレルギー研究会 (59. 7. 20).

Fujimura, N., Kurozumi, M., Nagai, S., Izumi, T.: Alveolar macrophages in sarcoidosis: Correlation between proportional changes in their morphology and clinical course. 10th International Conference on Sarcoidosis and Other Granulomatous Disorders. Baltimore (1984. 9. 21).

藤村直樹, 白川太郎, 高田範男, 北市正則, 長井苑子, 泉 孝英: アルミニウム含有溶接フラックス取扱者にみられた間質性肺炎の一例. 第25回 FLD シンポジウム (60. 3. 16).

荏原順一, 長井苑子, 西村浩一, 藤村直樹, 北市正則, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 大島駿作, 泉 孝英: びまん性間質性肺炎症例における CEA-S 値, CEA-Z 値の臨床的意義について. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 5).

荏原順一, 木野稔也, 安場広高, 江村正仁, 西村浩一, 泉 孝英, 大島駿作: PIE 症候群における血清中および BAL 液中の Eosinophil Chemotactic Factor および肺胞マクロファージの活性化状態についての検討. 第

24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 6).

Chihara, J., Izumi, T. : Elevated IgG-Fc receptor mediated alveolar macrophage function in epithelioid cell granulomatous disorders. International Conference on Bronchoalveolar lavage. Columbia (1984. 5. 17)

荏原順一, 松井祐佐公, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作 : PIE 症候群が発症し, 下肢痛を主訴とした播種性好酸球性膠原病 (DECD) の1例. 第113回日本内科学会近畿地方会 (59. 6. 23).

荏原順一, 長井苑子, 泉 孝英, 大島駿作 : びまん性肺疾患における BAL 肺胞マクロファージの Glucose Consumption についての検討. 第7回日本気管支学会総会 (59. 7. 7).

荏原順一, 木野稔也, 安場広高, 江村正仁, 西村浩一, 大島駿作, 泉 孝英 : 気管支肺胞洗浄細胞分画の検討—特にステロイド投与の影響について. 第34回日本アレルギー学会総会 (59. 10. 27).

荏原順一, 三尾直士, 古江増裕, 西村浩一, 長井苑子, 北市正則, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作 : 血中エストロゲン高値を呈し, 化学療法による tumor reduction に伴って性器出血をみた小細胞癌の一例. 第42回日本肺癌学会関西支部会 (60. 2. 23).

長井苑子, 田村 久, 大島駿作, 泉 孝英 : サルコイドーシス BALF リンパ球の double staining cell レベルからみた検討. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 6).

長井苑子, 田村 久, 藤村直樹, 江村正仁, 大島駿作, 泉 孝英 : サルコイドーシスにおける BALF リンパ球所見と胸部X線所見上の経過. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 7).

Nagai, S., Tamura, H., Izumi, T. : Activated T cells in BALF in sarcoidosis : Comparison of E 37°C cells, Tac<sup>+</sup> cells, and Ia<sup>+</sup> cells. International Conference on Bronchoalveolar Lavage. Baltimore (1984. 5. 17).

長井苑子 : パネルディスカッションⅡ. 「BAL の基礎と応用」 アレルギー性間質性肺疾患における BAL の有用性—サルコイドーシスにおける BALF cell の解析. 第7回日本気管支学会総会 (59. 7. 7).

長井苑子, 田村 久, 大島駿作, 泉 孝英, 沢野哲重, 橋本圭司 : サルコイドーシス症例における lung T cell の活性化について. 第12回日本臨床免疫学会総会 (59. 6. 28).

長井苑子, 泉 孝英 : サルコイドーシスにおける BALF および末梢血リンパ球の IL-2 に対する低反応性について. 第34回日本アレルギー学会総会 (59. 10. 29).

長井苑子, 泉 孝英, 竹内 実, 北市正則, 大島駿作, 橋本圭司, 沢野哲重 : サルコイドーシスにおける BAL リンパ球の IL-2 に対する反応性に関する検討. 第4回サルコイドーシス研究会総会 (59. 11. 16).

長井苑子, 泉 孝英 : 特別報告「サルコイドーシス研究の現状—ボルチモア国際会議から」免疫. 第4回サルコイドーシス研究会総会 (59. 11. 16).

長井苑子, 泉 孝英 : 10年以上の経過ののち線維化病変期に進展したサルコイドーシスの1例と本症例に対する家庭酸素療法の有効性について. 第4回サルコイドーシス研究会総会 (59. 11. 17).

長井苑子 : シンポジウム「過敏性肺炎の問題点をめぐって」BALF 細胞所見からみた過敏性肺炎の免疫学的考察. 第25回 FLD シンポジウム (60. 3. 16).

西村浩一, 泉 孝英, 長井苑子, 荏原順一, 藤村直樹, 北市正則, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 大島駿作, 藤堂義郎, 伊藤春海, 鳥塚莞爾, 本田和徳 : びまん性汎細気管支炎のX線 CT 像—末梢病変と中枢病変の対比を中心として. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 6).

西村浩一, 泉 孝英, 江村正仁, 古江増裕, 北市正則, 木野稔也, 大島駿作, 田中龍蔵, 村田喜代史, 藤堂義郎, 伊藤春海 : 最近経験した肺胞蛋白症3例のX線 CT 像 Review 像について. 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会 (59. 6. 30).

西村浩一, 泉 孝英, 門 政男, 木野稔也, 大島駿作, 村田喜代史, 藤堂義郎, 伊藤春海, 鳥塚莞爾 : RI 画像 (エアロゾルシンチ, 血流シンチ, 換気シンチ) によるびまん性汎細気管支炎の気道系病変についての検討. 第7回日本気管支学会総会 (59. 7. 6).

西村浩一, 泉 孝英, 大島駿作 : びまん性汎細気管支炎における細胞性免疫機能の検討—とくに肺気腫との比較—. 第29回閉塞性肺疾患研究会 (59. 7. 15).

西村浩一, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作 : DPB 病変の進展様式を追跡した7例. 第1回びまん性汎細気管支炎をめぐる研究会 (59. 7. 28).

西村浩一, 三尾直士, 荻原順一, 松井祐佐公, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作, 安場広高: 肺癌患者血清中の Neuron-specific-enolase (NSE) についての検討 (予報). 第24回日本胸部疾患学会近畿地方会 (59. 11. 17).

古江増裕, 木野稔也, 福田康二, 西村浩一, 大島駿作, 泉 孝英: びまん性汎細気管支炎症例における気道過敏性に関する検討. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 6).

古江増裕, 木野稔也, 松井祐佐公, 門 政男, 北市正則, 長井苑子, 泉 孝英, 大島駿作, 泰井俊造, 熊谷俊一: 妊娠22週で発熱, 呼吸困難, 胸水および囊水貯留のみられた SLE の1症例. 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会 (59. 6. 30).

古江増裕, 木野稔也, 佐々木義行, 泉 孝英, 大島駿作: ニトロセルローズ膜を固相担体に用いた RAST の検討. 第34回日本アレルギー学会総会 (59. 10. 27).

古江増裕, 長井苑子, 北市正則, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 胸部 CT 検査および BAL 検査所見から膠病肺が疑われたびまん性肺疾患の1例 (肺胞蛋白症). 第25回びまん性肺疾患研究会 (59. 6. 16).

江村正仁, 安場広高, 木野稔也, 荻原順一, 藤村直樹, 泉 孝英, 大島駿作, 上坂一郎: アレルギー性気管支肺真菌症と考えられた2症例. 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会 (59. 6. 30).

安場広高, 松井祐佐公, 門 政男, 北市正則, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 黒住真史, 山田安民, 池田貞雄: 興味あるレ線経過を示した原発性肺クリプトコッカス症の1例. 第113回日本内科学会近畿地方会 (59. 6. 23).

安場広高, 西村浩一, 泉 孝英, 長井苑子, 荻原順一, 藤村直樹, 北市正則, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 大島駿作: 選択的肺胞気管支造影によるびまん性汎細気管支炎の末梢気道病変の検討. 第7回日本気管支学会総会 (59. 7. 6).

三尾直士, 長井苑子, 北市正則, 泉 孝英, 大島駿作, 田村康一, 寺町政美, 人金滋樹, 今井弘行: 健康診断で両肺野に多発性結節性陰影を指摘された一例 (unusual sarcoidosis). 第27回びまん性肺疾患研究会 (59. 12. 8).

橋本圭司, 長井苑子, 泉 孝英, 北市正則, 藤村直樹, 竹内 実, 蔡 熒煌, 大島駿作: サルコイドーシスにおける臨床病期と BAL リンパ球所見の対比検討. 第4回サルコイドーシス研究会総会 (59. 11. 16).

Yamamoto, M., Izumi, T. et al.: A study of prognostic use of X-ray recording system for sarcoidosis, based on a modified ILO pneumoconiosis classification. 10th International Conference on Sarcoidosis and Other Granulomatous Disorders. Baltimore (1985, 9. 21).

Hiraga, Y., Izumi, T. et al.: CT findings of the lungs in sarcoidosis. International Conference on Sarcoidosis and Other Granulomatous Disorders. Baltimore (1985, 9. 22).

本田和徳, 荻原順一, 西村浩一, 長井苑子, 泉 孝英, 藤堂義郎: サルコイドーシス肺野病変の CT 像. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 7).

中沢次夫, 木野稔也, 泉 孝英他: わが国における PIE 症候群の現況 (第2報) 胸部レントゲル所見を中心として. 第24回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 5).

栃木崇男, 木野稔也他: *Aspergillus oryzae* と *Aspergillus fumigatus* 両種が原因真菌と考えられたアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の一症例. 第34回日本アレルギー学会総会 (59. 10. 29).

鎌刈邦彦, 北市正則他: 肺線維症を伴った Hermansky-Pudlak 症候群の1例. 第22回日本胸部疾患学会近畿地方会 (59. 6. 20).

越久仁敬, 北市正則他: 肺原発の Multifocal extramedullary plasmacytoma の1例. 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会 (59. 6. 20).

小野寺秀記, 泉 孝英, 北市正則他: 妊娠により増悪をきたしたびまん性肺疾患の1例 (Hamartoangiomyomatosis). 第27回びまん性肺疾患研究会 (59. 12. 8).

松村裕司, 北市正則他: 微熱を主訴とし短期間にびまん性肺陰影の消長をみた1例. 第28回びまん性肺疾患研究会 (60. 2. 16).

平井正志, 泉 孝英, 西村浩一他: 減量により夜間酸素飽和度の改善をみた閉塞性無呼吸症候群の1例. 第24回日本胸部疾患学会近畿地方会 (59. 11. 17).

〔そ の 他〕

- 大島駿作：高齢者肺炎．第4回滋賀県感染症症例検討会（59.5.12）．
- 泉 孝英：第5回胸部疾患セミナー「慢性閉塞性肺疾患のすべて」各論 1)慢性気管支炎およびびまん性汎細気管支炎．日本胸部疾患学会（59.4.8）．
- 泉 孝英：びまん性肺疾患—最近の話題．熊本チェストカンファレンス．熊本県医師会学術講演会（59.6.2）．
- 泉 孝英，三上理一郎，立花暉夫：サルコイドーシス．予後と治療をめぐって．阪南呼吸器談話会（59.6.21）．
- 泉 孝英：BAL と私．アレルギーの臨床，4(7)：541～544，1984．
- 泉 孝英：天地人「国際会議と International Conference」，*medicina*，21(9)：1675，1984．
- 泉 孝英：天地人「旅装案内」．*medicina*，21(11)：2043，1984．
- 泉 孝英：滋賀県高島郡医師会講習会「慢性閉塞性肺疾患」第1回 慢性閉塞性肺疾患の概念（59.11.30）．第2回 慢性気管支炎とびまん性汎細気管支炎（60.1.25）．第3回 気管支喘息（60.2.22）．第4回 慢性肺気腫（60.3.29）．
- 泉 孝英：特発性間質性肺炎と膠原病性間質性肺炎．昭和59年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会（60.1.26）．
- 泉 孝英：医学講座「びまん性細気管支炎」日本短波放送（59.4.10）．
- 泉 孝英，中村治雄：診療手帖「サルコイドーシスと ACE」日本短波放送（60.3.7）．
- 本間日臣，泉 孝英他：座談会「膠原病と肺疾患」呼吸，3(8)：982～993，1984．
- 泉 孝英：書評「織田敏次他編，免疫学用語辞典，最新医学社」カレントセラピー，3(3)：125，1985．
- 木野稔也：気管支喘息の診断と治療における最近の知見．滋賀県保険医協会講演会（59.9.8）．
- 木野稔也：気管支喘息の原因と治療に関する最近の知見．第25回新香里病院講演会（60.1.25）．
- 木野稔也：気管支喘息の治療．彦根市医師会講演会（60.2.16）．
- 長井苑子，泉 孝英：サルコイドーシスの免疫学的発症機序．第12回免疫カンファレンス（59.8.11）．
- 長井苑子：天地人「聖たまこがねの記（盲へび…の猫）」．*medicina*，21(5)：969，1984．
- 長井苑子，泉 孝英：サルコイドーシスの病態—気管支肺胞洗浄液を用いた検討．第1回関西医学セミナー（60.1.19）．

〔内科第二部門主催講演会〕

59. 7. 9

Ronald G. Crystal, (米国 NIH. 肺疾患部門主任)：Pathogenesis of Sarcoidosis.

59. 9. 3

Quentin N. Myrvik (米国ウェイクフォレスト大学ポーマングレイ医学校微生物学教室教授)：Characteristics of a macrophage migration stimulation factor

59. 11. 20

Om P. Sharma (米国南カルフォルニア大医学センター呼吸器科主任)：Hypersensitivity pneumonitis and sarcoidosis.

胸 部 外 科 部 門

〔学 会 発 表〕

〔シンポジウム・特別講演〕

伊藤元彦：胸腺腫と胸腺関連腫瘍，厚生省がん助成金によるワークショップ「胸腺腫の形態学」（59.2）．

伊藤元彦：両側性肺癌および反対側再発肺癌に対する手術，第84回日本外科学会シンポジウム「両側肺手術に

おける問題点」(59.4).

伊藤元彦：腫瘍発生母地としての胸腺構成細胞，第24回日本胸部疾患学会シンポジウム「胸腺の集学的研究」(59.4).

伊藤元彦，山中 晃，玉田二郎：肺腺癌の病理と臨床——産生粘液および産生蛋白からみた検討，第25回日本肺癌学会シンポジウム「肺腺癌の病理と臨床」(59.10).

伊藤元彦：呼吸器の細胞診，日本臨床細胞学会近畿支部会スライドカンファレンス出題(59.2).

伊藤元彦：末梢型肺癌の細胞診，第8回日本臨床細胞学会細胞検査士ワークショップ「呼吸器の細胞診」(59.12).

松原義人，畠中陸郎，船津武志，安田雄司，池 修，青木 稔，宮本好博，二宮和子，池田貞雄：人工気管による気管分岐部の再建，第37回日本胸部外科学会総会シンポジウム，(59.10).

船津武志：卒後教育セミナー「胸部外科における形態学的診断，縦隔鏡診断」第37回日本胸部外科学会総会(59.10).

土井 修，桑原正喜，倉田昌彦他6名：肺扁平上皮癌，肺癌の術後再発様式，第25回日本肺癌学会総会シンポジウム，(59.10).

千原幸司，寺田泰二，松延政一，外村聖一：老人医療をめぐる諸問題，超高齢者と手術，第22回日本日本社会保険医学会，(59.10.18).

## 〔学 会 発 表〕

### 1. 腫 瘍

光岡明夫，奥村典仁，瀧 俊彦，伊藤元彦，寺松 孝：HCG 産生肺巨細胞癌の1例，第40回日本肺癌学会関西支部会，(59.2.4).

竹田秋郎，大森英夫，高 欽澤，村木宏要，倉田昌彦，藤田正憲，田中瑩子，陳 和夫，室本 仁：切除後約7年6カ月目に他側肺転移を認めて再手術を行った肺腺癌の1例，同上学会，(59.2.4).

李 民実，梁 宗三，金 英一，人見滋樹：開業医外来を利用した肺癌地域検診にて発見し得た肺癌症例の検討，同上学会，(59.2.4).

八木一之，北野司久，藤尾 彰，朝倉床志，松井輝夫：Malignant Fibrous Histiocytoma の2手術例，同上学会，(59.2.4).

安田雄司，松原義人，池 修，青木 稔，宮本好博，中田 徹，桑原正喜，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄，横川智信，鈴木捷之，長谷川徹：肺癌における CEARIABEAD 法の検討，同上学会，(59.2.4).

青木 稔，安田雄司，池 修，中田 徹，宮本好博，桑原正喜，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：肺小細胞癌の外科治療，同上学会，(59.2.4).

二宮和子，安田雄司，池 修，青木 稔，宮本好博，桑原正喜，松原義人，畠中陸郎，船津武志，池田貞雄：肺癌に対する胸膜肺全剔除例の検討，同上学会，(59.2.4).

宮本好博，安田雄司，池 修，青木 稔，中田 徹，桑原正喜，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志：女性肺癌患者の検討，同上学会，(59.2.4).

池 修，安田雄司，青木 稔，宮本好博，中田 徹，桑原正喜，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：若年者肺癌の臨床的検討，同上学会，(59.2.4).

三宅正幸，岡田賢二，人見滋樹，望月敏弘，淀井省三：両側主気管支のほぼ完全閉塞を伴いながら，胸部X線写真で著変を示さなかった肺門部肺癌の1例，第21回近畿気管支鏡懇話会，(59.2.10).

寺田泰二，千原幸司，松延政一，外村聖一：集約的治療が奏効した肺小細胞癌の2例，第20回滋賀呼吸器談話会，(59.2.18).

北野司久，松井輝夫，朝倉庄志，八木一之，藤尾 彰：肺癌に対する in vivo 制癌剤感受性テストの検討，第17回制癌剤適応研究会，(59.3.2).

倉田昌彦，高 欽澤，竹田秋郎，村木宏要：再発乳癌の治療（腫瘍転移臓器別からの考察），第84回日本外科学会総会，(59.3.29～31).

田村康一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 和田洋己, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 再発肺癌に対する再切除——意義と適応, 同上学会, (59. 3. 29~31).

岡田賢二, 人見滋樹, 三宅正幸: 縦隔腫瘍と胸壁腫瘍の定義に関する一試案, 第24回日本胸部疾患学会総会, (59. 4. 5~7).

松原義人, 桑原正喜, 青木 稔, 池 修, 中田 徹, 安田雄司, 宮本好博, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者におけるモノクローナル抗体によるリンパ球サブセット, 同上学会, (59. 4. 5~7).

桑原正喜, 松原義人, 二宮和子, 安田雄司, 池 修, 中田 徹, 宮本好博, 青木 稔, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における血清 TPA, 同上学会, (59. 4. 5~7).

カレッド・レシャード, 高橋 豊, 高橋 衛, 岡野昌彦, 乾 健二, 竹内吉喜: 気管支鏡による肺癌の診断について, 静岡県癌治療研究会, (59. 4. 14).

安田雄司, 池 修, 青木 稔, 宮本好博, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 胸壁腫瘍の6切除例, 第135回近畿外科学会, (59. 4. 28).

池 修, 安田雄司, 青木 稔, 宮本好博, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 癌性心膜炎に対する Pericardiotomy の検討, 同上学会, (59. 4. 28).

村木宏要, 高 欽澤, 竹田秋郎, 倉田昌彦, 月江富男: 乳癌手術における有茎筋皮弁, 同上学会, (59. 4. 28).

小林 淳, 奥村典仁, 千葉 渉, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 田村康一, 瀧 俊彦, 和田洋己, 伊藤元彦: 左主気管支管状切除を実施したカルチノイドの1例, 同上学会, (59. 4. 28).

寺田泰二, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦, 千原幸司, 和田洋己, 伊藤元彦: 癌性胸膜炎に対する肺剥皮術例, 同上学会, (59. 4. 28).

朝倉庄志, 松井輝夫, 八木一之, 藤尾 彰, 北野司久: カルチノイドの切除症例6例の検討, 同上学会, (59. 4. 28).

桑原正喜: 肋骨後部に発生した軟骨性外骨腫, 大阪から肺がんをなくす会, (59. 4).

伊藤元彦: 肺癌の外科治療, 最近の動向, 京都外科医会特別講演, (59. 4).

カレッド・レシャード, 乾 健二, 高橋 豊, 梅宮正志, 岡野昌彦, 竹内吉喜: 癌性胸膜炎の治療成績, 静岡県がん免疫化学療法研究会, (59. 6. 2).

高井昌子, 倉田昌彦, 友田慎典: 肺癌および乳癌の血中免疫抑制酸性蛋白 (IAP) と  $\alpha$ -glycoprotein について, 第17回日本臨床病理学会近畿支部総会, (59. 6. 3).

高橋 豊, 梅宮正志, 岡野昌彦, 乾 健二, カレッド・レシャード, 利光 敏, 立花昭生, 岡野 弘: 左横隔神経に発生した神経鞘腫の一例, 第45回日本胸部疾患学会東海地方学会, (59. 6. 9).

乾 健二, カレッド・レシャード, 高橋 豊, 竹内吉喜: 当院における転移性肺腫瘍切除例の検討, 同上学会 (59. 6. 9).

植野辰雄, カレッド・レシャード, 高橋 豊, 梅宮正志, 岡野昌彦, 乾 健二, 竹内吉喜: 当院における原発性肺癌の診断率の検討, 同上学会, (59. 6. 10).

カレッド・レシャード, 乾 健二, 高橋 豊, 梅宮正志, 竹内吉喜: 75歳以上の高齢者進行肺癌切除例の検討, 第27回胸部外科学会関西地方会, (59. 6. 15~16).

畠中陸郎, 青木 稔, 安田雄二, 池 修, 宮本好博, 桑原正喜, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 進行肺癌の外科治療——縦隔鏡検査からの検討, 同上学会, (59. 6. 15~16).

田村康一, 千葉 渉, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 利田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝: 進行肺癌の外科治療——肺再切除例の意義および適応, 同上学会, (59. 6. 15~16).

千原幸司, 千葉 渉, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 清水慶彦, 渡部 智, 外村聖一, 松延政一, 寺田泰二: 胸郭合併切除を施行した肺癌症例の検討, 同上学会, (59. 6. 15~16).

村木宏要, 倉田昌彦, 高 欽澤, 竹田秋郎, 端 和夫, 青山育弘, 大竹克美: 原発性肺癌の脳転移症例について, 同上学会, (59. 6. 15~16).

神頭 徹, 玉田二郎, 横見瀬裕保: 気管管状切除を施行した Adenoid cystic carcinoma の1例, 同上学会,

(59.6.15~16).

横見瀬裕保, 玉田二郎, 神頭 徹: 縦隔内神経鞘腫の3切除例, 同上学会, (59.6.15~16).

朝倉庄志, 松井輝夫, 八木一之, 藤尾 彰, 北野司久: 肋骨腫瘍切除症例4例の検討, 同上学会, (59.6.15~16).

長谷川誠紀, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 林 丘, 秋山文弥: 広範な出血壊死を伴った胸腔内腺腫様甲状腺腫の一例, 同上学会, (59.6.15~16).

高橋 豊, 梅宮正志, 岡野昌彦, 乾 健二, カレッド・レシャード, 利光 敏, 立花昭生, 岡野 弘: 左横隔神経に発生した神経鞘腫の一例, 静岡県外科医会第130回集談会, (59.6.16).

村木宏要, 竹田秋郎, 佐藤友信, 倉田昌彦: 経気管支 Cisplatin 局所注射が奏効した肺癌(扁平上皮癌)の1例, 第22回近畿気管支鏡懇話会, (59.6.29).

中村達雄, 三宅正幸, 住友伸一, 蕭 金宝, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 渡部 智, 和田洋己, 清水慶彦, 伊藤元彦, 人見滋樹: 胸壁縦隔内で悪性変化した von Recklinghausen 病の3症例, 第53回日本結核病学会, 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会近畿地方会, (59.6).

佐藤友信, 倉田昌彦, 竹田秋郎, 村木宏要, 藤川 潤, 陳 和夫, 田中瑩子, 鍵岡 健, 久保勝彦, 室本 仁: CA・19-9 高値にて発見された mucoepidermoid carcinoma の1例, 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会, (59.6.30).

人見滋樹: 早期肺癌の発見と治療, 島田市医師会学術講演会, (59.7.4).

カレッド・レシャード, 乾 健二, 高橋 豊, 梅宮正志, 岡野昌彦, 竹内吉喜: 当科における原発性肺癌の診断率について, 第7回日本気管支学会総会, (59.7.7).

竹内吉喜, 梅宮正志, 高橋 豊, 岡野昌彦, 乾 健二, 鈴木 清, カレッド・レシャード: 肺癌診断におけるBALの生化学的検査の有用性, 第44回中部肺癌学会, (59.7.7).

鈴木 清, 高橋 豊, 岡野昌彦, 乾 健二, 竹内吉喜, カレッド・レシャード: 血清シアル酸値は肺癌のマーカーとなりうるか, 同上学会, (59.7.7).

人見滋樹: 肺癌の早期診断, 舞鶴市医師会学術講演会, (59.7.11).

江崎 寛, 鈴木雄二郎, 坂東憲司, 長谷光雄, 高嶋義光: 最近33例の癌性胸膜炎に対する胸膜癒着術の成績, 第18回日本肺癌学会北陸地方会, (59.7.14).

住友伸一, 三宅正幸, 李 民実, 中村達雄, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: 放射線治療1年10カ月後に手術した肺癌の1例, 第41回日本肺癌学会関西支部会, (59.7.21).

田村康一, 三宅正幸, 李 民実, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 西山秀樹, 西島直城, 渡部 智, 清水慶彦: パンコースト型肺尖部胸壁浸潤肺癌の1手術例, 同上学会, (59.7.21).

小林 淳, 岡田賢二, 桑原正喜, 三宅正幸, 伊藤元彦, 人見滋樹: Post-inflammatory Pseudotumor の1例, 同上学会, (59.7.21).

宮本好博, 安田雄司, 池 修, 青木 稔, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: Neuroblastoma の組織像を伴った teratoma の一切除例, 同上学会, (59.7.21).

青木 稔, 安田雄司, 池 修, 宮本好博, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 縦隔カルチノイドの1例, 同上学会, (59.7.21).

池 修, 安田雄司, 青木 稔, 宮本好博, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 肺原発 Hemangiopericytoma の1切除例, 同上学会, (59.7.21).

安田雄司, 池 修, 青木 稔, 宮本好博, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺腫瘍が疑われた悪性リンパ腫の1例, 同上学会, (59.7.21).

桑原正喜, 岡田賢二, 小林 淳, 大津 章, Roentgenologically occult lung cancer, 第2回阪神呼吸器疾患勉強会, (59.7).

高橋 豊, 梅宮正志, 岡野昌彦, 乾 健二, 竹内吉喜, カレッド・レシャード: 縦隔嚢状リンパ管腫の1切除

例, 静岡県外科医会第131回集談会, (59. 9. 8).

人見滋樹: 煙草と肺癌, 読売テレビ, テレビドクター, (59. 9. 22).

人見滋樹, 倉田昌彦, 池田貞雄, 船津武志, 甲斐隆義, 玉田二郎: 胸腔鏡検査, 第22回日本癌治療学会総会, (59. 9. 26~28).

人見滋樹, 船津武志, Maassen: 縦隔鏡検査, 同上学会, (59. 9. 26~28).

青木 稔, 松原義人, 安田雄司, 池 修, 宮本好博, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者におけるリンパ球サブセットの検討, 同上学会, (59. 9. 26~28).

松原義人, 二宮和子, 青木 稔, 安田雄司, 池 修, 宮本好博, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄, 桑原正喜: 肺癌における腫瘍マーカーの臨床的評価——TPA を中心として, 同上学会, (59. 9. 26~28).

和田洋己, 松延政一, カレッド・レシャード, 岡田賢二, 人見滋樹: 超高齢者(80歳以上)の肺癌手術の問題点, 第37回日本胸部外科学会総会, (59. 10. 4).

カレッド・レシャード, 高橋 豊, 乾 健二, 竹内吉喜: 癌性胸膜炎の外科療法の検討, 同上学会, (59. 10. 4).

竹田秋郎, 佐藤友信, 村木宏要, 倉田昌彦, 井家久雄, 松本浩生, 里村一成: 乳癌の皮膚転移におけるレーザー焼灼の経験, 第136回近畿外科学会, (59. 10. 27).

呉 俊雄, 寺田泰二, 千原幸司, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦: 胸壁合併切除, Sleeve lobectomy, 肺動脈分節切除を施行した肺癌の1手術例, 同上学会, (59. 10. 27).

藤尾 彰, 北野司久, 八木一之, 朝倉庄志, 松井輝夫: 当院における縦隔腫瘍手術例の検討, 同上学会, (59. 10. 27).

池 修, 安田雄司, 青木 稔, 宮本好博, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 食道筋層に発生した気管支嚢腫の1例, 同上学会, (59. 10. 27).

安田雄司, 池 修, 青木 稔, 宮本好博, 松原義人, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄, 若林陽夫: 人間ドックで発見された食道平滑筋腫の2例, 同上学会, (59. 10. 27).

倉田昌彦, 佐藤友信, 竹田秋郎, 村木宏要, 室本 仁, 田中瑩子, 陳 和夫, 鍵岡 均: III期肺癌の手術適応, 第25回日本肺癌学会総会, (59. 10. 30).

土井 修, 児玉 憲, 門田康生, 安光 勉, 桑原 修, 桑原正喜, 倉田昌彦, 沢村猷児, 森 隆: 肺, 扁平上皮癌, 腺癌の再発様式, 同上学会, (59. 10. 30).

光岡明夫, 有安哲哉, 大野暢宏, 呉 俊雄, 寺町政美, 埜 健, 室恒太郎, 和澤 仁, 李 民実, 三宅正幸, 中村達雄, 住友伸一, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 山下純宏: 組織型から肺癌転移の検討, 同上学会, (59. 10. 30).

横見瀬裕保, 玉田二郎, 神頭 徹: 狭心症合併原発性肺癌手術症例の検討, 同上学会, (59. 10. 30).

玉田二郎, 神頭 徹, 横見瀬裕保: 根治目的照射後に肺切除を施行した肺癌2例の検討, 同上学会, (59. 10. 30).

北野司久, 松井輝夫, 朝倉庄志, 八木一之, 藤尾 彰: In vivo 制癌剤感受性テストの基礎的検討——肺癌Xeno-Graft を中心にして, 同上学会, (59. 10. 30).

カレッド・レシャード, 乾 健二, 高橋 豊, 梅宮正志, 鈴木 清, 竹内吉喜: 肺癌における各種腫瘍マーカーの検討, 同上学会, (59. 10. 30).

田村康一, 三宅正幸, 李 民実, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: 肺癌における気管支形成術, 同上学会, (59. 10. 30).

船津武志, 松原義人, 畠中陸郎, 宮本好博, 池 修, 青木 稔, 安田雄司, 二宮和子, 池田貞雄: 肺癌 N<sub>2</sub> 症例の手術適応——縦隔鏡検査からの検討, 同上学会, (59. 10. 30).

松原義人, 安田雄二, 池 修, 宮本好博, 青木 稔, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における腫瘍関連抗原・TA-4, 同上学会, (59. 10. 30).

安田雄司, 松原義人, 池 修, 青木 稔, 宮本好博, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌組織中における TPA と CEA, 同上学会, (59. 10. 30).

- 二宮和子, 安田雄司, 池 修, 青木 稔, 宮本好博, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌に対する胸膜肺全剥除術の検討, 同上学会, (59. 10. 30).
- 人見滋樹: 肺癌の外科療法, 第423回セミナー, 肺癌の診断と治療, (59. 11. 11).
- 人見滋樹, 田村康一: 肺癌の手術 縦隔鏡検査と右中下葉切除術, 第46回日本臨床医学会総会, (59. 11. 16~18).
- 池田貞雄, 松原義人, 畠中陸郎, 宮本好博, 池 修, 青木 稔, 二宮和子, 安田雄司, 船津武志: 進行肺癌の外科治療——人工気管による気管分岐部の再建, 同上学会, (59. 11. 16~18).
- 人見滋樹: 早期肺癌を見つけるために, 京都医師会学術講演会, (59. 11. 16).
- 梅宮正志, カレッド・レシャード, 岡野昌彦, 乾 健二, 高橋 豊, 竹内吉喜: 卵巣腫瘍による肺塞栓の1例, 第46回日本胸部疾患学会東海地方会, (59. 11. 17).
- 長谷川誠紀, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 田辺 一, 秋山文弥: 気管カルチノイドの1例, 同上学会, (59. 11. 17).
- 高橋 豊, 梅宮正志, 岡野昌彦, 乾 健二, 竹内吉喜, カレッド・レシャード: 縦隔嚢状リンパ管の1切除例, 同上学会, (59. 11. 17).
- 朝倉庄志, 松井輝夫, 八木一之, 藤尾 彰, 北野司久: 限局性中皮腫の1切除例, 第24回日本胸部疾患学会近畿地方会, (59. 11. 17).
- 陣 和夫, 鍵岡 均, 高山康夫, 藤川 潤, 久保勝彦, 室本 仁, 倉田昌彦, 竹田秋郎, 村木宏要, 佐藤友信, 金田倫幸: 肺癌症例における CA19-9 の検討, 同上学会, (59. 11. 17).
- 桑原正喜, 岡田賢二, 小林 淳: 前縦隔腫瘍に対する新しい生検法 (TSPB) 同上学会, (59. 11. 17).
- 人見滋樹: 肺癌の診断と治療——最近のトピックス, 枚方医師会学術講演会, (59. 11. 17).
- カレッド・レシャード: 喀痰細胞診断法の意義, 島田医師会, (59. 11. 20).
- 人見滋樹: リンパ節転移から見た肺癌手術限界シンポジウム「肺癌の手術限界とその画像診断, 第20回日本医学放射線学会秋季臨床大会, (59. 11. 22).
- 人見滋樹: 肺癌の外科療法——リンパ節転移の廓清を中心として, 第45回大阪呼吸器疾患懇話会, (59. 11. 28).
- 人見滋樹: 肺癌の早期発見——開業医と専門病院の協力体制はどうあるべきか, 大阪市生野区医師会学術講演会, (59. 11. 28).
- 長谷寛二, 中野 豊, 高橋 豊, 乾 健二, 竹内吉喜, カレッド・レシャード: 原発性肺腺癌の脳転移巣に対し, Etopocide が有効であった1例, 第5回静岡県癌治療研究会, (59. 12. 1).
- 呉 俊雄, 寺田泰二, 千原幸司, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦: 肺結核と合併した肺癌の1手術例, 第22回滋賀呼吸器談話会, (59. 12. 8).
- 竹内吉喜, 梅宮正志, 高橋 豊, 乾 健二, カレッド・レシャード: 当科で経験した重複癌9例の検討, 第45回中部肺癌学会, (59. 12. 15).
- 鈴木 清, 高橋 豊, 梅宮正志, 乾 健二, 竹内吉喜, カレッド・レシャード: TPA・腫瘍および非腫瘍性肺疾患との関連について, 同上学会, (59. 12. 15).
- 鈴木 清, 高橋 豊, 梅宮正志, 乾 健二, 竹内吉着, カレッド・レシャード: 血清 IAP 値は肺癌の腫瘍マーカーになりうるか, 同上学会, (59. 12. 15).
- 久場睦夫, 宮城 茂, 仲宗根恵俊, 大湾朝忠, 大城盛夫, 石川清司, 国吉真行, 源河圭一郎, 外間政哲: 非小細胞肺癌に対するシスプラチンを主体とした多剤併用療法の検討, 第24回日本肺癌学会九州地方会, 熊本, 1984.
- 源河圭一郎, 前里和夫, 石川清司, 国吉真行, 城間 寛, 普久原浩, 野原雄介: 気管支内軟骨腫の1治験例, 第7回九州気管支研究会, 長崎, 1984.
- 久場睦夫, 仲宗根恵俊, 宮城 茂, 下地克佳, 大城盛夫, 石川清司, 国吉真行, 前里和夫, 城間 寛, 源河圭一郎: 当院における気管支動脈造影検査 (BAG) および気管支動脈内制癌剤注入療法 (BAI) の検討, 第63回沖縄県医師会医学会, 1984.
- 石川清司, 城間 寛, 前里和夫, 国吉真行, 源河圭一郎, 久場睦夫, 宮城 茂, 仲宗根恵俊, 大湾朝忠, 大城盛夫: 前縦隔発生悪性腫瘍の治療方針に関する検討, 同上学会, (1984).

国吉真行, 城間 寛, 前里和夫, 石川清司, 源河圭一郎, 上里忠興, 松井克明, 比嘉政昭: 肺原発と思われる Malignant fibrous histiocytoma (MFH) の1手術例, 同上学会, (1984).

中野 豊, 坂本益雄, 梅宮正志, 高橋 豊, 乾 健二, 竹内吉喜, カレッド・レシャード: 当院における Stage IV の化学療法例について, 同上学会, (59. 12. 15).

久場睦夫, 豊見山寛, 宮城 茂, 仲宗根恵俊, 石川清司, 国吉真行, 源河圭一郎, 外間政哲: 当院における第一次及び第二次プロトコールによる非小細胞肺癌の治療成績, 第3回九州肺癌化学療法研究会世話人会, 福岡, 3月, 1984.

瀧 俊彦, 光岡明夫, 伊藤元彦, 奥村典仁, 小林 淳, 江崎 寛, 中村達雄, 住友伸一, 田村康一, 和田洋己, 寺松 孝: 肺癌所属リンパ節における T cell subset の検討, 第24回日本胸部疾患学会総会, (59. 4. 5~7).

久場睦夫, 仲宗根恵俊, 宮城 茂, 下地克佳, 石川清司, 国吉真行, 城間 寛, 前里和夫, 源河圭一郎, 外間政哲: 当院における第二次研究会中間結果について, 第3回九州肺癌化学療法研究会, 熊本, 6月, 1984.

久場睦夫, 仲宗根恵俊, 下地克佳, 石川清司, 国吉真行, 城間 寛, 前里和夫, 源河圭一郎: 1.5 cm 以下の陰影の切除例の検討, 第10回肺癌診断会, 神奈川, 7月, 1984.

松井祐佐公, 大島駿作, 下方 薫, 伊藤文雄, 原 耕平, 志摩 清, 源河圭一郎: 肺癌症例における経口カプセル VP-16-213 の phase II study, 第22回日本癌治療学会総会 (59. 9. 26~28).

瀧 俊彦, 三宅正幸, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 田村康一, 渡部 智, 和田洋己, 清水慶彦, 伊藤元彦, 人見滋樹: 肺癌準治癒手術 (R<sub>2</sub>, N<sub>2</sub>) 症例の検討, 第37回日本胸部外科学会総会 (59. 10. 4).

唐澤和夫, 平田 保, 平井利和, 西山祥行, 小松彦太郎, 平田正信, 石渡弘一, 土屋俊晶, 柳内 登, 五十部潤, 天羽道男, 石川創二, 生嶋宏彦, 沢村献児, 桑原 修, 吉川尚彦, 南城 悟, 半井一郎, 岩崎健資, 入来敦久, 源河圭一郎: 原発性肺癌に対する limited operation, 第25回日本肺癌学会総会, (59. 10. 30).

桑原 修, 平田 保, 早乙女一男, 柳内 登, 平井利和, 西山祥行, 小松彦太郎, 平田正信, 石渡弘一, 秋山三郎, 井内敬二, 中井 勲, 半井一郎, 岩崎健資, 武藤 真, 入来敦久, 源河圭一郎: 肺癌手術後の重複癌と今後の対応, 同上学会, (59. 10. 30).

久場睦夫, 仲宗根恵俊, 宮城 茂, 下地克佳, 大城盛夫, 石川清司, 国吉真行, 城間 寛, 前里和夫, 源河圭一郎, 大宜見辰雄, 外間政哲: 若年者肺癌例の検討, 同上学会, (59. 10. 30).

松井祐佐公, 門 政男, 大島駿作, 下方 薫, 伊藤文雄, 原 耕平, 志摩 清, 源河圭一郎: 肺癌症例における経口カプセル VP-16-23 の phase II study, 同上学会, (59. 10. 30).

瀧 俊彦, 光岡明夫, 伊藤元彦, 有安哲哉, 大野暢宏, 呉 俊雄, 寺町政美, 埜 健, 室恒太郎, 和澤 仁, 李 民実, 三宅正幸, 中村達雄, 住友伸一, 田村康一, 和田洋己, 人見滋樹他2名: 肺癌所属リンパ節におけるリンパ球サブセットの検討, 同上学会, (59. 10. 30).

石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 城間 寛, 前里和夫: 縦隔腫瘍切除症例の臨床的検討——特に前縦隔発生悪性腫瘍の治療方針について, 第46回日本臨床外科医学会総会, (59. 11. 16~18).

城間 寛, 源河圭一郎, 前川清司, 国吉真行, 前里和夫: 原発性肺癌肉腫の1例, 第17回日本胸部外科学会九州地方会, 熊本, 1984.

石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 城間 寛, 前里和夫: 前縦隔に発生した扁平上皮癌の1切除例, 同上学会, (1984).

国吉真行, 城間 寛, 前里和夫, 石川清司, 源河圭一郎, 上里忠興: 肺原発と思われる Malignant fibrous histiocytoma の1手術例, 同上学会, (1984).

久場睦夫, 仲宗根恵俊, 宮城 茂, 下地克佳, 大湾朝忠, 大城盛夫, 石川清司, 国吉真行, 前里和夫, 城間寛, 源河圭一郎: 肺結核を合併した肺癌例の検討, 第64回沖縄県医師会医学会, 1984.

宮城 茂, 下地克佳, 久場睦夫, 仲宗根恵俊, 大城盛夫, 前里和夫, 石川清司, 国真行, 源河圭一郎: 肺癌の早期発見に関する試み——集検時のダブルリーディング——, 同上学会, (1984).

国吉真行, 普久原浩, 城間 寛, 前里和夫, 石川清司, 源河圭一郎, 下地克佳: 肺カルチノイド2例の経験, 同上学会, (1984).

石川清司, 城間 寛, 国吉真行, 前里和夫, 源河圭一郎, 長嶺信夫:  $\alpha$ -フェトプロテイン産生胃癌の1例, 同

上学会, (1984).

## 2. 胸腺・免疫

光岡明夫, 瀧 俊彦, 米津智徳, 馬場満男: SAM の免疫能の検討, 第1回老化促進モデルマウス (SAM) 研究協議会, (59.3).

和田洋己, 小林 淳, 奥村典仁, 江崎 寛, 住友伸一, 中村達雄, 光岡明夫, 田村康一, 瀧 俊彦, 伊藤元彦, カレッド・レシャード, 乾 健二: 重症筋無力症患者に対する胸腺摘除術の効果, 第24回日本胸部疾患学会総会, (59.4.5~7).

光岡明夫, 小林 淳, 奥村典仁, 江崎 寛, 三宅正幸, 中村達雄, 住友伸一, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦: 胸腺および胸腺腫の T cell subset の OK-432抗体による検討, 同上学会, (59.4.5~7).

藤尾 彰, 松井輝夫, 朝倉庄志, 八木一之, 北野司久: 胸腺原発カルチノイドの1手術例, 第27回日本胸部外科学会関西地方会, (59.6.15~16).

岡田賢二, 桑原正喜, 小林 淳, 人見滋樹: 胸腺腫の病理学的所見, 手術所見, 核 DNA 分析, 同上学会, (59.6.15~16).

倉田昌彦, 竹田秋郎, 村木宏要, 高 欽澤, 小中義照, 藤田正憲: 重症筋無力症と純赤芽球性貧血を共に合併した胸腺腫症例の2例, 同上学会, (59.6.15~16).

小林 淳, 岡田賢二, 桑原正喜: 胸腺腫に合併した悪性腫瘍の2症例, 京大胸部研外科夏季研究会, (59.7.28).

岡田賢二, 小林 淳, 三宅正幸, 桑原正喜, 星野一正, 和田洋己, 人見滋樹: 胸腺腫の核 DNA 量と DNA モードの解析, 第3回胸腺研究会, (59.10.5).

伊藤元彦, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋己, 人見滋樹: 胸腺および胸腺腫リンパ球のモノクローナル抗体による解析, 同上学会, (59.10.5).

北野司久, 朝倉庄志, 松井輝夫, 藤尾 彰: 心タンポナーデを起こした悪性胸腺腫の2症例, 同上学会, (59.10.5).

倉田昌彦: 胸腺腫に合併した PRCA の4例, 同上学会, (59.10.5).

伊藤元彦: 胸腺腫——最近の知見, 高知胸部医会特別講演, (59.11).

須賀博文, 光岡明夫, 伊藤元彦ほか3名: ヒト胸腺にみられた神経ペプチド活性, 第11回日本内分泌学会経内分泌分科会, (59.11).

伊藤元彦: 胸腺腫リンパ球のモノクローナル抗体による検討, 厚生省がん研究正岡班々会議, (59.11).

高嶋義光, 江崎 寛, 鈴木雄二郎, 武藤 真, 長谷光雄: 気縦隔 CT を行った重症筋無力症の1例, 第20回日本胸部疾患学会北陸地方会, (59.11.10).

高嶋義光, 江崎 寛, 武藤 真, 鈴木雄二郎, 長谷光雄: 化学療法により部分寛解した悪性胸腺腫の1例, 第3回福井癌研究会, (59.11.17).

## 3. 結 核

和田洋己, 住友伸一, 中村達雄, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 伊藤元彦: 当施設における慢性膿胸の外科療法——278例の検討, 第59回日本結核病学会総会, (59.3).

カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 高橋 豊, 岡野昌彦, 乾 健二: 一般病院における肺結核症の必応, 第59回日本結核学会総会, (59.4).

カレッド・レシャード, 乾 健二, 神頭 徹, 竹内吉喜, 高橋 豊: 膿胸100例の治療成績の検討, 第24回日本胸部疾患学会総会, (59.4.6).

坂本益雄, カレッド・レシャード, 中野 豊, 宮崎之男, 梅宮正志, 高橋 豊, 乾 健二, 竹内吉喜: 粟粒結核, 自験例の検討, 第64回日本結核学会東海地方学会, (59.11.17).

畠中睦郎, 安田雄二, 池 修, 一木 稔, 宮本好博, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 膿胸の外科治療, 第54回日本結核病学会, 第24回日本胸部疾患学会, 近畿地方会, (59.11.17).

寺田泰二, 呉 俊雄, 千原幸司, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦: 結核性左主気管支狭窄症の手術治験例, 第22回滋賀呼吸談話会, (59.12.8).

千原幸司, 呉 俊雄, 寺田泰二, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦: 興味ある胸部X線像を呈した多剤耐性肺結核の1例, 同上学会, (59.12.8).

石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 前里和夫, 城間 寛, 金城 毅: 肺結核症経過中に発生した縦隔の Castleman's Lymphoma の1例, 第25回日本肺癌学会総会, (59.10).

#### 4. 人工材料

松原義人, 小鯖 覚, 桑原正喜, 安田雄二, 中田 徹, 青木 稔, 二宮和子, 畠中睦郎, 船津武志, 池田貞雄: 人工気管の実験的研究, 第84回日本外科学会, (59.3.29~31).

寺田泰二, 千原幸司, 松延政一, 外村聖一, 中谷史郎, 和田洋己, 伊藤元彦: IPPV に重乗するオシレーションジェネレーター, 第24回日本胸部疾患学会総会, (59.4.6).

松原義人, 小鯖 覚, 桑原正喜, 池 修, 宮本好博, 青木 稔, 安田雄司, 畠中睦郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: Neville 人工気管に関する実験的研究, 第7回日本気管支学会総会, (59.7.6~7).

渡部 智, 清水慶彦, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 江崎 寛, 高嶋義光, 寺田泰二, 千原幸司, 松延政一, 外村聖一, 加藤弘文, 岡田慶夫: アルミナ・セラミックス肋骨接合ピンの臨床的検討, 第37回日本胸部外科学会総会, (59.10.3~5).

池田貞雄, 松原義人, 青木 稔, 池 修, 安田雄二, 宮本好博, 二宮和子, 畠中睦郎, 船津武志: 人工気管の実験的研究, 同上学会, (59.10.3~5).

松原義人, 畠中睦郎, 船津武志, 池田貞雄: 第36回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会, (59.11.9~10).

渡部 智, 清水慶彦, 中村達雄, 人見滋樹, 日野常稔: 医用合成高分子材料の Biolization と抗菌活性機能の付与, 第22回日本人臓器学会大会, (59.11.9~10).

田村康一, 中村達雄, 水野 浩, 岡田賢二, 人見滋樹, 清水慶彦, 加藤弘文, 寺松 孝, 他2名: Polyvinyl Alcohol-Silica Composite の人工血管への応用——細小動脈置換例の開存率の検討, 同上学会, (59.11.9~10).

岡田賢二, 中村達雄, 水野 浩, 田村康一, 人見滋樹, 清水慶彦, 加藤弘文, 日野常稔, 城 靖, 寺松 孝: 上大静脈移植における新しい材料の試み——Heparinized polyvinyl alcohol-silica と Cardio thano 同上学会, (59.11.9~10).

田村康一, 中村達雄, 水野 浩, 岡田賢二, 人見滋樹, 渡部 智, 寺松 孝, 他1名: 第6回日本バイオマテリアル学会大会, (59.11.22~23).

渡部 智, 清水慶彦, 中村達雄, 人見滋樹, 日野常稔: 広範な抗菌力を有する生体内埋植用医用材料, 同上学会, (59.11.22~23).

林 寿郎, 中村達雄, 清水慶彦, 中島章夫: 親水性ポリアミノ酸膜の癒着防止材としての評価(1)膜の構造物性と in vitro 評価, 同上学会, (59.11.22~23).

和田良一, 渡部 智, 清水慶彦, 中村達雄, 田村康一, 人見滋樹他: ポリ乳酸マイクロスフェアからの抗癌剤の徐放, 同上学会, (59.11.22~23).

中村達雄, 住友伸一, 田村康一, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦, 筏 義人, 玄 丞, K. Jamshidi: 生体内分解性高分子材料の分解と生体に及ぼす影響(Ⅲ), 同上学会, (59.11.22~23).

中村達雄, 人見滋樹, 林 寿郎, 渡部 智, 清水慶彦, 中島章夫: 親水性ポリアミノ酸膜の癒着防止材としての評価(2)家兎による in vivo 評価, 同上学会, (59.11.22~23).

#### 5. 心・血管

宮本信昭: パネルディスクッション——高知県の心臓検診を推進するためにはどうすればよいか——専門医療機関の立場から, 第16回回若年者心疾患対策協議会総会, (59.1.28).

山崎文郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 河原崎茂孝, 林 丘, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 大動脈弁狭窄

症を合併した大動脈縮窄症に対する二期的手術の1例, 第63回日本循環器学会東海地方会, (59.2).

林 丘, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 僧帽弁鎖不全を伴った三心房心の1例, 同上学会, (59.2).

山崎文郎, 島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 高橋憲太郎, 河原崎茂孝, 林 丘, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 解離性大動脈瘤に対する Thromboexclusion 法の検討——一時的末梢側バルーン閉塞同時併施法の意義, 第14回日本心臓血管外科学会総会, (59.2).

篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 林 丘, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 三尖弁閉鎖不全と肺高血圧を中心に見た僧帽手術症例の予後, 同上学会, (59.2).

河原崎茂孝, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 林 丘, 長谷川誠紀, 秋山文弥: Blood Cordioplegia への Diltiazem 追加効果に関する検討, 同上学会, (59.2).

伊東政敏, 糸井和美, 五十部潤, 前里和夫, 井上律子, 小林君美: 重症僧帽弁狭窄症の手術適応と成績, 同上学会, (59.2).

北村文夫, 井上寛治, 中村隆澄, 宮本信昭: 小金属片による外傷性上腕動静脈瘻の1治療例, 第13回中国四国心臓血管外科学会, (59.2.25).

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 林 丘, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 大動脈炎症候群に由来する両冠動脈主幹部狭窄+AR の手術経験, 第130回静岡県外科医会, (59.6).

北村文夫, 井上寛治, 中村隆澄, 宮本信昭: 心室中隔穿孔閉鎖, 僧帽弁置換, 心室瘤切除及び A-C バイパス術を同時に施行した慢性期心筋梗塞の1治療例, 第27回日本胸部外科学会関西地方会, (59.6.15).

河原崎茂孝, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 山崎文郎, 林 丘, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 左肺動脈低形成を伴った総肺静脈還流異常症の1例, 同上学会, (59.6.15).

林 丘, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 右室流出路に憩室を伴った右室二腔症の1例, 同上学会, (59.6).

伊東政敏, 糸井和美, 五十部潤, 井上律子, 小林君美: 大動脈弁置換術例の検討, 同上学会, (59.6).

五十部潤, 糸井和美, 伊東政敏, 井上律子, 小林君美: 先天性僧帽弁閉鎖不全症を合併したダウン症候群の1例, (59.6).

山崎文郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 河原崎茂孝, 林 丘, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 大動脈弁狭窄症を合併した大動脈縮窄症に対する二期的手術の一例, 同上学会, (59.6.15).

伊東政敏, 奥村典仁, 糸井和美, 五十部潤, 井上律子, 小林君美, 他2名: 心筋梗塞合併症連合弁膜症に対する二弁置換の1治療例, 第29回岐阜循環器疾患研究会, (59.6).

奥村典仁, 五十部潤, 伊藤政敏, 糸井和美, 井上律子, 小林君美: 小児孤立性 MR の1手術治療例, 第64回日本循環器学会東海地方会, (59.6).

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 林 丘, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 大動脈炎症候群に由来する左右冠動脈狭窄・大動脈弁閉鎖不全症に対する手術治療の経験, 同上学会, (59.6).

Kanji Inoue, Takasumi Nakamura, Fumio Kitamura and Nobuaki Miyamoto Clinical application of transvenous mitral commissurotomy by a new ballonn catheter, 9th European Congress of Cardiology, July 8, 1984 Dusseldorf (FRG).

伊東政敏, 奥村典仁, 糸井和美, 井上律子, 小林君美: 心筋梗塞合併連合弁膜症に対する二弁置換術の経験, 第131回静岡県外科医会, (59.9).

秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 長谷川誠紀, 田辺 一: 特発性肥厚性大動脈弁下狭窄症に対する経大動脈中隔心筋切除兼僧帽弁置換術の検討, 同上学会, (59.9).

秋山文弥: 四肢慢性動脈閉塞症に対する PGE<sub>1</sub> 点滴静岡臨床プロスタグラディン研究会, (59.10).

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 林 丘, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 弁置換後の遠隔期合併症に対する再手術例の検討, 第37回日本胸部心臓外科学会総会, (59.10).

秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 林 丘, 長谷川誠紀: ビデオクリニク——特発性肥厚性大動脈弁下狭窄症に対する経大動脈中隔心筋切除兼僧帽弁置換術, 第37回日本胸部外科学

会総会, (59. 10. 4).

井上寛治, 中村隆澄, 北村文夫, 宮本信昭: 新開発のバルーンカテーテルによる経静脈的僧帽弁交連裂開術, 同上学会, (59. 10. 4).

西村直己, 井上寛治, 宮本信昭他 8 名(僧帽弁口への嵌頓が疑われた房内浮遊血栓の 1 例, 第45回日本循環器学会中国四国地方会, (59. 11. 17).

伊東政敏, 小林君美, 井上律子, 五十部潤, 他 3 名: IE 合併 MR の 1 手術治験例, 第30回国立療養循環器研究会, (59. 11).

伊東政敏, 奥村典仁, 糸井和美, 五十部潤, 井上律子, 小林君美: 開心術後のページングの応用, 第39回国立病院療養所総会医学会, (59. 11).

Fumio Kitamura, Takasumi Nakamura, Kanji Inoue and Nobuaki Miyamoto Successful Four Combined Operative Procedures In an post-infarct(chronic) "End-stage" patient, 5th Asean Congress of Cardiology, 1984, 11 25 Bangkok, Thailand.

河原崎茂孝, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 山崎文郎, 長谷川誠紀, 田辺 一, 秋山文弥: Discrete 型大動脈弁下狭窄症 4 例の検討, 第132回静岡県外科医会, (59. 12).

中山正吾, 大頭信義, 神野君夫, 青田正樹: 先天性肺気腫を伴った心室中隔欠損症の 1 治験例, 日本小児科学会兵庫地方会, (59. 5. 26).

## 6. 一般胸部疾患

上司裕史, カレッド・レシャード, 岡野昌彦, 乾 健二, 高橋 豊, 竹田吉喜: 発熱を伴った瀰漫性陰影の 1 例, 第 6 回瀰漫性肺疾患研究会, (59. 2. 3).

千原幸司, 寺田泰二, 松延政一, 外村聖一: 両側肺嚢胞症に対する一期手術の経験, 第20回滋賀呼吸器談話会, (59. 2. 18).

カレッド・レシャード: 呼吸器疾患の診断と治療, 榛原医師会講演, (59. 2. 23).

呉 卓, 陳 和夫, 鍵岡 均, 田中瑩子, 藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦, 大森英夫, 高 欽澤, 竹田秋郎, 高橋 玲, 杉山武敏: 高熱を伴い, 左 S6 初発後, 両肺に不連続に進展を示したびまん性陰影肺の 1 例, 第24回びまん性肺疾患研究会, (59. 2. 25).

小笹晃太郎, 倉沢卓也, 前川暢夫, 光岡明夫, 樋口佳代子, 竹田俊雄, 松原恒雄: 滲出性病変を主とし, ステロイド剤が著効を示したびまん性肺疾患の一例, 同上学会, (59. 2. 25).

乾 健二, 高橋 豊, 竹内吉喜, カレッド・レシャード: 観血的治療を要したいハンドルの胸部外傷の一例, 静岡県外科医会第129回集談会, (59. 3. 24).

高橋 豊, 岡野昌彦, 乾 健二, 竹内吉喜, カレッド・レシャード: 当院における気胸例の治療成績, 同上学会, (59. 3. 24).

桑原正喜, 安田雄司, 中田 徹, 青木 稔, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 巨大肺嚢胞症の手術, 第84回日本外科学会, (59. 3. 29~31).

池 修, 池田貞雄, 安田貞雄, 中田 徹, 青木 稔, 宮本好博, 桑原正喜, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志: 肺クリプトコックス症における血中抗原の検索と血中抗体価について, 第24回日本胸部疾患学会総会, (59. 4. 5~7).

松原義人, 池田貞雄: 気管再建術における問題点, 中部および分岐部, 第 1 回呼吸器外科研究会, (59. 4. 8).

人見滋樹: 非肺癌性呼吸器疾患の気管支鏡所見. セミナー「気管支ファイバースコープによる呼吸器疾患の診断」(59. 4. 15).

中村達雄, 奥村典仁, 小林 淳, 千葉 渉, 住友伸一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦: 両側巨大ブラ切除時に発見された心膜欠損症の 1 例, 第135回近畿外科学会, (59. 4).

高 欽澤, 倉田昌彦, 竹田秋郎, 村木宏要, 陳 和夫, 田中瑩子, 室本 仁: Clinical study of the patient with hemoptysis under fiberoptic bronchoscopy, 第 4 回 World Congress for Bronchology (59. 6. 13. Rome).

池 修, 安田雄司, 青木 稔, 宮本好博, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄

：気管支嚢胞5切除例の検討，第27回日本胸部外科学関西地方会，(59.6.15～16)。

安田雄司，池 修，青木 稔，宮本好博，桑原正喜，畠中陸郎，松原義人，二宮和子，船津武志，池田貞雄：肺縫合時の Air leakage に対する Collalamp の効果，同上学会，(59.6.15～16)。

青木 稔，安田雄司，池 修，宮本好博，桑原正喜，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：巨大肺嚢症の外科治療，同上学会，(59.6.15～16)。

乾 健二，高橋 豊，竹内吉喜，カレッド・レシャード：胸部外傷19例の検討，同上学会，(59.6.15～16)。

岡田賢二，桑原正喜，小林 淳，人見滋樹：バルーンカテーテルを利用した片側肺機能検査，同上学会，(59.6.15～16)。

松井輝夫，朝倉庄志，八木一之，藤尾 彰，北野司久：胸壁再建術後4年にて乳房形成術を施行したポーランド症候群の1症例，同上学会，(59.6.15～16)。

和田洋已，伊藤元彦，人見滋樹，松延政一，カレッド・レシャード他2名：呼吸器外科手術時の片肺換気+HFJV 麻酔，同上学会，(59.6.15～16)。

高嶋義光，江崎 寛他7名：胸部レ線写真上空洞陰影及び嚢胞状陰影を呈した興味ある症例，第63回福井県医学会，(59.6.17)。

千原幸司，寺田泰二，松延政一，外村聖一，清水慶彦，伊藤元彦，人見滋樹：右上葉切除後，気管支断端急性尖症により右全別を施行した1例，第22回近畿気管支鏡懇話会，(59.6.29)。

寺田泰二，千原幸司，松延政一，外村聖一：重症マイコプラズマ肺炎に対するステロイド併用療法の試み，第23回日本胸部疾患学会近畿地方会，(59.6.30)。

安田雄司，池 修，青木 稔，宮本好博，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：クラミジア肺炎の1例，第53回日本結核病学会，第23回日本胸部疾患学会近畿地方会，(59.6.30)。

池 修，二宮和子，安田雄司，青木 稔，宮本好博，畠中陸郎，松原義人，船津武志，池田貞雄：胸部疾患における ADA 活性の検討，同上学会，(59.6.30)。

青木 稔，安田雄司，池 修，宮本好博，畠中陸郎，松原義人，二宮和子，船津武志，池田貞雄：巨大肺嚢胞症外科治療法の検討，同上学会，(59.6.30)。

乾 健二，高橋 豊，竹内吉喜，カレッド・レシャード：当院における喀血症例の検討，第7回日本気管支学会総会，(59.7.6)。

源河圭一郎，石川清司，国吉真行，前里和夫，久場睦夫，宮城 茂，仲宗根恵俊：気管支分岐異常の18例，同上学会，(59.7.6～7)。

瀧 俊彦，光岡明夫，田村康一，和田洋已，伊藤元彦，人見滋樹：Endoscopic YAG—Laser Surgery の適応，同上学会，(59.7.6～7)。

二宮和子，松原義人，安田雄司，池 修，宮本好博，青木 稔，桑原正喜，畠中陸郎，船津武志，池田貞雄：気道出血の気管支鏡的検討，同上学会，(59.7.6～7)。

高 欽澤，倉田昌彦，竹田秋郎，村木宏要，佐藤友信，田中瑩子，陳 和夫，室本 仁：気管支鏡による血痰患者の検討，同上学会，(59.7.6～7)。

光岡明夫，中村達雄，住友伸一，瀧 俊彦，田村康一，和田洋已，伊藤元彦，人見滋樹：Bedside における high frequency ventilation の使用，同上学会，(59.7.6～7)。

倉田昌彦，佐藤友信，竹田秋郎，村木宏要，室本 仁，田中瑩子，陳 和夫，鍵岡 均：遠隔転移によって発見された肺野型小型肺癌（最大径 2 cm 以下）の2例，第41回，日本肺癌学会関西支部会，(59.7.21)。

人見滋樹：縦隔・胸膜陰影のよみ方——その手順と解析のポイント。セミナー「胸部レントゲン写真の読み方」(59.7.22)。

奥村典仁，糸井和美，五十部潤，伊東政敏，井上律子，小林君美：気管支離断症の1治験例，第120回岐阜外科集談会，(59.7)。

奥村典仁，糸井和美，五十部潤，伊東政敏，井上律子，小林君美：自然気胸の再発に関する検討，第20回中部外科外会総会，(59.8)。

人見滋樹：呼吸器外科の将来，高知市民病院胸部心臓血管外科15周年記念学術集会特別講演，(59.8.11)。

梅宮正志, 高橋 豊, 竹内吉喜, 乾 健二, カレッド・レシャード: 発熱, UHL を呈し, 抗生物質投与による瀰漫性陰影が生じた 1 例, 第7回瀰漫性肺疾患研究会, (59. 9. 1).

乾 健二, 高橋 豊, 竹内吉喜, カレッド・レシャード: 呼吸器外科手術における酸素+大量フェンタニール麻酔の応用と術後管理, 第37回日本胸部外科学会総会, (59. 10. 3~5).

千原幸司, 松延政一, 寺田泰二, 外科聖一, 清水慶彦, 和田洋已, 伊藤元彦, 人見滋樹: 横隔膜—胸郭運動より見た胸部外科手術の評価, 同上学会, (59. 10. 3~5).

住友伸一, 三宅正幸, 中村達雄, 光岡明夫, 龍 俊彦, 田村康一, 和田洋已, 伊藤元彦, 人見滋樹, 松延政一, 渡部 智, 清水慶彦: 会長推薦一般演題: 胸部手術と胸郭運動 (第1報), 同上学会, (59. 10. 3~5).

田村康一, 三宅正幸, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 龍 俊彦, 和田洋已, 伊藤元彦, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: ラウンドテーブルディスカッション: 胸部手術と肺機能, ——肺全摘除例の術後経過と一側肺動脈閉塞試験の術前評価, 同上学会, (59. 10. 3~5).

人見滋樹: 開胸側肺虚脱下手術の安全性に関する臨床的ならびに実験的研究に対する代表質問, 同上学会, (59. 10. 3~5).

江崎 寛, 鈴木雄二郎, 武藤 真, 長谷光雄, 高嶋義光: 腫瘤状陰影を呈し, 開胸術後診断が確定した症例の検討, 日本胸部疾患学会北陸地方会, (59. 10. 10).

有安哲哉, 中村達雄, 住友伸一, 渡部 智, 光岡明夫, 田村康一, 龍 俊彦, 和田洋已, 伊藤元彦, 人見滋樹: バランスドレナージにより処置しえた Air plombage 感染症例, 第136回近畿外科学会, (59. 10).

光岡明夫, 中村達雄, 住友伸一, 田村康一, 龍 俊彦, 和田洋已, 伊藤元彦, 人見滋樹: 胸壁形成術を行ったポーランド症候群の1例, 同上学会, (59. 10).

乾 健二, 高橋 豊, 竹内吉喜, カレッド・レシャード: 咯血症例に対する両側気管支動脈結紮の経験, 第46回日本胸部疾患学会東海地方会, (59. 11. 17).

田辺 一, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 外傷性血気胸に対する手術例の検討, 同上学会, (59. 11. 17).

池 修, 安田雄司, 青木 稔, 宮本好博, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 腕頭動脈の圧迫により発生した気管軟化症の1治験例, 第54回日本結核病学会, 第24回日本胸部疾患学会近畿地方会, (59. 11. 17).

安田雄司, 池 修, 青木 稔, 宮本好博, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 高橋清之: 肺癌が疑われた肺カンジダ症の手術例, 同上学会, (59. 11. 17).

二宮和子, 安田雄司, 池 修, 青木 稔, 宮本好博, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 咯血を反覆した肺動静脈瘻の1例, 同上学会, (59. 11. 17).

Professor R. Sarrazin, Doyen de la Faculté de Médecine de Grenoble, 討論者・安光 勉, 船津武志, 龍俊彦, 特別発言・岡田慶夫: Background on visceral lymphatic system, Mediastinoscopy, 講演会, (59. 11. 9).

池田貞雄, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志: 後天性・原発性の気管軟化症の病態と治療第36回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会, (59. 11. 9~10).

青木 稔, 安田雄司, 池 修, 宮本好博, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 巨大肺嚢胞症の手術適応とその手術後, 第46回日本臨床外科医学会総会, (59. 11. 16~18).

糸井和美, 奥村典仁, 五十部潤, 伊東政敏, 井上律子, 小林君美: 自胸気胸の再発に関する検討, 第39回国立病院療養所総合医学会, (59. 11).

横見瀬裕保, 玉田二郎, 神頭 徹: 気管気管支形成術を施行した4症例, 第59回中国四国外科学会, (59. 11).

田中螢子, 陳 和子, 鍵岡 均, 高山康夫, 藤田 潤, 松林裕司, 藤田正憲, 小中義照, 室本 仁, 倉田昌彦, 杉山武敏: 限局性肺 Wegener 肉芽腫症の1剖検例, 日本内科学会近畿地方会, (59. 12. 1).

三尾直士, 大島駿作, 田村康一, 寺町政美, 人見滋樹他4名: 健康診断で両肺野に多発性結節性陰影を指摘された1例, 第27回びまん性肺疾患研究会, (59. 12. 8).

乾 健二, カレッド・レシャード, 高橋 豊, 梅宮正志, 竹内吉喜: 基礎疾患のない若年者にみらひた原発性肺真菌症の1例, 静岡県外科医会第132回集談, (59. 12. 9).

城間 寛, 石川清司, 国吉真行, 前里和夫, 源河圭一郎, 古波倉正照: 気管支性囊腫の1例, 第64回沖縄県医師会医学会, (59. ).

中山正吾, 大頭信義, 神野君夫, 青田正樹: Sweyer James 症候群と考えられた肺嚢胞症の1例, 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会, (59. 6. 30).

船津武志, 畠中陸郎, 松原義人, 安田雄司, 池 修, 青木 稔, 宮本好博, 二宮和子, 池田貞雄: 気管・気管支軟化症の外科的治療, 第37回日本胸部外科学会総会, (59. 10. 3~5).

Hitomi, S., Maesato, K., Okada, K.: Diagnostic value of Computed Tomography with Pnedmmediastinum, VIII APCDC (Tokyo), (58. 7).

### 〔著 書〕

伊藤元彦: 胸腺腫と胸腺関連腫瘍, 正岡 昭監修「胸腺腫の形態学」分担執筆, 協和企画通信, 59年11月.

伊藤元彦: 新しい胸部外科の臨床——第3輯——肺疾患の手術適応191-204杏林社, 59年12月.

秋山文弥: 新しい胸部外科の臨床——第3輯——胸部疾患の CT 診断69-87, 杏林社, 1984.

光岡明夫 (分担執筆): 癌の予後因子, 経過因子としてのツベルクリン反応——泉 孝英編著, ツベルクリン反応——その新しい考え方, 172-184, 中外医学社, 1984.

### 〔誌 上 発 表〕

#### 1. 腫 瘍

北野司久, 藤尾 彰, 八木一之, 松井輝夫, 加藤敬也, 小橋陽一郎: 自胸気胸を初発症状とした多発性肺過誤腫の1手術例, 胸部外科, 36(8): 635-639, 1984.

伊藤元彦: 両側肺手術における問題点——両側性肺癌および対側再発肺癌に対する手術, 日本外科学会雑誌, 85: 952, 1984.

藤尾 彰, 北野司久, カレッド・レシャード, 八木一之, 松井輝夫: 迷走神経に由来する気管支内神経鞘腫の1治験例, 日本胸部外科学会雑誌, 32(1): 126-129, 1984.

三宅正幸, 岡田賢二, 人見滋樹: 胸骨翻転術後発生した線維肉腫の1治験例, 日本胸部外科学会雑誌, 32: 118-1121, 1984.

伊藤元彦, 高嶋義光, 千葉 渉, 三宅正幸, 瀧 俊彦, 光岡明夫, 寺松 孝: 胸部における AFP 産生腫瘍と, そのマーカーによる鑑別, 日本胸部疾患学会雑誌, 22: 26, 1984.

岡田賢二, 人見滋樹, 三宅正幸: 縦隔腫瘍と胸壁腫瘍の定義に関する1試案——CT 所見と手術所見より, 日本胸部疾患学会雑誌, 22: 486-490, 1984.

石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 前里和夫, 城間 寛: Giant bulla に発育した肺癌の1切除例, 日本胸部疾患学会雑誌, 22(8): 719-723, 1984.

岡田賢二, 人見滋樹, 三宅正幸, 小林 淳, 桑原正喜: 後縦隔腫瘍様の陰影を皮した肋骨発生の骨軟骨腫の1例, 日本胸部疾患学会雑誌, 22: 815-818, 1984.

岡田賢二, 人見滋樹, 鈴木庸之, 黒田直明, 倉沢卓也: 気胸で発症し, 手術を施行した原発性肺癌の2例, 肺癌, 24: 203-208, 1984.

山中 晃, 玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝, 岡田慶夫: 肺癌組織における Lysozyme, Lactoferrin, および Secretory Component の産生能に関する研究——とくに肺癌を中心にして——, 肺癌, 24: 701, 1984.

北野司久: 肺悪性腫瘍 Xenograft に対する制癌剤感受性テスト, 癌の臨床, 30(9): 1175-1180, 1984.

桑原正喜, 松原義人, 二宮和子, 池 修, 安田雄司, 中田 徹, 青木 稔, 宮本好博, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における血清 TPA, 最新医学, 39: 627-628, 1984.

瀧 俊彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 高齢者肺癌の治療——外科療法の適応, Geriatric Medicine (老年医学), 22(7): 1035-1039, 1984.

人見滋樹: 第24回日本肺がん学会印象記, 財団法人大阪から肺がんをなくす会々報, 9: 31-32, 12. 58.

人見滋樹: 巻頭言, 財団法人大阪から肺がんをなくす会々報, 10: 1. 6. 59.

李 民実, 梁 宗三: 地域開業医をネットした肺癌検診, 財団法人大阪から肺がんをなくす会々報, 10: 9-20, 6. 59.

北野司久: 縦隔腫瘍に対する外科療法について, 奈良県医師新報: 1-3, 1984.

久場睦夫, 豊見山寛, 仲宗根恵俊, 宮城 茂, 大城盛夫, 石川清司, 国吉真行, 上里忠興, 源河圭一郎, 大湾朝忠, 外間政哲: 肺非小細胞癌に対する Cis-platinum の使用経験, 国療沖繩医誌, 5(1): 10-18, 1984.

源河圭一郎, 石川清司, 国吉真行, 上里忠興, 豊見山寛, 久場睦夫, 仲宗根恵俊, 宮城 茂, 大湾朝忠, 大城盛夫, 岸本明久, 金城勇徳, 中富昌夫, 豊田善成, 松井克明, 野原雄介: 胸部X線像正常肺癌の2例, 国療沖繩医誌, 5(1): 24~29, 1984.

上里忠興, 源河圭一郎, 石川清司, 国吉真行: 高齢者(75歳以上)肺癌手術症例の検討, 国療沖繩医誌, 5(1): 30~34, 1984.

石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 上里忠興, 久場睦夫: 胸壁腫瘍との鑑別を必要とした4症例, 国療沖繩医誌, 5(1): 40~45, 1984.

石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 上里忠興, 久場睦夫, 豊見山寛, 宮城 茂, 仲宗根恵俊, 大湾朝忠, 大城盛夫: 女性肺癌症例の臨床的検討, 国療沖繩医誌, 5(1): 19~23, 1984.

源河圭一郎: 沖縄県における悪性腫瘍, 肺癌2. 8~17, 沖縄県医師会医学会, 1984.

石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 城間 寛, 前里和夫, 宮城 茂, 仲宗根恵俊, 大湾朝忠, 大城盛夫: 前縦隔発生悪性腫瘍の治療方針に関する検討, 沖縄県医師会報190号, 42~45, 1984.

## 2. 胸腺, 免疫

須賀博文, 光岡明夫, 伊藤元彦他4名: 重症筋無力症患者胸腺にみられたメチオニンエンケファリン活性, 医学のあゆみ, 129: 687, 1984.

須賀博文, 光岡明夫, 伊藤元彦他4名: ヒト胸腺にみられたアルギニン・バゾプレシン活性, 医学のあゆみ, 130: 597, 1984.

光岡明夫, 伊藤元彦: 手術適応と術式の選択: 重症筋無力症を伴う胸腺腫, この症例の治療方針, 外科, 46: 447-451, 1984.

和田洋已, 松延政一, 伊藤元彦: 重症筋無力症に対する外科治療, 日本胸部臨床, 43: 933~938, 1984.

伊藤元彦: 胸腺関連腫瘍——概念, 分類, 生物学的性状および臨床, 日本胸部臨床, 43: 367, 1984.

伊藤元彦: 胸腺関連腫瘍——概念, 分類, 生物学的性状および臨床, 日本胸部外科学会雑誌, 32: 677, 1984.

高嶋義光, 足達敏博, 翠川 修, 伊藤元彦, 寺松 孝: 前縦隔悪性奇形腫由来培養細胞株(HMT細胞)の樹立とその性状, 日本胸部疾患学会雑誌, 22: 376~382, 1984.

## 3. 結 核

和田洋已, 金城 明, 伊藤元彦, 寺松 孝: 慢性膿胸の外科療法——京大胸部研278例の検討, 日本胸部臨床, 43: 131~136, 1984.

和田洋已, 金城 明, 伊藤元彦, 寺松 孝: 膿胸根治術の肺機能への影響, 日本胸部臨床, 43: 466~472, 1984.

和田洋已, 金城 明, 伊藤元彦, 人見滋樹, 寺松 孝: 慢性膿胸の治療としての胸膜肋全摘除術, 結核, 59: 615~619, 1984.

カレッド・レシャード, 高橋 豊, 岡野昌彦, 竹内吉喜, 乾 健二, 和田洋已, 寺松 孝, 北野司久: 膿胸100例の治療成績の検討, 臨床胸部外科, 4(2), 1984.

田村康一, 奥村典仁, 小林 淳, 千葉 渉, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 渡部 智, 和田洋已, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 気管支の結核性病変により mucoid impaction 様陰影を示した1例: 日本胸部臨床, 43: 879~884, 1984.

神頭 徹, 望月敏弘, 乾 健二, カレッド・レシャード, 和田洋已: 肺細胞蛋白症と肺結核症を合併した1例, 日本胸部疾患学会雑誌, 22(12), 1984.

カレット・レシャード, 乾 健二, 竹内吉喜, 高橋 豊, 岡野昌彦, 高橋 衛, 和田洋巳, 神頭 徹, 島田恒治: 静岡県島田市地域における肺結核の最近の動向と治療成績, 結核, 59(6), 1984.

宮城 茂, 久場睦夫, 豊見山寛, 仲宗根恵俊, 大城盛夫, 大湾朝忠, 石川清司, 国吉真行, 源河圭一郎: 沖縄病院における粟粒結核症の検討, 国療沖縄医誌, 5(1): 50~54, 1984.

#### 4. 人工材料

清水慶彦: 研究所めぐり, 京都大学結核胸部疾患研究所, 人工臓器, 12(6): 1049~1050, 1983.

田村康一, 中村達雄, 岡田賢二, 水野 浩, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝, 南郷昌生: Polyvinyl alcohol の新しいゲル化法ならびに医用材料としての基礎的研究——生体組織との反応について, 人工臓器, 13: 1197~1200, 1984.

松原義人, 青木 稔, 池 修, 畠中陸郎, 宮本好博, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 桑原正喜: 人工気管による気管および分岐部の再建術における問題点, 臨床胸部外科, 4(6): 685~691, 1984.

清水慶彦, 田村康一: ポリビニルアルコールシリカ複合体による人工血管の開発, 機能材料, 4(9): 32~38, 1984.

清水慶彦: 埋植用外科的医用材料, 手術, 38(10): 1301~1308, 1984.

清水慶彦, 伊藤元彦, 田村康一, 中村達雄, 寺松 孝, 渡部 智, 水野 浩: 埋植用外科的人工医用材, 日本臨床胸部外科学会雑誌45特集号: 74~75, 1984.

Yasuhiko Simizu: Fundamental Examination on Medical Application of Microbial Cells Entrapped in Polymers, Design of Multiphase Biomedical Materials, The Ministry of Education, Science and Culture, 190~194, 1983.

田村康一, 中村達雄, 水野 浩, 岡田賢二, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦, 南部昌生: 高含水ポリビニルアルコールゲルの生体内埋植後の変化, 第6回日本バイオマテリアル学会大会抄録集: 5~6, 1984.

#### 5. 心・血管

千原幸司, 秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村文郎, 河原崎茂孝: 開心術, 大血管手術後の播種性血管内凝固症候群 (DIC) の検討——涙後早期よりの Mesilate Gabexate (FOY®) 投与の効果, 胸部外科, 37(8): 606~613, 1984.

岡田賢二, 人見滋樹, 三宅正幸, 玉田二郎: 非定型的 Scimitar 症候群の1例, 正常に左肩に還流する scimitar 静脈, 日胸部疾患学会雑誌, 22: 330~334, 1984.

伊東政敏, 糸井和美, 五十部潤, 前里和夫, 井上律子, 小林君美: 大動脈肺動脈中隔欠損損症の1手術治療例, 臨床胸部外科, 4: 775~780~1984.

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 林 丘, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 異型狹心症の外科治療——特に手術近接期スパズム予防の重要性とその対策について, 日本胸部外科学会雑誌, 32(5): 137, 1984.

島本光臣, 篠崎 拓, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 心室中隔穿孔および心破裂に対する外科治療, 日本心臓血管外科学会雑誌, 13(6): 497, 1984.

Kanji Inoue, Takane Owaki, Takasumi Nakamura, Fumio Kitamura, and Nobuaki Miyamoto, Kochi, Japan. Clinical application of transvenous mitral commissurotomy by a new balloon catheter. The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Vol. 87, No. 3 394~402, March, 1984.

#### 6. 一般胸部疾患

山崎文郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 高橋憲太郎, 井村正史, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 大量出血を伴った特発性血気胸の2例, 胸部外科, 37(4): 312, 1984.

岡田賢二, 人見滋樹, 三宅正幸, 近藤一郎: 妊娠のたびに繰り返した自然気胸の1例, 日本胸部臨床, 43: 294~297, 1984.

二宮和子, 松原義人, 青木 稔, 池 修, 中田 徹, 小鯖 覚, 桑原正喜, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 胸膜炎238例の臨床的検討, 日本胸部臨床, 43(1): 39~45, 1984.

岡田賢二, 人見滋樹, 三宅正幸: CT 値の高い気管支嚢胞, 日本胸部臨床, 43: 782~784, 1984.

松延政一, 千原幸司, 寺田泰二, 外村聖一: 血液透析による高 CO<sub>2</sub> 血症の管理, 日本胸部外科学会雑誌, 32: 794~795, 1984.

船津武志: 胸部外科における形態学的診断——縦隔鏡診断, 日本胸部外科学会第19回率後教育セミナー: 32~46, 1984.

桑原正喜, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: バルブドレナージに併用するポルトポットの考察, 臨床胸部外科, 3: 634~636, 1983.

清年慶彦: 頸部気管の形成術, 臨床胸部外科, 4(6): 669~674, 1984.

三宅千代美, 荒木俊之, カレッド・レシャード, 神頭外科手術における酸素+大量フェンタール麻酔の応用, 臨床麻酔, 8(2): 1982.

畠中陸郎, 安田雄司, 池 修, 宮本好博, 青木 稔, 松原義人, 二宮和子, 池田貞雄, 船津武志: Cefotaxime の呼吸器感染症に対する基礎的検討, 診療と新薬, 21(11): 203~206, 1984.

カレッド・レシャード, 乾 健二, 竹内吉喜, 高橋 豊, 長谷寛二, 岡野昌彦, 高橋 衛, 神頭 徹, 和田洋已, 島田恒治: 一地方一般病院における気管支鏡施行例の検討, 気管支学会誌, 6(1), 1984.

清水慶彦, 渡部 智, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋已, 伊藤元彦, 人見滋樹: 気管病変に対する術式適応に関する検討, 気管支学, 6(2): 201~207, 1984.

和田洋已, 松延政一, 伊藤元彦: 肺膿瘍(肺化膿症), 外科, 46: 515~518, 1984.

伊藤元彦: 気管支腺——組織化学を中心に, 呼吸, 3: 538, 1984.

光岡明夫, 渡部 智, 加藤弘文, 人見滋樹: 漏斗胸, 小児内科, 16: 1705~1709, 1984.

石原恒夫, 前田昌純, 藤村重文, 渡辺洋宇, 久保良彦, 富田正雄, 成毛韶夫, 橋本正人, 清水慶彦: 気管気管支の再建手術をめぐる諸問題, 手術, 38(5): 571~583, 1984.

石原恒夫, 前田昌純, 藤村重文, 渡辺洋宇, 久保良彦, 富田正雄, 成毛韶夫, 橋本正人, 清水慶彦: 気管気管支の再建手術をめぐる諸問題, 手術, 38(6): 705~719, 1984.

Hitomi S., Tamada J., Ikeda S., Funatsu T., Kahi T., Kurata M.: Thoracoscopic lung biopsy using tissue adhesive material and/or deep ligator, Chest 86: 155, July 1984.

久場睦夫, 石川清司, 源河圭一郎, 具志堅政道, 松井克明, 外間政哲: びまん性汎細気管支炎, 国療沖縄医誌, 5(1): 5~7, 1984.

国吉真行, 上里忠興, 石川清司, 源河圭一郎, 比嘉政昭, 松井克明: 肺硬化性血管腫の1例, 国療沖縄医誌, 5(1): 35~39, 1984.

豊見山寛, 久場睦夫, 仲宗根恵俊, 宮城 茂, 大城盛夫, 上里忠興, 石川清司, 国吉真行, 源河圭一郎, 大湾朝忠: 沖縄病院における肺動脈造影検査——その所見と意義および適応について——, 国療沖縄医誌, 5(1): 46~49, 1984.

池田貞雄: 胸膜腔疾患, 内科Q & A呼吸器病, 金原出版(株)東京: 248~250, 1984.

## 病 理 学 部 門

[学 会 発 表]

### 1. 老化・結合組織研究グループ

樋口京一, 松村敦子, 本間篤子, 米津智徳, 樋口佳代子, 竹下修史, 細川昌則, 竹田俊男, 松下 睦: 老化促進モデルマウス(SAM)に関する実験的研究 XIII. SAMにおける血清中老化アミロイド共通抗原性物質(apo SAS<sub>SAM</sub>)濃度の加齢変化, 第73回日本病理学会総会(昭59.4).

樋口佳代子, 松村敦子, 細川昌則, 樋口京一, 本間篤子, 松下 睦, 米津智徳, 竹田俊男: 老化促進モデルマ

ウス (SAM) に関する実験的研究 XIV. 皮膚コラーゲンおよび酸性ムコ多糖の加齢変化について 1. 第73回日本病理学会総会 (昭59.4).

本間篤子, 米津智徳, 入野美香, 樋口京一, 樋口佳代子, 細川昌則, 竹田俊男, 松下 睦: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 XV. 環境因子の老化におよぼす影響 1. 食餌条件と加齢変化(2), 第73回日本病理学会総会 (昭59.4).

松下 睦, 笠井隆一, 一坂 章, 奥村秀雄, 山室隆夫, 細川昌則, 樋口京一, 樋口佳代子, 本間篤子, 米津智徳, 竹下修史, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 XVI. 骨の加齢変化について, 第73回日本病理学会総会 (昭59.4).

國貞隆弘, 山岸秀夫, 荻田善一, 竹田俊男, 平川 忠, 三井洋司: 染色体に存在する小環状 DNA の出現と細胞老化, 日本基礎老化学会第8回大会 (昭59.6).

竹田俊男: シンポジウム「臓器と細胞の老化」5. 臓器と細胞の老化の促進——SAM による実験的研究——, 日本基礎老化学会第8回大会 (昭59.6).

松下 睦, 一坂 章, 笠井隆一, 奥村秀雄, 山室隆夫, 細川昌則, 樋口京一, 樋口佳代子, 本間篤子, 米津智徳, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) における骨の加齢変化, 第12回整形外科基礎研究会 (昭59.6).

樋口佳代子, 宇谷厚志, 松村敦子, 細川昌則, 樋口京一, 河野篤子, 米津智徳, 竹田俊男, 松下 睦: 老化促進モデルマウス (SAM) における結合組織に関する研究, 皮膚コラーゲンおよび酸性ムコ多糖の加齢変化について, 第16回日本結合組織学会総会 (昭59.7).

松下 睦, 一坂 章, 笠井隆一, 奥村秀雄, 山室隆夫, 細川昌則, 樋口京一, 樋口佳代子, 河野篤子, 米津智徳, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) における骨の加齢変化——特に R/3 系の骨粗鬆症について, 第16回日本結合組織学会総会 (昭59.7).

樋口京一, 樋口佳代子, 本間篤子, 竹下修史, 松村敦子, 米津智徳, 細川昌則, 竹田俊男, 松下 睦: ワークショップ II: 「mutant animal を用いた結合組織研究」5) 老化促進モデルマウス (SAM) における結合組織の加齢変化, 第16回日本結合組織学会総会 (昭59.7).

Irino, M. and Takeda, T.: D-Penicillamine toxicity in mice, The Symposium on Interactions of Chelating Agents and Metals Relevant to Pharmacology and Toxicology, at Pilsen, Czechoslovakia, August 6-8, 1984.

Higuchi, K., Matsumura, A., Takeshita, S., Yonezu, T., Honma, A., Higuchi, K., Hosokawa, M and Takeda, T.: A novel senile amyloid fibril protein and its putative precursor in Senescence Accelerated Mouse (SAM), IVth International Symposium on Amyloidosis, at New York, U.S.A., November 9-12, 1984.

Shimizu, K., Ishii, M., Kasai, R., Matsushita, M., Yamamuro, T., Higuchi, K., and Takeda, T.: Amyloid deposition in the articular structures of the Senescence Accelerated Mouse (SAM), IVth International Symposium on Amyloidosis, at New York, U.S.A., November 9-12, 1984.

〔誌 上 発 表〕

Hosokawa, M., Takeshita, S., Higuchi, K., Shimizu, K., Irino, M., Toda, K., Honma, A., Matsumura, A., Yasuhira, S. and Takeda, T.: Cataract and other ophthalmic lesions in Senescence Accelerated Mouse (SAM), Morphology and incidence of senescence associated ophthalmic changes in mice, *Exp. Eye Res.* 38: 105-114 (1984).

Hosokawa, M., Kasai, R., Higuchi, K., Takeshita, S., Shimizu, K., Hamamoto, H., Honma, A., Irino, M., Toda, K., Matsumura, A., Matsushita, M. and Takeda, T.: Grading score system: A method for evaluation of the degree of senescence in Senescence Accelerated Mouse (SAM), *Mech. Ageing Dev.* 26: 91-102 (1984).

Higuchi, K., Matsumura, A., Honma, A., Toda, K., Takeshita, S., Matsushita, M., Yonezu, T., Hosokawa, M. and Takeda, T.: Age-related changes of serum apoprotein SAS<sub>SAM</sub>, apoprotein A-I and ldu-density lipoprotein in Senescence Accelerated Mouse (SAM) (SAS/SAM) in SAM, *Mech. Ageing Dev.* 26: 311-326 (1984).

Takeda, T., Sanada, H., Ishii, M., Matsushita, M., Yamamuro, T., Shimizu, K. and Hosokawa, M.:

Amyloid deposition in human intervertebral discs 1. Age-associated amyloid deposition in surgically removed herniated intervertebral discs, *Arth. Rheum.* 27: 1063-1065 (1984).

竹田俊男：老化とアミロイドーシス，免疫と疾患，7：415-421 (1984).

竹田俊男，樋口京一，松村敦子，松下 睦，米津智徳，黒住真史，梅沢真樹子：Senescence Accelerated Mouse：老化促進モデルマウスの開発，感染／炎症／免疫，14：434-440 (1984).

細川昌則，竹田俊男：コラーゲン代謝とその代謝，呼吸 3：341-347 (1984).

〔著 書〕

竹田俊男：老化促進モデルマウス (SAM) の開発，編集，京極方久，難治疾患のモデルと動物実験——ヒト疾患との共通理解のために：179-189，ソフトサイエンス社，昭59.

2. 肺表面活性物質研究グループ

〔学 会 発 表〕

鈴木康弘，中井栄一，黒住真史，服部裕之，大川欣一，人工サーファクタントの肺拡張効果，第73回日本病理学会総会 (59年4月).

大川欣一，金井美晴，鈴木康弘：オキシダーゼ作用にもとづくカタラーゼの新しい細胞化学的証明法に関する研究(1)，第73回日本病理学会総会 (59年4月).

大川欣一，引間啓祐，鈴木康弘：ナジ反応に関する研究 (第6報)：有機溶媒処理の影響，同上 (59年4月).

大川欣一，鈴木康弘：凍結超薄切片の酵素細胞化学への応用(2)ATPase の場合，同上 (59年4月).

Y. Suzuki: The role of apoproteins in artificial surfactant. *International Congress on Controversies in Perinatal Medicine, Assisi, Italy* (1984. 5. 31-6. 2).

〔誌 上 発 表〕

Y. Suzuki, E. Nakai, K. Ohkawa, R. Tabata: Effects of apoproteins and phosphatidylglycerol on the surface activity of pulmonary surfactant. *Progress in Respiration Res.* 18: 93-100, 1984.

Y. Suzuki: The role of apoproteins and phosphatidylglycerol in artificial surfactant. *Cosmi EV* (ed), *Controversies in Perinatal Medicine, Perinatology Press, Ithaca N.Y.* (in press).

3. 臨床病理

〔学 会 発 表〕

北市正則，西村浩一，鈴木康弘，古田睦広：HERMANSKY-PUDLAK 症候群 (HPS) に伴う間質性肺炎と続発性間質性肺炎の比較検討，第73回日本病理学会総会 (昭59.4).

北市正則，泉 孝英，平田健雄，荏原順一，長井苑子，藤村直樹，普天間健，松井祐佐公，武藤 真，加藤達治，島田一恵，戸田佳代子，細川昌則，竹田俊男，前川暢夫，佐川弥之助，大島駿作：特発性間質性肺炎および膠原病性間質性肺炎症例の死因——剖検症例における検討——第24回日本胸部疾患学会 (昭59.) .

〔誌 上 発 表〕

越久仁敬，佐藤公彦，久野健志，佐川弥之助，竹田俊男，鈴木康弘，樋口佳代子：肺に原発した plasmacytoma の1例，呼吸3：1329-1332 (1984).

細胞化学部門

〔学 会 発 表〕

内山 卓，淀井淳司，前田道之：ATL 細胞における Tac 抗原 (IL-2 レセプター) の発現異常. 第43回日本

癌学会シンポジウム。昭和59年10月，福岡市。

前田道之，内山 卓，岡本祐之，滝川雅浩，友野 仁，淀井淳司，本庶 佑，井階幸一：10才のセザリー症候群患者より樹立された HTLV<sup>+</sup> の T4<sup>+</sup>，T8<sup>+</sup> の T細胞株について，第43回日本癌学会，昭和59年10月，福岡市。

勅使河原計介，岡田雅文，多賀谷温，通堂 満，西野幸典，前田道之，内山 卓，野間隆文，二階堂敏雄，本庶 佑，淀井淳司：IL-2 レセプターの発現を増強する ATL 由来因子 (ADF) の特性について，第43回日本癌学会，昭和59年10月，福岡市。

淀井淳司，勅使河原計介，前田道之，近藤信雄，羽室淳爾，内山 卓：ATL 由来 T細胞株はすべて IL-2 レセプターの発現を増強する因子を産生する，第43回日本癌学会，昭和59年10月，福岡市。

岡田雅文，吉木 敬，立野正敏，Tibor Diamanstein，大沢久夫，本庶 佑，石田真理雄，福井 清，前田道之，内山 卓，淀井淳司：HTLV トランスホームラット細胞の IL-2 レセプター，第43回日本癌学会，昭和59年10月，福岡市。

和野雅治，内山 卓，内野治人，淀井淳司，前田道之，小林信之，畑中正一：ATL 由来腫瘍細胞における IL-2 受容体 (Tac 抗原) のリン酸化。第43回日本癌学会，昭和59年10月，福岡市。

野間隆文，石田真理雄，前田道之，淀井淳司，本庶 佑：ATL 細胞の TCGF 非依存性獲得に伴う ATL 細胞ゲノムとその転写産物の変化，第43回日本癌学会，昭和59年10月，福岡市。

高橋清人，行徳淳一郎，雨具 孝，前田道之，内山 卓，淀井淳司，隅田幸男，桂 義元：骨髓細胞中に混在する ATL 白血病細胞を選択前に殺す方法，第43回日本癌学会，昭和59年10月，福岡市。

前田道之，内山 卓，通堂 満，和野雅治，勅使河原計介，淀井淳司：ATL 細胞の TCGF 依存性から非依存性への移行と腫瘍性増殖との関係，第46回日本血液学会，昭和59年4月，京都。

通堂 満，馬止 裕，和野雅治，内山 卓，内野治人，前田道之，淀井淳司：ATL 細胞の IL-2 反応性，第46回日本血液学会，昭和59年4月，京都。

前田道之，清水 章，本庶 佑，淀井淳司：T細胞受容体遺伝子を用いた ATL 細胞の clonality の解析，第7回日本分子生物学会，昭和59年12月，神戸。

佐辺壽孝，二階堂敏雄，前田道之，岡田雅文，多賀谷温，淀井淳司，本庶 佑：ヒト IL-2 Receptor 遺伝子の動物細胞における発現，第7回日本分子生物学会，昭和59年12月，神戸。

清水 章，小椋利彦，生田宏一，前田道之，淀井淳司，本庶 佑：ヒト T細胞抗原受容体  $\beta$  鎖 V 遺伝子の構成，第14回日本免疫学会，昭和59年12月，大阪。

近藤信雄，前田道之，淀井淳司，羽室淳爾：IL-2 レセプターと Tac 抗原の異同についてヒト，リコンビナント IL-2 と抗 Tac 抗体の結合実験から，第14回日本免疫学会，昭和59年12月，大阪。

岡田雅文，勅使河原計介，多賀谷温，前田道之，淀井淳司：ATL 細胞株由来 IL-2-R 発現誘導因子 (ADF) の作用とその生物学的特性，第14回日本免疫学会，昭和59年12月，大阪。

多賀谷温，岡田雅文，勅使河原計介，西野幸典，羽室淳爾，内山 卓，前田道之，淀井淳司：第14回日本免疫学会，昭和59年12月，大阪。

和野雅治，堀 利行，内山 卓，内野治人，淀井淳司，前田道之：HTLV 感染培養細胞株の aberrant IL-2 レセプター (Tac 抗原) について，第14回日本免疫学会，昭和59年12月，大阪。

淀井淳司，二階堂敏雄，前田道之，勅使河原計介，清水 章，石田真理雄，佐辺壽孝，内山 卓，本庶 佑：ヒト IL-2 レセプター遺伝子；ATL 細胞株での異常発現，第14回日本免疫学会，昭和59年12月，大阪。

石田真理雄，二階堂敏雄，清水 章，佐辺壽孝，勅使河原計介，前田道之，内山 卓，淀井淳司，本庶 佑：ヒト IL-2 レセプター遺伝子のクローニング——cDNA と genomic 遺伝子，第14回日本免疫学会，昭和59年12月，大阪。

生田宏一，小椋利彦，内山 卓，前田道之，淀井淳司，清水 章，本庶 佑：ヒト T細胞レセプター遺伝子の構造変換 第57回日本生化学会，昭和59年10月，東京。

佐野 統，熊谷俊一，波内俊三，鏑田武志，井村裕夫，内山 卓，前田道之，淀井淳司：SLE 患者血清中に見られる抗リンパ球抗体——抗 Tac 抗体，抗 Ia 抗体の検討，第14回日本免疫学会，昭和59年12月，大阪。

波内俊三，熊谷俊一，佐野 統，鏑田武志，井村裕夫，前田道之：セザリー症候群患者末梢血由来 TCGF 依

存性細胞を用いるヒト TCGF の測定法とその特異性, 第34回日本アレルギー学会, 昭和59年10月, 京都.

高木邦明, 市川康史: マウス骨髓性白血病細胞 (M1 株) の増殖と分化, XXVI, 分化前後における細胞内  $K^+$ ,  $Na^+$  の変動と 38K 蛋白質の変化, 第43回日本生化学会, 昭和59年10月, 福岡.

橋田尚志, 市川康史: マウス骨髓性白血病細胞 (M1 株) の増殖と分化, XXVII, スペクトリン様蛋白質の同定, 同上学会.

K. Takagi, Y. Ichikawa and K. Nagata:  $AK^+$ ,  $Na^+$ -sensitive actin-binding protein isolated from a leukemia cell line. The 3rd International Congress on Cell Biology. August, 1984, Tokyo.

〔誌 上 発 表〕

T. Nikaido, A. Shimizu, N. Ishida, H. Sabe, K. Teshigawara, M. Maeda, T. Uchiyama, J. Yodoi and T. Honjo: Molecular cloning of cDNA encoding human interleukin-2 receptor. *Nature* 311: 631-635 (1984).

J. Yodoi, M. Maeda, Y. Wano, M. Tsudo, K. Teshigawara and T. Uchiyama: TCGF(IL-2) receptor (Tac antigen) on ATL and non-ATL leukemic cells. In "Thymic hormones and lymphokines" ed. A.L. Goldstein Plenum Publishigh Corp., pp. 273-277 (1984).

K. Teshigawara, M. Maeda, K. Nishino, T. Nikaido, T. Uchiyama, M. Tsudo, Y. Wano and J. Yodoi: Adult T leukemia cells produce a lymphokine that augments interleukin-2 receptor expression. *J. Mol. Cell. Immunol.* 2: 17-26 (1985).

J. Yodoi, K. Teshigawara, T. Nikaido, K. Fukui, T. Noma, T. Honjo, M. Takigawa, M. Sasaki, N. Minato, M. Tsudo, T. Uchiyama and M. Maeda: TCGF(IL-2)-receptor inducing factor(s) (I) Regulation of IL-2 receptor on a natural killer-like cell line (YT cells), *J. Immunol.* 134: 1623-1630 (1985).

内山 卓, 和野雅治, 通堂 満, 前田道之, 淀井淳司: 抗 Tac 抗体による IL-2 レセプターの解析, 最新医学. 39: 224~229, (1984).

淀井淳司, 二階堂敏雄, 勅使河原計介, 内山 卓, 和野雅治, 前田道之, 本庶 佑: IL-2 とクローン増殖の生物学——IL-2 レセプター遺伝子発現の調節機構——, 細胞工学. 3: 863~874, (1984).

内山 卓, 和野雅治, 通堂 満, 淀井淳司, 勅使河原計介, 前田道之: 抗 Tac モノクローナル抗体を用いた IL-2 レセプターの解析, 細胞工学, 3: 422~431, (1984).

淀井淳司, 安達光宣, 勅使河原計介, 野呂信弘, 通堂 満, 和野雅治, 内山 卓, 前田道之: Fc レセプター, IL-2 レセプターの異常症, 阿蘇シンポジウム——1983——「リンフォカインとレセプター」pp. 90~102, (1984).

前田道之, 内山 卓, 淀井淳司: IL-2 レセプター, 医学のあゆみ, 129: 905(1984).

前田道之: ATL 由来T細胞株の生物学, *Medical Immunology*, 9: 411~417, (1985).

J. Yodoi, T. Uchiyama, M. Tsudo, Y. Wano, K. Teshigawara, M. Okada and M. Maeda: Abnormal expression of IL2 receptor/Tac antigen in ATL; the possible role of ATL-derived factor enhancing IL2 receptor expression. In: Manipulation of host defence mechanism Eds: T. Aoki, E. Tsubura and I. Urushizaki *Excerpta Medica APCS No. 38*, (1983).

K. Takagi, Y. Ichikawa and K. Nagata: Changes in  $K^+$ ,  $Na^+$ -sensitive actin gelation factor during the differentiation of myeloid leukemia cells. *J. Biochem.* 97, 605-616, 1985.

K. Nagata, K. Takagi, T. Hashida and Y. Ichikawa: A monovalent cation-sensitive actin-binding factor in a myeloid leukemia cell line. *Cell Struc. Funct.* 10, 105-120, 1985.

細菌血清学部門

〔学 会 発 表〕

細野正道, 稲葉カヨ, 矢野勝喜, 桂 義元, 村松 繁: 自己T細胞刺激性脾細胞の加齢に伴う出現: 同系 Host-versus-Graft 反応による刺激細胞の同定. 第8回日本基礎老化学会, 昭59年6月, 京都.

- 隅田幸男, 衛藤佐代子, 森重福美, 桂 義元: 162症例の進行固形癌に対する凍結自家骨髄移植術併用による多剤強力化学療法の臨床成績. 第32回日本輸血学会総会, 昭59年6月, 仙台.
- Sumida, S., Morishige, F. and Katsura, Y.: Megadosis chemotherapy and autologous marrow transplantation in 108 patients with advanced solid tumor. 18th Congress of the International Society of Blood Transfusion. July, 1984, Germany.
- Sumida, S., Morishige, F., Nakamura, T. and Katsura, Y.: Immune responses after cryosurgery in advanced unresectable solid cancer patients. 21st Annual Meeting of Society for Cryobiology. August, 1984, U.S.A.
- 高橋清人, 行徳淳一郎, 雨貝 孝, 前田道行, 内山 卓, 淀井淳二, 隅田幸男, 桂 義元: 骨髄細胞中に混在する ATL 白血病細胞を選択的に殺す方法. 第43回日本癌学会総会, 昭59年10月, 福岡.
- 喜納辰夫, 西川伸一, 高沖悠子, 桂 義元, 雨貝 孝: 胸腺内におけるヘルパー系T細胞の分化, 第53回実験結核研究会総会, 昭59年10月, 京都.
- 雨貝 孝, 西川伸一, 喜納辰夫, 桂 義元: 骨髄細胞からのキラー系胸腺細胞の分化: T-stem 細胞の存在. 同上学会.
- 隅田幸男, 森重福美, 中村孝秀, 桂 義元: 凍結自家骨髄移植法. 第11回日本低温医学研究会総会, 昭59年11月, 福井.
- 桂 義元, 高橋清人, 内山 卓, 隅田幸男: 骨髄中に混在するがん細胞を選択的に取り除く方法の基礎的研究. 同上学会.
- 桂 義元, 西川伸一, 喜納辰夫, 雨貝 孝, 山下 昭, 佐渡敏彦: 放射線の部分照射 (part body irradiation) によるT細胞分化の解析. 第14回日本免疫学会総会, 昭59年12月, 大阪.
- 細野正道, 桂 義元: クラスII反応性胸腺細胞における免疫寛容のMHC 拘束性. 同上学会.
- 西川伸一, 喜納辰夫, 雨貝 孝, 桂 義元: B細胞の初期分化の場に関する研究. 同上学会.
- 喜納辰夫, 雨貝 孝, 高沖悠子, 桂 義元: ヘルパーT細胞活性のポリクローナルな検出法の開発とそのT細胞機能分化の解析への応用. 同上学会.
- 鏑田武志, 西川伸一, 桂 義元, 浜島義博, 熊谷俊一, 井村裕夫: 自己抗体産生クローンの選択——lupus prone マウスと正常マウスの相違について——. 同上学会.
- 雨貝 孝, 西川伸一, 喜納辰夫, 高沖悠子, 今西二郎, 桂 義元: 胸腺におけるキラー系T前駆細胞の分化の解析. 同上学会.

## 〔誌 上 発 表〕

- 隅田幸男, 森重福美, 桂 義元: 骨髄移植の現況と展望—特に進行固形癌に対する大量化学療法の支持療法として. 臨床胸部外科, 39(4), 503-515, 1984.
- 隅田幸男, 森重福美, 茂幾俊武, 梅本真三夫, 大谷 肇, 桂 義元: 173症例の進行固形癌に対する凍結自家骨髄移植術併用による強力化学療法の手術, 適応および問題点. 日臨外, 45回特集号, 267-268, 1984.
- Sumida, S., Eto, S., Morishige, F., Nakamura, T., Sakai, Y., Arima, T. and Katsura, Y.: High-dose chemotherapy with frozen autologous marrow transplantation in patients with poor-prognosis tumors. Japan. J. Clin. Oncol. 14, 553-562, 1984.
- Hosono, M., Katsura, Y. and Muramatsu, S.: Ontogeny of antigen-presenting activity of haptenized cells in mice: early development of syngeneic T cell-stimulatory cells in thymus. Immunology, 51, 161-168, 1984.
- Hosono, M., Fujiwara, M. and Katsura, Y.: Induction of syngeneic Host-versus-Graft reaction by radioresistant adherent cells in normal recipients. Mech. Ageing and Dev. 24, 197-210, 1984.
- Hosono, M. and Muramatsu, S.: Differential distribution of tolerogenic bovine  $\gamma$ -globulin in lymphoid tissues. Japan. J. Exp. Med. 54, 153-157, 1984.
- Hosono, M., Inaba, K., Yano, K., Katsura, Y. and Muramatsu, S.: Autostimulatory adherent cells in the spleen of aging mice: characterization in the syngeneic Host-versus-Graft reaction. Mech. Ageing and Dev. 28, 67-81, 1984.

Nishikawa, S., Kina, T., Gyotoku, J. and Katsura, Y.: High frequency of  $\lambda$  gene activation in bone marrow pre-B cell. *J. Exp. Med.* 159, 617-622, 1984.

Nishikawa, S.: Idotypic determinants used in the analysis of antibody diversification and as regulatory targets. *Annals of the New York Academy of Sciences*. Vol. 418, Immune Networks. (by Bona, C.A. and Kohler, H.) The New York Academy of Sciences, 121-129, 1983.

西川伸一: B細胞の repertoire とその選択. 代謝, vol. 20 臨時増刊号, “免疫’83”, 中山書店, 55-62, 1983.

西川伸一: Bリンパ球レパトアーとその選択. 細胞工学, 1.3(1), 13-20, 1984.

Kina, T., Yano, K. and Katsura, Y.: Changes in delayed-type hypersensitivity and helper function activities of T cell lines and clones during long-term culture. *Asian Pacific J. of Allergy and Immunol.* 2(1), 67-73, 1984.

### 〔著 書〕

桂 義元: 遅延型アレルギーとしてのツベルクリンアレルギーと今後の課題. ツベルクリン反応——その新しい考え方——(泉 孝英編著), 中外医学社, 185-201, 1984.

桂 義元: 種々の目的のための免疫法, 実験生物学講座, (14) 免疫生物学(村松 繁, 増田 徹, 桂 義元編), 丸善, 189-194, 1984.

細野正道: 細胞傷害試験. 同上, 321-330, 1984.

喜納辰夫: 抗原特異的リンパ球クローン. 同上, 433-436, 1984.

喜納辰夫: 抗イデオタイプ抗体. 同上, 437-439, 1984.

雨貝 孝, 桂 義元: ラジオイムノアッセイ. 同上, 105-111, 1984.

雨貝 孝, 西川伸一: 生物学的微量測定法, 同上, 112-121, 1984.

## 臨床肺生理学

### 〔学 会 発 表〕

中川正清, 三嶋理晃, 平林正孝, 川上賢三, 久野健志, 東谷康治: 呼吸器疾患における肺内の血流停滞に関する研究 (1)方法について. 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和58年度総会, 1984. 2.

中川正清, 三嶋理晃, 平林正孝, 川上賢三, 久野健志, 東谷康治: 呼吸器疾患における肺内の血流停滞に関する研究(2)結果について. 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和58年度総会, 1984. 2.

Yuichi ISHIBE, Keita SUEKANE, Masato NAKAMURA, Takashi UMEDA: Quantitative measurement of pulmonary edema with double indicator dilution method using cooled saline in dogs. 8th. World congress of anesthesiologist. MANILA, 1984.

大井元晴, 平井正志: 睡眠時呼吸異常, 昭和58年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会, 1984. 1.

加藤幹夫: 救命救急処置, 呼吸不全, 日本胸部外科学会, 第18回卒後教育セミナー, 1984. 1.

陳 和夫, 鍵岡 均, 田中瑩子, 藤田正憲, 室本 仁: 高熱を伴ない, 左<sup>s6</sup>初発後, 両肺に不連続に伸展を来したびまん性陰影肺の1例, 第24回びまん性肺疾患研究会, 1984. 2.

陳 和夫, 田中瑩子, 藤田正憲, 室本 仁, 倉田正彦: 切除後約7年6ヶ月に他側肺転移を認めて再手術を行なった肺腺癌の1例, 第40回日本肺癌学会関西支部会, 1984. 2.

市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 山岡久泰, 留守信興: 75才以上の肺癌の肺切除例について, 第40回日本肺癌学会関西支部会, 1984. 2.

石部裕一, 中村正人, 佐川弥之助: 血管外肺水分量の定量的診断法, 国立循環器センター委託研究, 肺水腫の成因と治療に関する研究班総会, 1984. 2.

大井元晴, 平井正志, 山岡新八, 鎌苅邦彦, 梅宮正志, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 慢性呼吸不全の睡眠時呼吸異常, 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和58年度総会, 1984. 2.

平井正志, 大井元晴, 山岡新八, 鎌苅邦彦, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 睡眠時呼吸異常に対する酸素吸入の効果,

厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和58年度総会, 1984. 2.

Dr. Arnold Sladen, ピッツバーグ大学教授: High-Frequency-Jett-Ventilation, 1984. 2.

R. M. Cherniack M. D., Prof. & Vice Chairman Department of Medicine University of Colorado: Interstitial lung disease, 1984. 3.

N. S. Cherniack M. D., Prof. of Medicine & Physiology Case Western Reserve University: Control of breathing during sleep, 1984. 3.

石部裕一: シンポジウム「肺水腫の発生機序」肺内水分量からみた実験的肺水腫の発生機序——急性再膨張性肺水腫を中心として, 第24回日本胸部疾患学会総会, 1984. 4.

平井正志, 大井元晴, 山岡新八, 平林正孝, 加藤幹夫, 佐川弥之助, 仲田裕行: 正常例における睡眠時の胸部, 腹部の呼吸運動変化, 第24回日本胸部疾患学会総会, 1984. 4.

李 泰興, 佐藤公彦, 佐川弥之助: Hyperoxia におけるラット肺組織中の SOD と GSHpex 活性の変動と Vitamin E の関与に関する研究, 第24回日本胸部疾患学会総会, 1984. 4.

東谷康治, 三嶋理晃, 川上賢三, 平林正孝, 中川正清, 久野健志: 呼吸器疾患における肺循環時間遅延に関する研究 (ラジオアイソトープを用いた新しい測定法の検討), 第24回日本胸部疾患学会総会, 1984. 4.

大井元晴, 平井正志: 慢性呼吸不全の睡眠時呼吸異常, 第24回日本胸部疾患学会総会, シンポジウムⅢ, 睡眠と呼吸, 1984. 4.

加藤幹夫: シンポジウム睡眠と呼吸司会発言, 第24回日本胸部疾患学会総会, 1984. 4.

橋本賢治, 安田隆三郎, 他: 心タンポナーデで発症した無痛性解離性大動脈瘤 (De BAKEY I型) の1症例, 第17回滋賀県循環器疾患研究会, 1984. 5.

平井正志, 大井元晴, 山岡新八, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 睡眠時低呼吸に対する気管切開の効果, 第4回京阪神肺機能研究会, 1984. 5.

陳 和夫, 久保勝彦, 他: 腰痛, 腎不全, 消化管出血をきたした成人 Schenlein-Henoch 紫斑症の1例, 北野病院々内集談会, 1984. 6.

陳 和夫, 藤川 潤, 久保勝彦: 北野病院における CA-19-9成績, 北野病院々内集談会, 1984. 6.

高木謹有, 陳 和夫, 田中瑩子, 倉田昌彦, 室本 仁: Clinical study of the patients with haemosputum under fiberoptic bronchoscopy, IV World Congress for Bronchology (ローマ) 1984, 6.

倉田昌彦, 藤田正憲: 重症筋無力症と純赤芽球性貧血を合併した胸腺腫症の2例, 第27回日本胸部外科学会関西西地方会, 1984. 6.

佐藤友信, 陳 和夫, 田中瑩子, 鍵岡 均, 室本 仁: CA-19-9 の高値で発見された肺 mucoepidemoid carcinoma の1例, 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 6.

坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 佐々木正道: 食道平滑筋腫の一手術例, 第27回日本胸部外科学会関西西地方会, 1984. 6.

市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 佐々木正道: Primary pulmenary Iymphoma の1例, 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 6.

三嶋理晃, 川上賢三, 平林正孝, 中川正清, 東谷康治, 久野健志: ランダム波オシレーション法による呼吸インピーダンスの周波数特性の解析, 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984; 6.

平林正孝, 川上賢三, 三嶋理晃, 中川正清, 久野健志, 武田善樹: 当院に於て経験されたいわゆるびまん性汎細気管支炎7例の臨床的検討, 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 6.

石部裕一, 中村正人, 佐川弥之助: 急性肺水腫の1例, 国立循環器病センター委託研究, 肺水腫の成因と治療に関する研究班総会, 1984. 6.

越久仁敬, 佐藤公彦, 佐川弥之助, 竹田俊男, 鈴木康弘, 樋口佳代子 (病理), 北市正則 (2内), 黒住真史, 山根すま子 (検査部): 肺原発の multifocal extramedullary plasmacytoma の1例, 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 6.

鎌苅邦彦, 平井正志, 大井元晴, 佐川弥之助, 北市正則, 金地研二, 大熊 稔, 戸田憲一: 肺線維症を伴った Hermansky-Pudlak 症候群の1例, 第23回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 6.

- Paul S. Satoh・Ph. D., America Upjohn Research Manager: A R D S と補体, 1984. 6.
- 佐川弥之助: 肺癌の臨床, 宇治医師会学術講演会, 1984. 7.
- 平林正孝, 川上賢三, 三嶋理晃, 中川正清, 大原 修, 久野健志, 武田善樹: 腫瘍内貯留液 CEA 高値を示した良性奇形腫の1例, 第41回日本肺癌学会関西支部会, 1984. 7.
- 三嶋理晃, 川上賢三, 平林正孝, 中川正清, 東谷康治, 安井浩明, 久野健志, 佐川弥之助: Body Box を用いたランダム波オシレーション法による呼吸インピーダンスの解析: 第4報——解析システムの妥当性の検討——特に線型性について, 第29回閉塞性疾患研究会, 1984. 7.
- 陳 和夫, 田中瑩子, 室本 仁, 倉田昌彦: 気管支鏡による血痰患者の検討, 第7回日本気管支学会総会, 1984. 7.
- 鍵岡 均, 陳 和夫, 田中瑩子, 倉田昌彦, 室本 仁: 遠隔転移により発見された肺野型小型肺癌(最大径2.0cm以下)の2例, 第41回日本肺癌学会関西支部会, 1984. 7.
- 加藤幹夫: 肺疾患連続講座(第1回~第6回)主催東淀川区医師会, 東淀川区医師会肺疾患研究会, 1984. 7. 9. 11.
- 川上賢三, 三嶋理晃, 平林正孝, 中川正清, 東谷康治, 久野健志: Body Box を用いたランダム波オシレーション法による呼吸インピーダンスの解析, 第2回呼吸管理研究会, 1984. 8.
- 加藤幹夫: 肺循環の調節, 基礎麻酔学セミナー, 近畿麻酔科医会主催, 1984. 8.
- 加藤幹夫: 血液ガス・酸塩基調節, 第24回臨床肺機能講習会, 1984. 8.
- 佐川弥之助, 肺癌の臨床, 岐阜医師会学術講演会, 1984. 9.
- 高橋睦長, 新屋久幸, 坪井裕志, 弘野慶次郎, 市谷勉雄, 佐々木正道: 原因不明熱, 多発性関節痛の他多彩な症状の寛解期に発現したびまん性肺陰影の1例, 第26回びまん性肺疾患研究会, 1984. 9.
- 小田原健一, 安田隆三郎, 李 泰興, 吉田 仁, 他: 冠動静脈瘻の3症例, 第19回京滋奈良循環器懇話会, 1984. 9.
- 倉田昌彦, 陳 和夫, 鍵岡 健, 田中瑩子, 室本 仁: III期肺癌の手術適応, 第25回日本肺癌学会総会, 1984. 10.
- 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 高橋睦長: 肺癌の治療前臨床分類と術後組織分類との相違について, 第25回日本肺癌学会総会, 1984. 10.
- 高橋睦長, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志: 肺ジストマの2例, 第136回近畿外科学会, 1984. 10.
- 佐川弥之助: 肺機能検査法, 尼崎医師会内科医会, 1984. 11.
- 川上賢三, 平林正孝, 三嶋理晃, 中川正清, 陳 和夫, 久野健志, 竹田俊男, 武田善樹: 自然気胸手術の摘出標本中に極く早期の腺癌と思われる高度の異型性を認めた1例, 第24回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 11.
- 平林正孝, 川上賢三, 三嶋理晃, 中川正清, 久野健志: Wegener 肉芽腫症の1例, 第24回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 11.
- 陳 和夫, 鍵岡 均, 田中瑩子, 室本 仁: 肺癌症例における CA-19-9 の検討, 第24回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 11.
- 渡田正二, 安田隆三郎, 李 泰興, 吉田 仁, 他: 心臓再手術6症例の検討, 第18回滋賀県循環器疾患研究会, 1984. 11.
- 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 高橋睦長: 術前の肺機能検査と肺切除後の合併症との関係について(高令者と若年者との比較において), 第20回日本赤十字社医学会, 1984. 11.
- 弘野慶次郎, 高橋睦長, 坪井裕志, 市谷勉雄, 栗本興一: 左 SVC を伴った肺静脈瘤の1例, 第24回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 11.
- 坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎: Tracheopathia osteoplastica の1例, 第23回近畿気管支鏡懇話会, 1984. 11.
- 平井正志, 大井元晴, 鎌苅邦彦, 久野健志, 佐川弥之助: 減量により夜間酸素飽和度の改善をみた閉塞型無呼吸症候群の1例, 第24回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 11.
- 越久仁敬, 李 勝弘, 佐藤公彦, 久野健志, 佐川弥之助, 佐野 求: 縦隔腫瘍と鑑別困難であったリンパ節結核の一例, 第24回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1984. 11.

- 加藤幹夫：呼吸不全の病態と管理，第7回医学学術講演会，高槻医師会主催，1984.11.
- 田中瑩子，陳 和夫，鍵岡 均，室本 仁：限局性肺 Wegener 肉芽腫症の一剖検例，日本内科学会近畿地方会，1984.12.
- 陳 和夫，久保勝彦：眼窩に転移をきたした肝細胞癌の2例，第19回日本肝臓学会西部会，1984.12.
- 加藤幹夫：酸塩基平衡，実践肺機能講座，1984.12.
- 鎌苅邦彦，堀川禎夫，大井元晴：小細胞癌に対する VP<sub>16</sub> の使用経験，第7回京都大学結核胸部疾患研究所臨床肺生理学部門研究会，1984.12.
- 福永隆文，島田一恵，安田隆三郎：プロゲステン製剤の Daphston の著効した Grawitz' tumor の1例，同上.
- 平林正孝，川上賢三，三嶋理晃，中川正晴，陳 和夫，安井浩明，久野健志：当院（兵庫県立塚口病院）に於ける BAI 施行症例の検討，同上.
- 水谷 哲，岩田岳士，山岡新八，李 勝弘：肺胞蛋白症の一例——CT 値による評価——，同上.
- 佐野 求：respirator により救命し得た慢性呼吸不全急性増悪の二症例，同上.
- 島田一恵，福永隆文，安田隆三郎：皮膚筋炎患者にみられた急性呼吸不全の一例，同上.
- 石部裕一，中村正人，泉 隆文，榎田高士，末包慶太：Hypoxic pulmonary vasoconstriction に対する吸入麻酔薬の影響，同上.
- 池田和人，陳 和夫，藤川 潤，鍵岡 均，高山康夫，藤田 準，田中瑩子，久保勝彦，室本 仁，倉田昌彦，佐藤友信，杉山武敏：mucoepidermoid carcinoma の二例，同上.
- 東谷康治，三嶋理晃，川上賢三，平林正孝，中川正清，久野健志：Gamma-11 による Xe<sup>133</sup> 持続注入法の画像処理プログラムの開発，同上.
- 三嶋理晃，東谷康治，川上賢三，平林正孝，中川正清，久野健志：body box を用いたランダム波オシレーション法による呼吸インピーダンスの解析，同上.
- 安井浩明，吉田龍太郎，中川正清，三嶋理晃，川上賢三，平林正孝，久野健志，陳 和夫：病態時のヒト肺におけるインドールアミン酸素添加酵素の誘導，同上.
- 大成功一：中心静脈カテテルを用いた胸腔持続ドレナージの検討，同上.
- 弘野慶次郎，市谷勉雄，稲葉宣雄，鍵岡 朗：左 SVC 遺残をともなった肺静脈瘤の1例，同上.
- 関川利幸：エンドトキシン投与時の生化学的研究——過酸化脂質の産生とこれに及ぼす抗酸化剤の効果を中心として，同上.

## 〔誌 上 発 表〕

- 弘野慶次郎，市谷勉雄，坪井裕志：真性赤血球増加症合併肺癌の手術経験，外科治療，27：88～94，1984.
- 中川正清，三嶋理晃，平林正孝，川上賢三，久野健志，東谷康治：呼吸器疾患における肺内の血流停滞に関する研究(1)方法について，厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和58年度研究業績集，1984.
- 中川正清，三嶋理晃，平林正孝，川上賢三，久野健志，東谷康治：呼吸器疾患における肺内の血流停滞に関する研究(2)結果について，厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和58年度研究業績集，1984.
- 室本 仁，杉山武敏：病理解剖における誤診例の検討：日本医師会雑誌92(12)：2137～40，1984.
- 平井正志，大井元晴，山岡新八，鎌苅邦彦，加藤幹夫，佐川弥之助：睡眠時呼吸異常に対する酸素吸入の効果，厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和58年度研究業績集，1984.
- 大井元晴，平井正志，山岡新八，鎌苅邦彦，梅宮正志，加藤幹夫，佐川弥之助：慢性呼吸不全の睡眠時呼吸異常，厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和58年度研究業績集，1984.
- 佐川弥之助：肺水腫，Medical Technology，12：386，1984.
- 佐川弥之助：肺循環——血管外肺水分量の測定法，麻酔と Réanimation セミナー，1984.
- 佐川弥之助：メディカルトピックス，急性肺水腫，医学のあゆみ，129：1031，1984.
- 大井元晴，平井正志，山岡新八，平林正孝，加藤幹夫，佐川弥之助，仲田裕行：睡眠時呼吸異常，日本胸部臨床43：7-14，1984.
- 大井元晴，平井正志，加藤幹夫，久野健志：呼吸刺激剤，呼吸 3：662～672，1984.

- 平井正志, 大井元晴: 代謝性の異常——代謝性アルカローシス, *Medicina* 21, 5: 795-797, 1984.
- 佐野 求, 加藤幹夫: 呼吸系に作用する薬, 周術期の薬と使い方, 第16章, 南山堂, 369-389, 1984.
- 加藤幹夫: 息切れのメカニズム, *循環科学* 4: 24-29, 1984.
- 加藤幹夫: 血管造影, 診断シリーズ XV 肺性心, *現代医療* 16: 53-58, 1984.
- 坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 加藤幹夫, 呉山基勲: 肺手術前後の rib cage motion の変化, *呼と循* 32: 45-52, 1984.
- 加藤幹夫: 呼吸不全患者の手術と呼吸管理, *呼吸* 3: 1045-1050, 1984.
- 加藤幹夫: 血液ガスの測定法, *臨床医* 10: 42-44, 1984.
- 石部裕一: 虚脱肺の急速再膨張が肺内水分量および肺循環に及ぼす影響の実験的検討. *日本胸部疾患学会雑誌*, 20(12), 1077~1083, 1984.
- 石部裕一, 末包慶太: 肺内水分量の測定法と問題点, *ICU と CCU* 8: 177~187, 1984.
- 石部裕一, 泉 貴文, 佐々木柁綱, 宮本和之, 中村正人, 奥田隆彦, 末包慶太: 食道癌手術の術後呼吸循環動態と合併症の発生に及ぼす影響の検討, *ICU と CCU* 8: 609~616, 1984.
- 石部裕一: 解説, 心拍出量の測定, *呼吸* 3: 879~885, 1984.
- 佐藤公彦, 久野健志: 肺水腫の病理, *循環制御*, 第5巻第2号, 1984.
- 石部裕一, 佐々木柁綱, 宮本和之, 中村正人, 末包慶太: 心臓麻酔時の体外循環離脱期における DOP-50 注投与の効果, *新薬と臨床*, 33: 389-396, 1984.
- 坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎: 肺手術前後の rib cage motion の変化, *呼吸と循環*, 32: 45~52, 1984.
- 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志: Ceftrizoxime (CZX) の肺組織内移行に関する研究, *臨床と研究*, 61: 313~316, 1984.
- 弘野慶次郎, 市谷勉雄, 坪井裕志, 山本 暁: 気管支結石症の1例報告と文献的考察, *日本胸部臨床*, 43: 314~319, 1984.
- 越久仁敬, 佐藤公彦, 久野健志, 佐川弥之助, 竹田俊男, 鈴木康弘, 樋口佳代子(病理): 肺に原発した plasmacytoma の1例, *呼吸* 3(10), 1329~1332, 1984.

## 薬 剤 部 門

### [学 会 発 表]

- 斉藤 寛, 中島寿々代, 御船正樹, 尾堂順一, 田中善正, 千熊正彦, 田中 久: 金属ポルフィリン担持陰イオン交換樹脂の peroxidase 様活性. 第2回金属の関与する生体関連反応シンポジウム, (1984. 6. 京都).
- 桜井 弘, 田中 久, 中山守雄, 千熊正彦: Se-77 NMR 法によるチオールアミノ酸と Se(IV) との反応におけるセレノトリスルフィドの生成の証明. 第7回含硫アミノ酸研究会, (1984. 8. 京都).
- 斉藤 寛, 里内美津子, 川口輝久, 御船正樹, 尾藤順一, 田中善正, 千熊正彦, 田中 久: カタラーゼ様活性を有する金属ポルフィリン担持樹脂によるメタノールの酸化. 第34回錯塩化学討論会, (1984. 10. 長岡).
- 斉藤 寛, 中山宏美, 御船正樹, 田中善正, 千熊正彦, 田中 久: Peroxidase 様作用を有する Mn-tetrakis (sulfophenyl) porphine 担持樹脂の応用. 日本分析化学会第33年会, (1984. 10. 名古屋).
- 中山守雄, 右近邦郎, 田中共生, 千熊正彦, 田中 久: Bismuthiol-II sulfonate を用いた極微量 Se(IV) 及び(VI) の分離濃縮法の開発. 日本分析化学会第33年会, (1984. 10. 名古屋).
- 川勝一雄, 千熊正彦, 川合 満: テオフィリン連続投与時の体内動態に及ぼすトラニラストの影響. 第34回日本薬学会近畿支部大会, (1984. 11. 西宮).
- 斉藤 寛, 中山宏美, 御船正樹, 田中善正, 田中 久, 千熊正彦: Peroxidase の代わりに Mn-TPPS 担持樹脂を用いたコレステロールの定量. 第23回日本薬学会四国支部大会, (1984. 11. 岡山).
- 田中 久, 中川照真, 千熊正彦, 後藤浩利, 田中共生, 三位信夫, 今田勝美, 山本隆司: 含硫キレート生成型樹脂による写真廃液からの銀回収(第2報). 日本写真学会昭和59年度秋季大会, (1984. 11. 京都).

## 〔誌 上 発 表〕

Nakayama, M., Itoh, K., Chikuma, M., Sakurai, H., and Tanaka, H.: A new functional resin for the selective collection of selenium (IV) prepared by the conversion anion-exchange resin with bismuthiol-II. *Talanta*, 31(4), 269-274 (1984).

Saito, Y., Nakashima, S., Mifune, M., Odo, J., Tanaka, Y., Chikuma, M., and Tanaka, H.: Peroxidase-like activity of anion-exchange resins modified with metallo-porphyrins. *J. Pharmaco-Dynamics*, 8, s-15 (1985).

Itoh, K., Nakayama, M., Chikuma, M., and Tanaka, H.: Separation and determination of selenium(IV) in environmental water samples by an anion-exchange resin modified with bismuthiol-II and diamionaphthalene fluorophotometry. *Fresenius Z. Anal. Chem.*, 321, 56-60 (1985).

桜井 弘, 田中 久, 中山守雄, 千熊正彦: Se-77 NMR 法によるチオールアミノ酸と Se(IV) との反応におけるビスチオセレニドの検出。含硫アミノ酸, 7, 215-219 (1984).

大島駿作, 千熊正彦: 免疫抑制剤. 呼吸, 3(10), 1300-1303 (1984).

小林千代子, 川勝一雄: 特殊製剤——0.3%リファンピシン注射液. *Drug News*, No. 40, 44~45 (1984).

川田昌子: 特殊製剤——ポリミキシンB軟骨. *Drug News*, No. 41, 43 (1985).

川合 満, 川勝一雄: キサンチン誘導体. *Pharma Medica*, 3(2), 47-57(1985).

川合 満, 千熊正彦: Mucoregulator と mucolubricant. *ファルマシア*, 21(2), 139-143 (1985).

## 〔著書 (分担執筆)〕

Tanaka, H., Nakayama, M., Chikuma, M., Tanaka, T., Itoh, K., and Sakurai, H.: Selective collection of selenium(IV) from environmental water by functionalized ion-exchange resin. "Chemistry for Protection of the Environment", (ed. by Pawlowski, L., Verdier, A. J., and Lacy, W. J.), Elsevier, Amsterdam, 1984. pp. 365-372.

## 〔そ の 他〕

千熊正彦: シスプラチンの化学的性質について. 第19回京大癌研究会, (1984. 6. 8. 京都).

千熊正彦: 含硫キレート生成型樹脂による写真処理廃液からの銀回収. 新写真用薬に関する研究会, (1984. 11. 15. 京都).